

平成 26 年度 第 1 回大台ヶ原の利用に関する協議会 議事次第

日時：平成 27 年 2 月 19 日(木)12:15～14:15

場所：川上村役場 2 階 第一会議室

1 開会

2 議事

- (1) 大台ヶ原の利用に関する調査結果について
- (2) 大台ヶ原におけるガイド制度について
- (3) 大台ヶ原におけるトイレ設置について
- (4) 標識等の多言語化について
- (5) 平成 27 年度西大台利用調整地区の運用計画について
- (6) 大台ヶ原における自然再生の取組みについて（ニホンジカ個体数調整）
- (7) その他

3 閉会

○ 配布資料

議事次第

出席者名簿

座席表

資料 1 :大台ヶ原の利用動向

資料 1－2 : 山上駐車場の駐車台数と路肩駐車が発生状況について

資料 2 : 西大台利用調整地区の利用者アンケート結果

資料 3 : 大台ヶ原におけるガイド制の基本的な方向性

資料 3－2 : 大台ヶ原のガイド制について（参考資料）

資料 4 : 大台ヶ原におけるトイレ設置の検討

資料 5 : 大台ヶ原における標識等の多言語化について

資料 6 : 平成 27 年度西大台利用調整地区の運用計画（案）

資料 7 : 大台ヶ原におけるニホンジカ個体数調整

出席者名簿

国土交通省近畿運輸局	(ご欠席)
林野庁近畿中国森林管理局	三重森林管理署 (ご欠席)
奈良県地域振興部	南部東部振興課 (ご欠席)
奈良県くらし創造部景観・環境局	景観・自然環境課 深見 昭一 係長 田垣内 政信 主任技能員
奈良県県土マネジメント部	吉野土木事務所用地管理課 西浦正明 主幹 南 雅也 管理係長 吉野土木事務所上北・下北復旧復興課 島岡 誠 上北山方面係長
奈良県警察吉野警察署	河合駐在所 石井 克明 警部補
三重県農林水産部	みどり共生推進課 自然公園班 渡辺 慎一 主査
上北山村	建設産業課 遠藤 学 主幹
川上村	地域振興課 松本 勝典 主任
大台町	産業課 寺添 幸男 課長
上北山村議会	新谷 五男 経済委員長
上北山村観光協会	更谷 昌美 会長
上北山村区長会	森脇 郁雄 会長
上北山村漁業協同組合	上古代 守道 副組合長
上北山村商工会	中谷 守孝 会長
上北山村山岳救助隊	(ご欠席)
奈良県猟友会上北山支部	新谷 五男 副支部長
(財) グリーンパークかわかみ	(ご欠席)
奈良県勤労者山岳連盟	由良 行基周 自然保護委員

奈良県山岳連盟	野田 健司	理事（自然保護）
三重県山岳連盟	門山 信男 根本 幹雄	理事長 副会長
大阪府山岳連盟	（ご欠席）	
近畿日本鉄道株式会社 鉄道事業本部	大阪輸送統括部運輸部事業課 田島 学 課長 西中 正則 花本 美孝	
奈良県タクシー協会	（ご欠席）	
奈良交通株式会社	（ご欠席）	
公益社団法人 日本山岳会関西支部	斧田 一陽	自然保護委員長
特定非営利活動法人 森と人のネットワーク・奈良	岩本 泉治	理事
大台ヶ原パークボランティア の会	（ご欠席）	
ワーク21上北山	福嶋 啓一	会長
吉野きたやま森林組合	森岡 哲也	専務
一般社団法人 心湯治館	城内 勲	代表理事
自然を返せ！関西市民連合	田村 義彦	
大台ヶ原自然再生推進委員会 持続可能な利用（ワイズユース） ワーキンググループ委員	日比 伸子	
〃（大台・大峯植生談話会）	横田 岳人	
環境省近畿地方環境事務所	田村 省二 榎本 和久 蒲池 紀之 中山 良太 宮下 央章	統括自然保護企画官 国立公園・保全整備課長 自然再生企画官 自然保護官 係員
吉野自然保護官事務所	七目木修一 小川 遙	自然保護官 自然保護官補佐
大台ヶ原ビジターセンター	株式会社環境総合テクノス 樋口 高志	福嶋 千草

< 業務受託者 >

(株)スペースビジョン研究所	宮前 洋一 代表取締役 安場 浩一郎
----------------	-----------------------

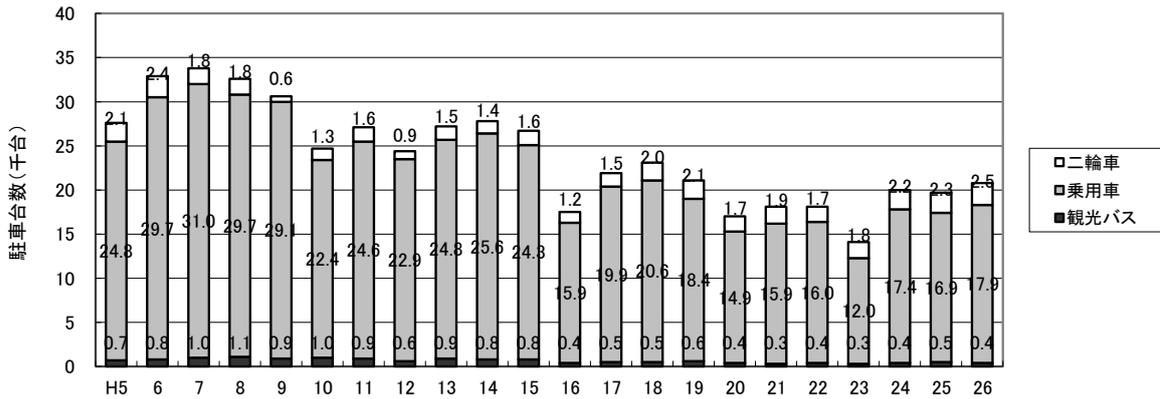
大台ヶ原の利用動向

1. 大台ヶ原の利用動向

(1) 山上駐車場駐車台数の推移

山上駐車場の駐車台数の過去 20 年間の推移をみると、平成 7 年から減少傾向にあり、平成 24 年度以降に大きな変動は見られない。平成 26 年度は、観光バスが 409 台、乗用車が 17,866 台、二輪車が 2,521 台であった。

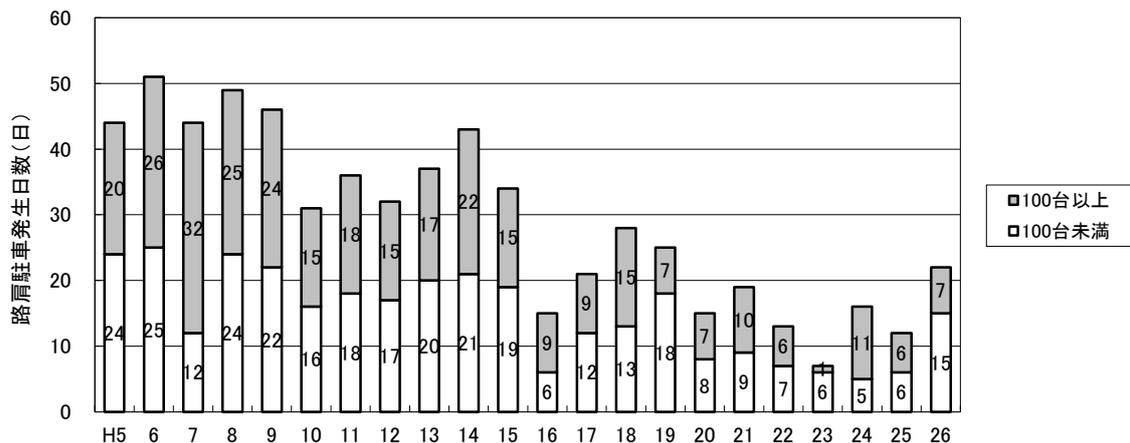
車種区別にみた正午における駐車台数の推移



(2) 路肩駐車発生台数の推移

路肩駐車発生台数の推移をみると、100 台以上の発生日は 7 日であり、過去数年間と同等であったが、100 台未満の発生日は 15 日と、やや増えている。

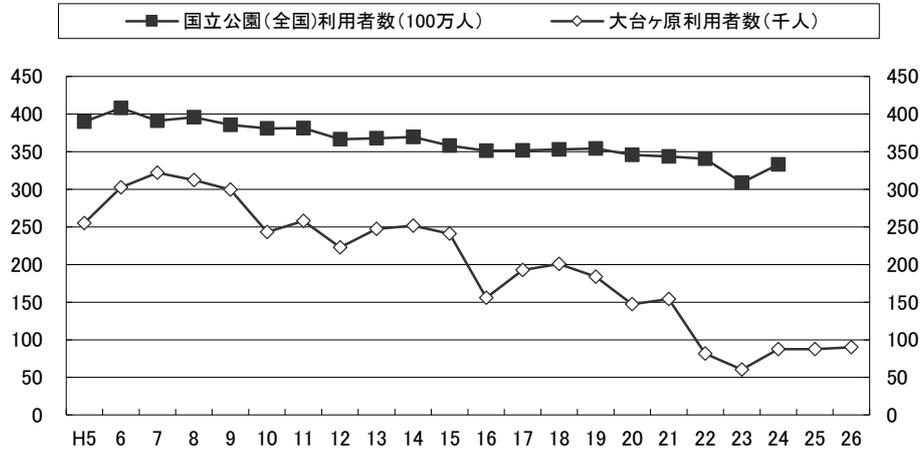
路肩駐車発生台数の推移



(3) 大台ヶ原の利用者数の推移

全国の国立公園利用者数と、大台ヶ原の利用者数の推移をみると、過去 20 年間ではゆるやかに減少傾向にあるが、大台ヶ原の利用者数は、平成 24 年から微増傾向にあり、平成 26 年度は 90,382 人であった。

全国の国立公園と大台ヶ原の利用者数の推移



■従来の推計式 (H5~H21)

推計利用者数=観光バス台数×25人+乗用車台数×3人×3回転+二輪車台数×1.5人

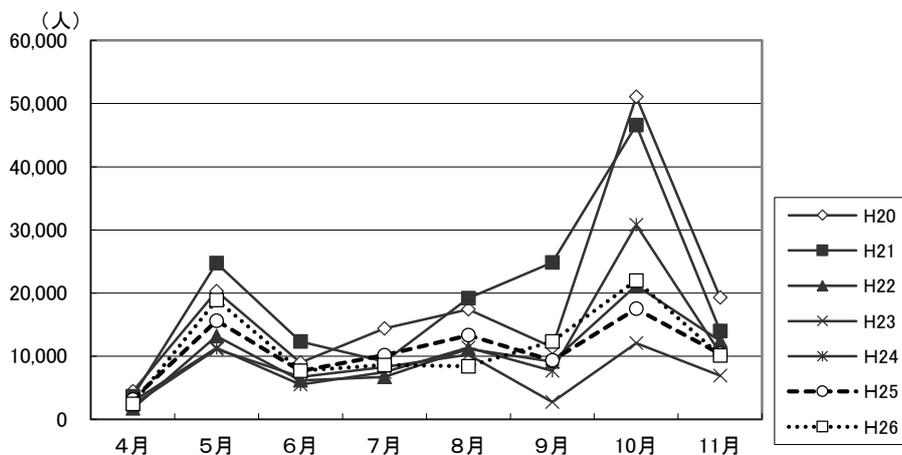
■新しい推計式 (H22~H26)

推計利用者数=観光バス台数×22人+乗用車台数×2.2人×2回転+二輪車台数×1.1人

(4) 大台ヶ原の月別利用者数

大台ヶ原の利用者数の推移を月別にみると、入山者数は10月、5月に多くなっており、この傾向は経年的に見ても変化はない。

月別利用者数の推移

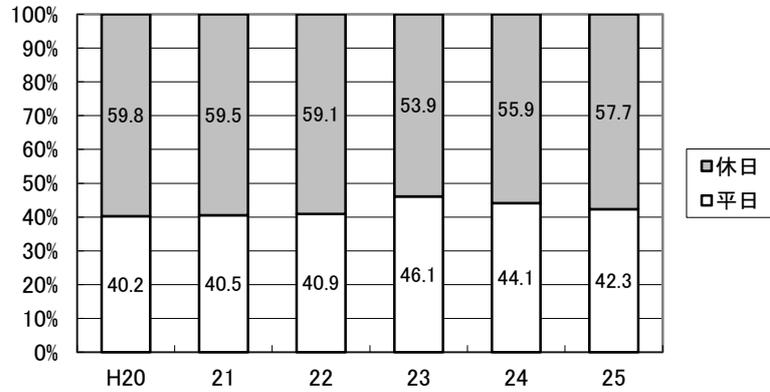


※平成 20～21 年度の利用者数は旧推計式により。平成 22 年度以降の利用者数は新推計式による。

(5) 大台ヶ原の曜日別利用者数

大台ヶ原の曜日別入山者数をみると、休日が6割程度、平日が4割程度であり、この傾向は過年度と変わっていない。

曜日別利用者数割合の推移（H25年まで）

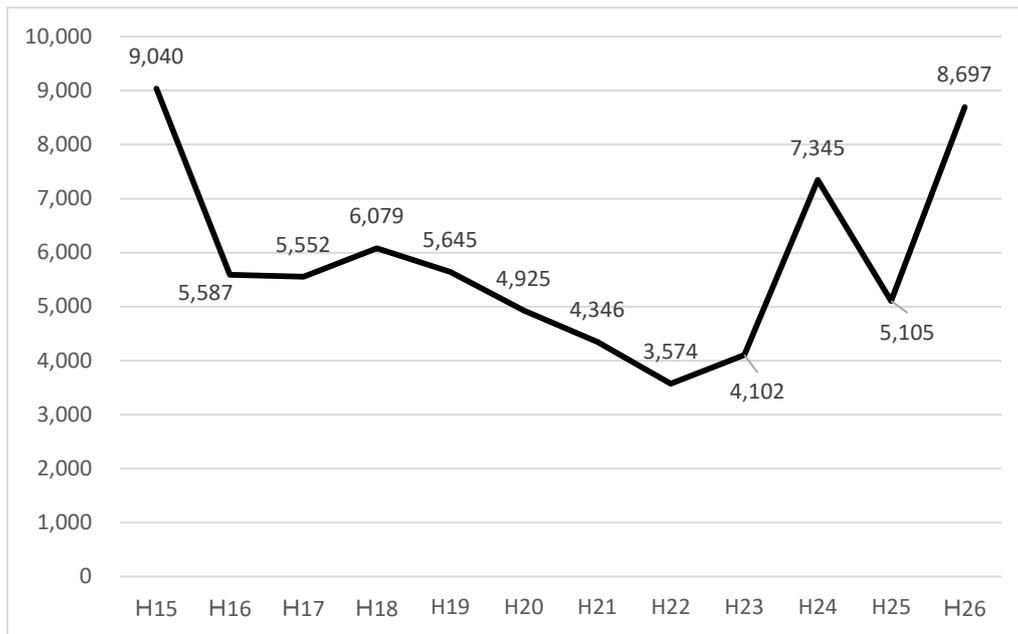


※平成20～21年度の利用者数は旧推計式により。平成22年度以降の利用者数は新推計式による。

(6) 公共交通の利用状況

過去10年間の路線バスの利用者数の推移をみると、平成22年度までは減少傾向にあったが、その後増加し、平成26年度は8,697人であった。なお近鉄からは、例年、割引特典付きの切符が発売されており、平成24年度には奈良交通から「大台ヶ原・洞川周遊フリー乗車券」が発売されたことが利用者増につながったと思われる。

路線バス乗車人数の推移



出典：奈良交通株式会社吉野営業所・葛城営業所資料

※平成15～24年度及び平成26年度は乗車人数（実数値）をカウント。平成25年度は売上金額からの推計値。

2. 西大台利用調整地区の利用状況

(1) 西大台利用調整地区の認定者数の推移

西大台利用調整地区の認定者数の推移をみると、平成26年度は3,225人であり、前年よりやや増加した。

西大台利用調整地区の認定者数の推移

月	認定者数①								推定立入人数							
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
4月	-	55	51	21	56	42	60	109	-	51	43	21	40	42	58	96
5月	-	222	324	260	524	519	636	756	-	188	298	203	430	477	591	699
6月	-	174	118	273	249	281	251	309	-	166	107	240	183	256	230	278
7月	-	88	86	102	154	198	262	270	-	84	74	96	135	183	250	230
8月	-	127	137	153	285	270	370	367	-	121	107	152	264	252	340	300
9月	67	85	87	124	129	275	294	262	52	70	84	117	54	240	199	234
10月	250	304	332	615	512	903	915	866	218	268	286	563	428	839	714	712
11月	135	233	138	160	153	491	366	286	118	208	124	143	132	441	315	237
合計	452	1,288	1,273	1,708	2,062	2,979	3,154	3,225	388	1,156	1,123	1,535	1,666	2,730	2,697	2,786
認定者数に対する割合(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	85.8	89.8	88.2	89.9	80.8	91.6	85.5	86.4

※認定者数は、入山の申請を行い認定された者の数
推定入山者数は、認定者数からキャンセル数等を引くことにより取りまとめた推定値

(2) 西大台利用調整地区の入山者数の推移

西大台利用調整地区の入山者数の推移をみると、平成26年度は2,786人で、昨年よりやや増加し、利用調整地区の運用開始後最も多かった。

西大台利用調整地区の入山者数の推移

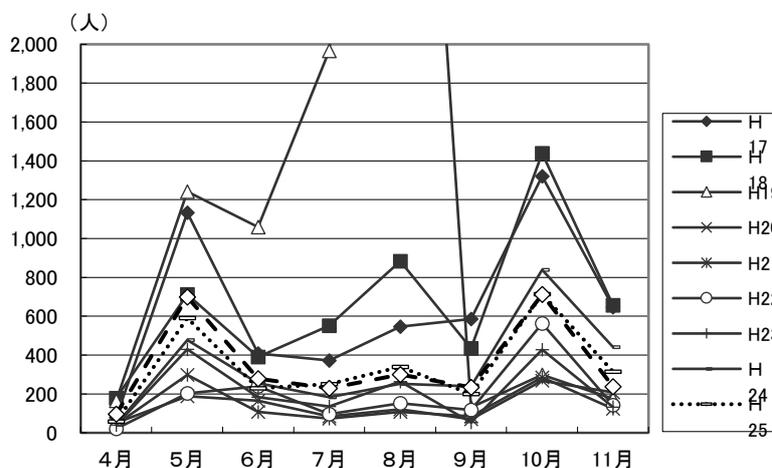
月	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
4月	80	179	166	51	43	21	40	42	58	96
5月	1,134	712	1,242	188	298	203	430	477	591	699
6月	409	390	1,060	166	107	240	183	256	230	278
7月	373	552	1,967	84	74	96	135	183	250	230
8月	546	884	5,550	121	107	152	264	252	340	300
9月	586	434	131	70	84	117	54	240	199	234
10月	1,321	1,439	299	268	286	563	428	839	714	712
11月	647	656	175	208	124	143	132	441	315	237
合計	5,096	5,246	10,590	1,156	1,123	1,535	1,666	2,730	2,697	2,786

※平成17年4月～平成19年8月は入山カウンターによる数値、それ以降は認定者数に基づく推定入山者数

(3) 西大台利用調整地区の月別入山者数

西大台利用調整地区の入山者数の推移を月別にみると、入山者数は10月、5月に多くなっており、この傾向は経年的に見ても変化はない。

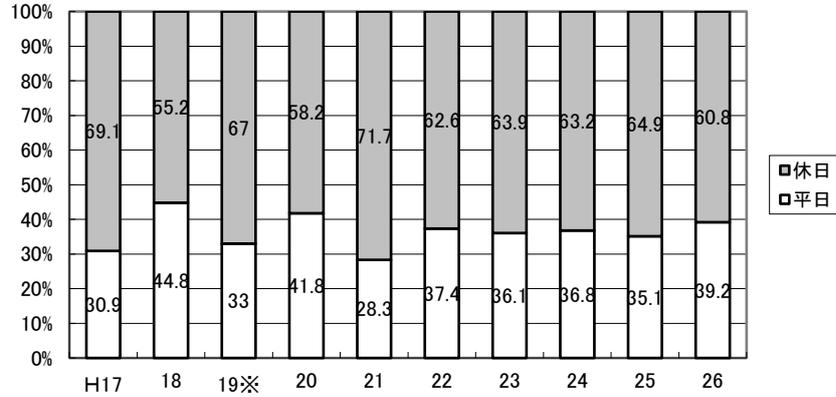
西大台利用調整地区の月別入山者数の推移



(4) 西大台利用調整地区の曜日別入山者数

西大台利用調整地区の曜日別入山者数をみると、休日が60.8%、平日が39.2%であり、この傾向は過年度と変わっていない。

西大台利用調整地区の曜日別入山者数の割合の推移



※平成19年は9～11月の値

(5) 巡視及び違反者等への指導の状況

西大台利用調整地区における巡視、違反者等への指導の状況を見ると、平成21年頃から指導等の件数は減少しており、平成26年度の指導件数は2件、無認定立入の防止は4件程度であった。

年度	区域内における無認定立入者への指導		入口等での無認定立入の防止	
	件数	人数	件数	人数
H19	21	40	34	—
H20	19	32	62	110
H21	6	10	22	46
H22	8	16	20	35
H23	6	8	17	29
H24	6	8	3	5
H25	3	6	20	不明
H26	2	2	4	10

※19年度は9～11月の3ヶ月のみ。

平成 26 年度 大台ヶ原自然再生推進計画 2014 に基づく取組結果

大台ヶ原自然再生推進計画 2014（以下、推進計画 2014）に基づき平成 26（2014）年度に実施した取組結果の概要を報告する。

なお、取組に当たり大台ヶ原自然再生推進委員会のもとに、森林生態系、ニホンジカ保護管理、生物多様性（相互関係）、生物多様性（種多様性）、持続可能な利用（ワイズユース）の 5 つのワーキンググループを設けて検討を進めた。概要は、以下のとおり。

【大台ヶ原自然再生推進委員会・各ワーキンググループの実施概要】

委員会等名称	目的	実施日	検討内容
大台ヶ原自然再生推進委員会	大台ヶ原自然再生推進計画 2014 に基づき近畿地方環境事務所が実施する取組について必要な助言を行う。	第1回 H26.8.25	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の設置 平成 26 年度取組概要 ワーキンググループの設置・スケジュール
		第2回 H27.3.6	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度取組結果報告 平成 27 年度の取組内容 平成 27 年度大台ヶ原自然再生推進委員会のスケジュール
森林生態系ワーキンググループ	林冠ギャップ地、疎林部といった森林更新の場において、後継樹が健全に生育できる森林更新環境を整えるための各種課題等について検討する。	第1回 H26.11.6 (現地検討)	<ul style="list-style-type: none"> 森林更新の場の保全・創出に関する手法の検討
		第2回 H27.1.23	<ul style="list-style-type: none"> 森林更新の場の保全・創出に関する手法の検討 森林更新の場の保全・創出に関する取組の実施状況報告
ニホンジカ保護管理ワーキンググループ	ニホンジカ個体群を適正な生息密度へ誘導・維持することについて検討する。	第1回 H26.10.1 (現地検討)	<ul style="list-style-type: none"> ニホンジカの適正な生息密度を検討するための調査手法の検討 カメラトラップ法を用いたニホンジカの生息密度調査
		第2回 H26.10.28	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度大台ヶ原ニホンジカ個体数調整業務の内容 ニホンジカ個体数調整の結果報告 カメラトラップ法によるニホンジカの生息状況調査結果の中間報告
		第3回 H26.12.22	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度ニホンジカ生息状況調査及び捕獲個体モニタリング調査結果報告 カメラトラップ法によるニホンジカの密度推定とその有効性の検討 平成 27 年度ニホンジカ個体数調整の検討
生物多様性（相互関係）ワーキンググループ	ニホンジカ等による植生の衰退に伴い衰退しつつある動植物の相互関係を調査し、再生する等により、溪流環境、湿地環境等大台ヶ原を特徴づける多様な生態系の保全・再生について検討する。	第1回 H26.9.25	<ul style="list-style-type: none"> 動植物の相互関係を把握するための調査手法の検討
		第2回 H27.1.20	<ul style="list-style-type: none"> 動植物の相互関係を把握するための調査手法の検討
生物多様性（種多様性）ワーキンググループ	大台ヶ原の自然再生の過程において、植生の保全・再生に呼応した動物相や群集の回復と変化を継続的にモニタリングすることで、森林生態系の回復状況を把握することについて検討する。	第1回 H26.12.3	<ul style="list-style-type: none"> 今後の動物モニタリング調査計画 クモ類調査結果
持続可能な利用（ワイズユース）ワーキンググループ	利用の量の適正化による自然環境への負荷の軽減、より質の高い自然体験学習（自然観察会・エコツアー等）の提供等、周辺地域の活性化も念頭に置いた大台ヶ原における持続可能な利用形態をつくりあげることについて検討する。	第1回 H26.12.4	<ul style="list-style-type: none"> 大台ヶ原の利用動向報告 西大台利用調整地区の利用者アンケート結果報告 大台ヶ原におけるガイド制の検討 大台ヶ原におけるトイレ設置の検討 西大台利用調整地区の当日認定
		第2回 H27.2.6	<ul style="list-style-type: none"> 大台ヶ原の利用動向報告 西大台利用調整地区の利用者アンケート結果報告 大台ヶ原におけるガイド制の検討 大台ヶ原におけるトイレ設置の検討 大台ヶ原における標識の多言語化の検討

1. 森林生態系の保全・再生

2期10年にわたり実施してきた、ニホンジカによる生態系被害が顕著な箇所における緊急保全対策を継承するとともに、人の利用による自然環境の衰退を抑制する。

また、林冠ギャップ地、疎林部といった森林更新の場等において、後継樹が健全に生育できる森林更新環境を整えるための取組を実施する。

(1) ニホンジカによる森林生態系被害が顕著な箇所における緊急保全対策

① 大規模防鹿柵の設置

ニホンジカによる森林生態系被害の抑制や森林後退の箇所における樹木減少の抑制を図るため、平成24年度に検討した設置候補地点及び優先順位に基づき、大規模防鹿柵を設置した。

1) 大規模防鹿柵の設置

No.57、58の2箇所において大規模防鹿柵を設置した。(図1.1.1)

2) 定点写真撮影

防鹿柵 No.57～59 において、防鹿柵設置による効果を検証するための初期値として、防鹿柵設置時の定点写真の撮影と、スズタケの稈高の測定を実施した。

表 1.1.1 防鹿柵 No.57～59 の定点写真とスズタケの稈高

防鹿柵 No. 57	防鹿柵 No. 58	防鹿柵 No. 59
		
スズタケ稈高：平均 50cm 最大 90cm	スズタケ稈高：平均 60cm 最大 130cm	スズタケ稈高：平均 75cm 最大 115cm

3) 防鹿柵内植物相調査

防鹿柵設置効果を検証するため、平成 27 年度以降、設置予定の防鹿柵のうち、測量済の 2 箇所（図 1.1.1 ⑨、⑩）及び、平成 22 年度に整備し、設置後 5 年程度経過した防鹿柵のうち 3 箇所（図 1.1.1、No.37～39）について植物相調査を 8 月、9 月、10～11 月に各 1 回、計 3 回実施した。

平成 27 年度以降設置予定の防鹿柵⑨、⑩で確認された植物の確認種数一覧を表 1.1.2 に、防鹿柵 No.37～39 における設置時と平成 26 年度の植物の確認種数一覧を表 1.1.3 に示した。

設置後 5 年程度経過した防鹿柵 No.37～39 については、全ての地点で確認種数が増加した。

表 1.1.2 防鹿柵⑨および⑩における植物確認種数一覧

防鹿柵No.	⑨	⑩
確認科数	39	44
確認種数	94	89
保護上重要な種	21	15
国外外来種	0	0

表 1.1.3 防鹿柵 No.37～39 における設置時と平成 26 年度の植物確認種数一覧

防鹿柵No.	No.37		No.38		No.39	
面積(ha)	1.13		0.49		0.50	
確認年度	H22	H26	H22	H26	H22	H26
確認科数	56	62	48	58	48	59
確認種数	106	138	86	125	87	120
保護上重要な種	17	22	17	21	21	23
国外外来種	2	0	0	0	0	0

② 剥皮防止用ネットの設置および更新

平成 24 年度に検討した剥皮防止用ネットの設置が必要な箇所について、新規設置を実施した。

また、既存の金属製ネットは樹幹に着生する蘚苔類に悪影響を及ぼすことが指摘されているため、更新時に順次樹脂製のものに交換した。

1) 剥皮防止用ネットの設置

図 1.1.2 に示す範囲において剥皮防止用ネットの新規設置（460 本）するとともに、老朽化したネットを更新（1,160 本）した。

2) 樹幹着生性蘚苔類調査

防鹿柵外における母樹の保護を目的として設置している剥皮防止用ネットに関して、平成 21 年度に既設の金属製ネットから樹脂製ネットに交換した効果を把握するため、樹幹着生性蘚苔類の調査を実施した。

金属製ネットを巻いたトウヒでは金網被覆部と被覆していない部位（金網上部）では顕著に種数・被覆面積ともに減少した。

樹脂製ネットを巻いたトウヒではそれらの傾向はみられず、中には被覆・種数ともに増加している例が見られた。

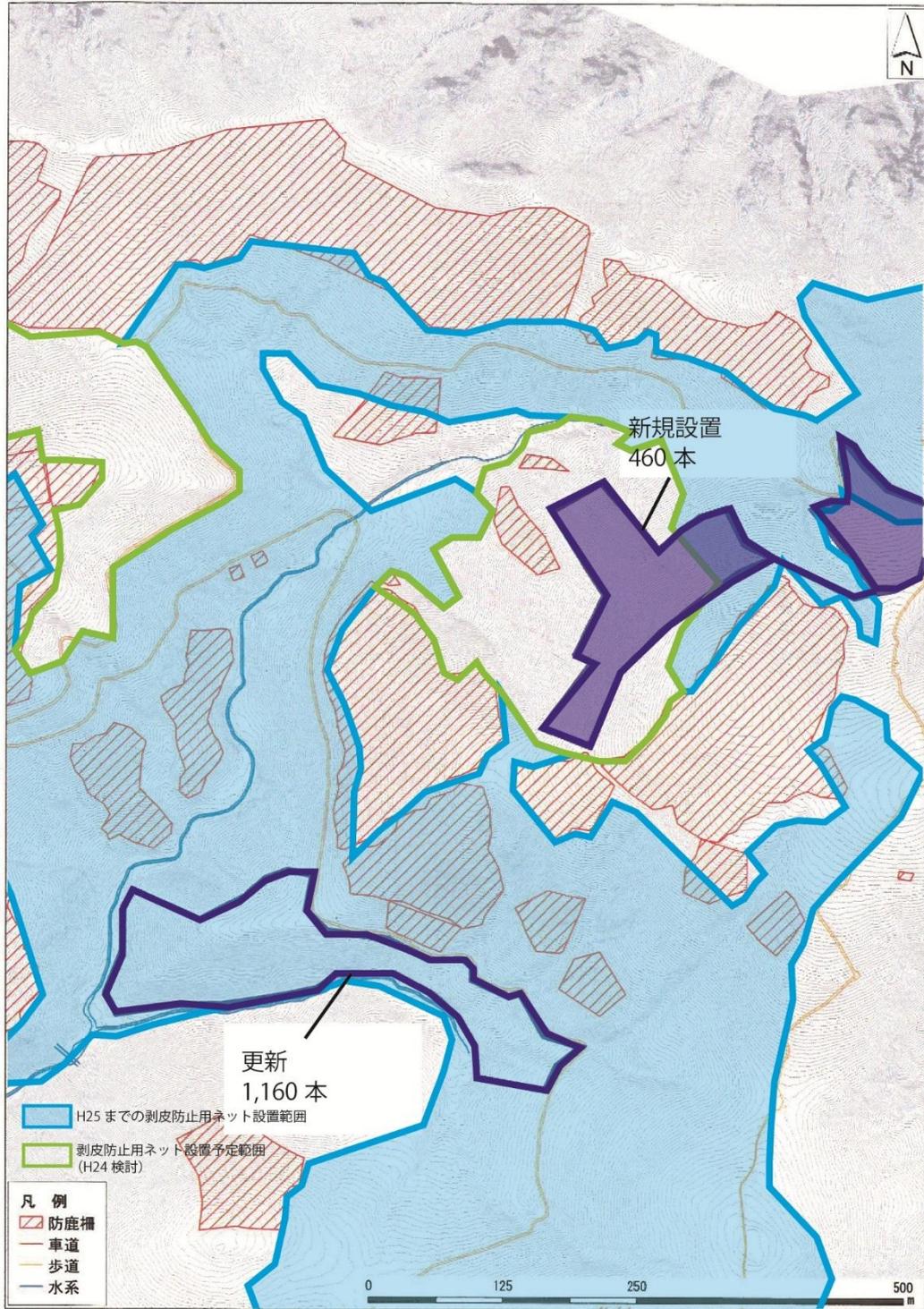


図 1.1.2 平成 26 年度剥皮防止用ネット設置および更新箇所

(2) 人の利用による自然環境の衰退の抑制

西大台利用調整地区の運用による、人の利用による自然環境の衰退の抑制効果を把握するための調査を実施した。

① 西大台利用調整地区の歩道現況調査

西大台利用調整地区内において、平成 24 年度に把握した複線化箇所（30 箇所：M-1～M-30）、洗掘箇所（10 箇所：S-1～S-10）（図 1.1.3）において、それぞれ洗掘の幅、距離、深さ、複線化の幅、距離等を測定し記録するとともに、周辺地域を含めた歩道等の現況を写真撮影により記録した。調査は平成 26 年 11 月下旬に実施した。

●複線化箇所

34 箇所（複数箇所を含む）の複線化箇所のうち、20 箇所で複線化は、ほぼ解消し、3 箇所で解消傾向がみられた。これらの複線化が解消又は解消傾向にあった多くの箇所では、誘導ロープや倒木・枯枝等が設置され、利用者のコントロールに適切に寄与したと考えられる。しかし、中には、再複線化しつつある箇所（3 箇所）もあり、複線化が解消していない箇所も含めて、誘導ロープや倒木等による複線化解消のための対策が必要と考えられる。また、植生の回復状況としては、7 箇所は回復傾向にあり、12 箇所は特に変化がなかった。



M-2 平成 18 年



M-2 平成 26 年

ナゴヤ谷の M-2 地点。平成 18 年にはドライブウェイ側からショートカットで降りてくる人による踏み分け道（複線）がはっきりとしていたが、平成 19 年 9 以降の利用調整運用後は蘚苔類が回復し、踏み分け道がほとんど目立たなくなった。



M-4 平成 19 年



M-4 平成 26 年

ナゴヤ谷の M-4 地点。平成 19 年は利用調整の運用直前の駆け込み需要などにより登山者が増加したため複線化がはっきりしていたが、平成 19 年 9 月以降の利用調整運用後は植生が回復し、複線化が目立たなくなった。

●洗掘箇所

10 箇所の洗掘箇所のうち、9 箇所（H25：8 箇所）の洗掘箇所では特に変化が見られなかったが、1 箇所（S-7）で若干の洗掘(浸食)の進行がみられた。



S-7 (平成 25 年)



S-7 (平成 26 年)

ヒメシャラの倒木（生木）の下を潜り抜けることにより通行位置が限定され、一部で洗掘が発生していた。

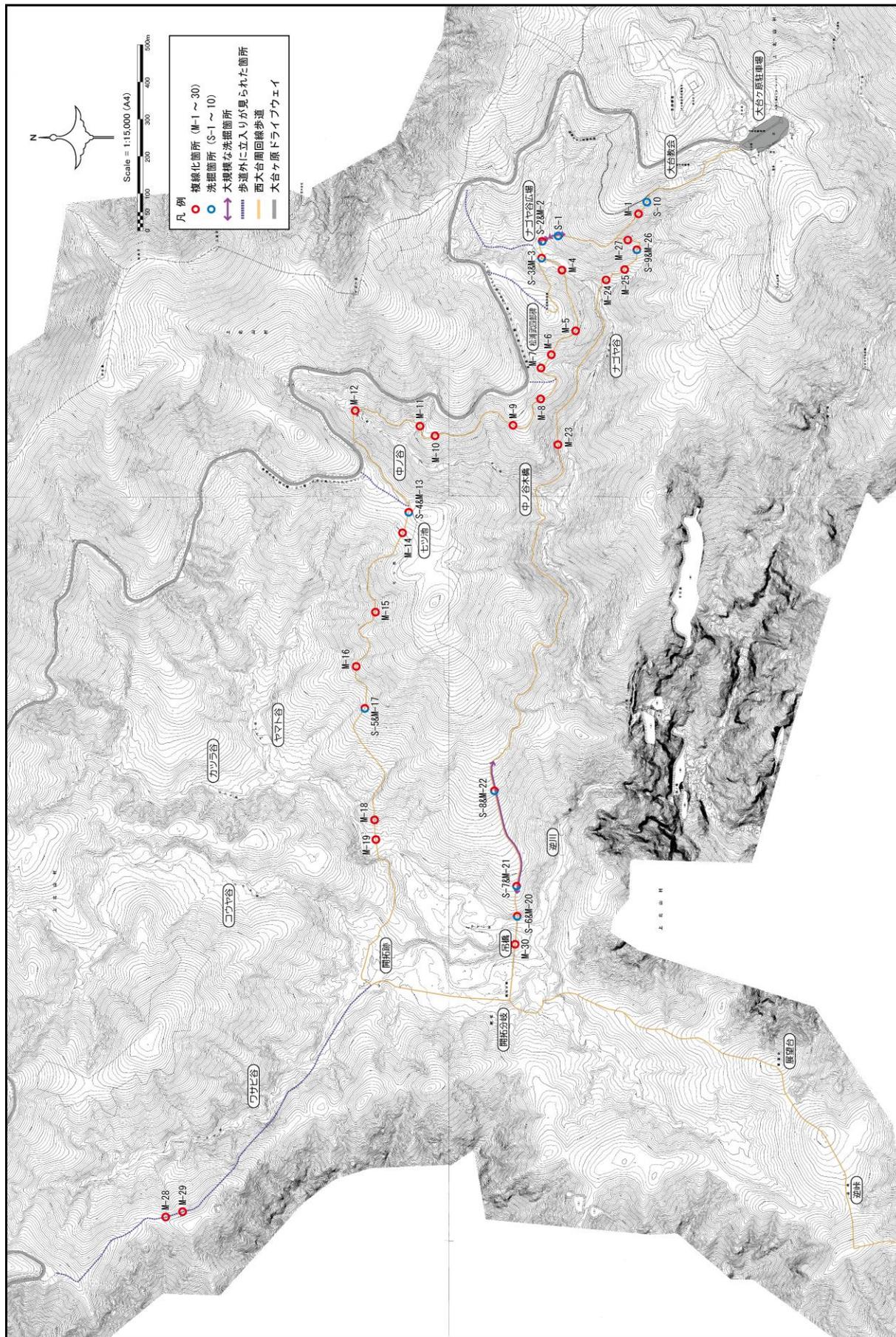


図 1.1.3 歩道現況調査地点

② 希少植物調査

西大台利用調整地区内の歩道沿いを平成 26 年 8 月初旬に 1 回踏査し、希少な植物種として指標種に定めた 9 種の種数、分布状況、個体数、生育状況等について記録した。

今年度は歩道に近い箇所 1 地点において、ラン科の 1 種の個体数が半数近く減少している箇所が見られた。歩道に近いこと、過去にも盗採が確認された場所であることなどから、盗採の可能性があると考えられる。

(3) 森林更新の場の保全・創出

① 小規模防鹿柵の設置

森林更新が期待される林冠ギャップ地における林冠構成種の実生定着と稚樹の成長促進や、森林が後退した疎林部におけるトウヒ等針葉樹の実生定着と稚樹の成長促進を目的として、小規模防鹿柵を設置している。

平成25年度までにW1～W7の7箇所計15基の小規模防鹿柵が設置されている。

1) 小規模防鹿柵設置箇所の検討

平成26年度以降に設置する小規模防鹿柵の設置箇所の検討を行った(図1.1.4)。

候補地点として、明るい林冠ギャップ地で倒木や根上がり跡のある箇所を3地点選定した。



候補地点1



候補地点2



候補地点3

2) 西大台における小規模防鹿柵における稚樹生育状況調査

西大台の林冠ギャップ地における林冠構成種の実生定着と稚樹の成長促進を目的として設置した既設小規模防鹿柵のうち、W1～W5、12基(図1.1.4)の設置効果を確認するため、柵内に生育している樹高1m以上の林冠構成種の稚樹の種名、樹高計測するとともに、定点写真撮影を実施した。

また、平成25年度に設置した新設小規模防鹿柵W7、2基(図1.1.4)の設置効果を確認するため、各防鹿柵内に3箇所程度のモニタリング地点(方形区)を設定し、方形区内に生育する林冠構成種の実生の種別個体数、高さ、当年生実生数を計測するとともに、定点写真撮影を実施した。

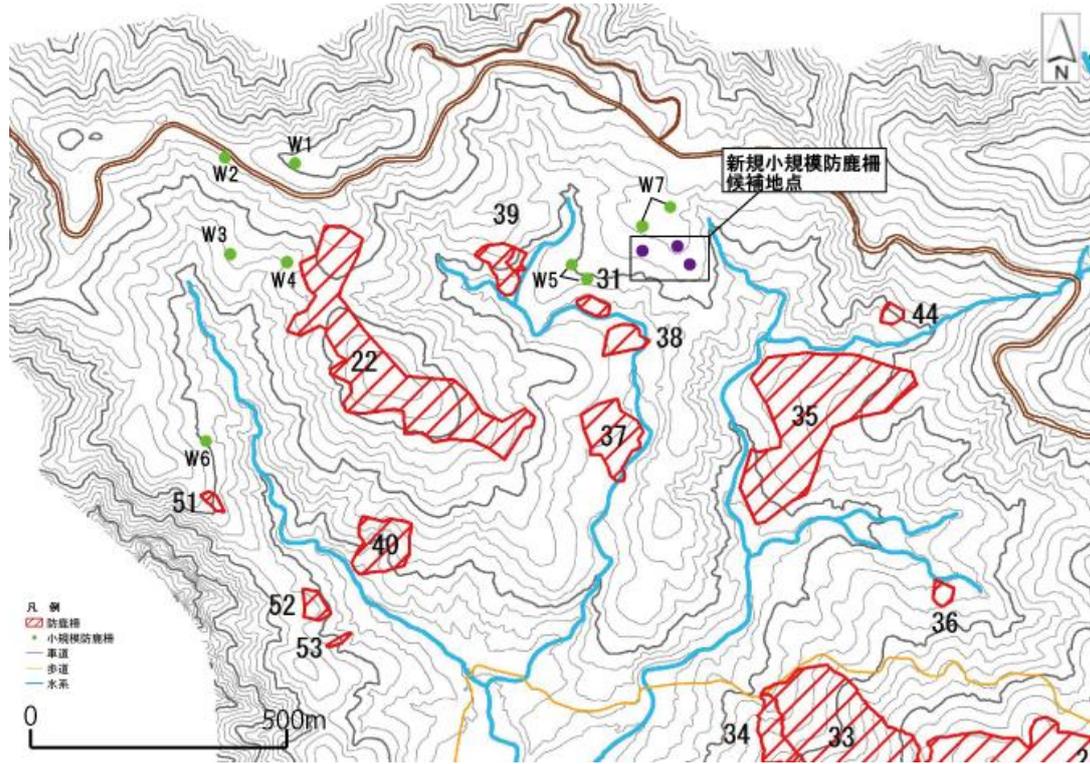


図 1.1.4 小規模防鹿柵の新たな設置予定箇所

② 稚樹保護柵の設置

ミヤコザサ草地や疎林部に生育するトウヒ等の針葉樹の自生稚樹の成長促進を目的とした稚樹保護柵を設置した。

1) 稚樹保護柵の設置

龍谷大学の学生を対象とした実地研修として、稚樹保護柵を7基設置した。



学生による稚樹保護柵設置作業



学生が設置した稚樹保護柵

2) 稚樹保護柵における自生稚樹の生育状況調査

ミヤコザサ草地や疎林部に生育するトウヒ等針葉樹の自生稚樹の成長促進を目的として平成25年度に正木峠に設置した稚樹保護柵5基について、稚樹の樹高、枝張り、樹勢等が分かるようにスケールを含めた写真撮影を実施した。



稚樹保護柵 2013-2 (トウヒ)



稚樹保護柵 2013-3 (トウヒ)

3) 移植苗木の保全

正木峠の防鹿柵 No.5 内に平成 5 年および 13～15 年に移植したトウヒ苗木のうち、平成 23 年度調査時に樹高 130cm 以下のトウヒ苗木 131 本について、周囲のミヤコザサの坪刈を平成 26 年 9 月に実施した。



坪刈り作業前



坪刈り作業後

4) 自生稚樹生育追跡調査

平成 14 年に正木峠に設置した防鹿柵 No.5 内外の調査区およびササ刈り区において、トウヒ自生稚樹の樹高、生存率等を調査し、防鹿柵によるニホンジカの採食による影響を排除した効果および稚樹の周りの坪刈の効果を検査した。

③ 森林更新の場を保全・創出する手法の検討

林冠ギャップ地、疎林部といった森林更新の場等において、後継樹が健全に生育できる森林更新環境を整える手法について、森林生態系ワーキンググループにおいて検討した。



森林生態系ワーキンググループ（現地検討）

2. ニホンジカ個体群の保護管理

ニホンジカ個体群を適正な生息密度へ誘導・維持するため、「個体群管理」、「被害防除」、「生息環境整備」の三つの視点に基づいた取組を実施する。

(1) 個体群管理の実施

健全な森林生態系が保全・再生されるようニホンジカ個体群の適正な生息密度について検討し、大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画に基づき個体数調整を実施した。

また、植生の回復状況を評価するための下層植生調査を実施した。

① ニホンジカの個体数調整

1) 個体数調整

大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第3期）に基づき、緊急対策地区においてニホンジカの個体数調整を実施し、過去最多の121頭のニホンジカを捕獲した（図1.2.1）。今年度新たに実施したモバイルカリング（装薬銃による捕獲法の一種）で4頭、くくりわなで117頭を捕獲した。そのうち、成獣メスは20頭と、当初の想定よりも少なかった（表1.2.1）。また、モバイルカリングの有効性を、ニホンジカ保護管理ワーキンググループで検討した。

※モバイルカリングとは、厳重な安全管理のもと許可を得て、道路脇に複数の給餌場所を設置してシカを誘引し、車両で移動しながら車両の内外から発砲してシカを捕獲する、組織的かつ計画的な捕獲の手法のことである。これまで大台ヶ原では、シカを発見した場合は車両から下りて発砲していた（流し猟）ので、車両上から発砲するモバイルカリングは初めての実施となる。

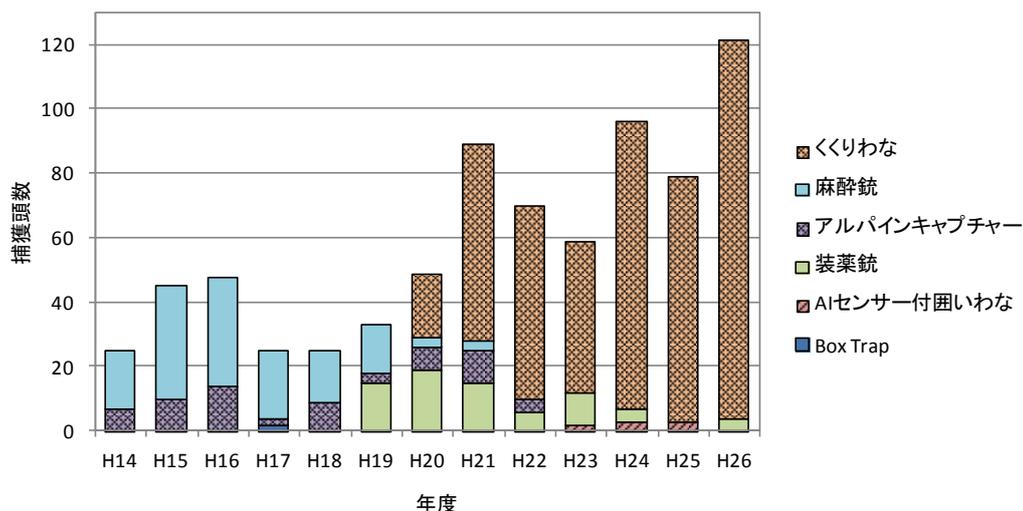


図 1.2.1 捕獲手法別捕獲数の推移

表 1.2.1 性・齢区分別捕獲数の一覧

年度	成獣メス	成獣オス	亜成獣メス	亜成獣オス	幼獣メス	幼獣オス	齢区分不明メス	総計
H14	11	3	1	3	3	4		25
H15	27	10	5	1	1	1		45
H16	20	12	4	4	5	3		48
H17	16	4	1	0	3	1		25
H18	14	4	1	1	2	3		25
H19	20	2	2	1	2	2	4	33
H20	22	12	1	3	4	7		49
H21	31	20	2	8	13	15		89
H22	29	9	10	8	7	7		70
H23	30	16	0	0	5	8		59
H24	31	41	3	1	11	10		97
H25	14	17	9	13	10	16		79
H26	20	47	15	12	16	11		121
総計	285	197	54	55	82	88	4	765

※平成 25 年度は捕獲時期が 7 月以降だったため、総捕獲数に対する成獣メスの割合が低い

2) 生息状況調査

i) 糞粒調査

大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第 3 期）に基づき、緊急対策地区 14 地点、緊急対策地区隣接地区 11 地点、重点監視地区 1 地点において、糞粒調査を実施し、ニホンジカ生息個体数の動向についてニホンジカ保護管理ワーキンググループで検討した。緊急対策地区の平均密度は 8.9 頭/km² と、昨年度の 5.5 頭/km² よりも上昇した（図 1.2.2）。調査地点別では、昨年度と比較して牛石ヶ原等で生息密度が減少した。一方で、西大台地区のほとんどの地点で生息密度が上昇した（図 1.2.3）。

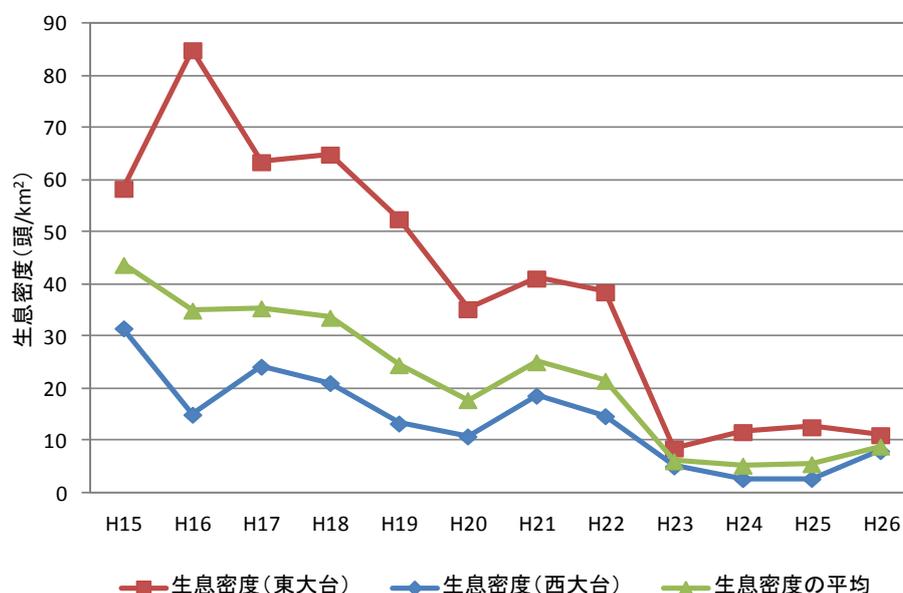
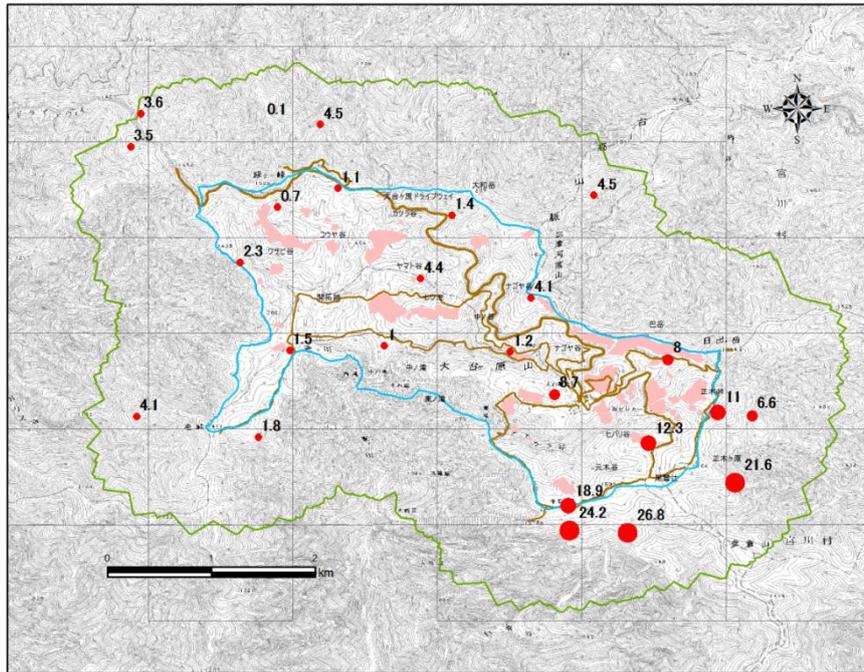


図 1.2.2 糞粒法による生息密度結果の推移（地区別）

●平成 25 年度



●平成 26 年度

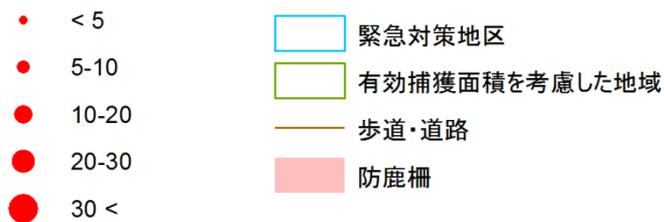
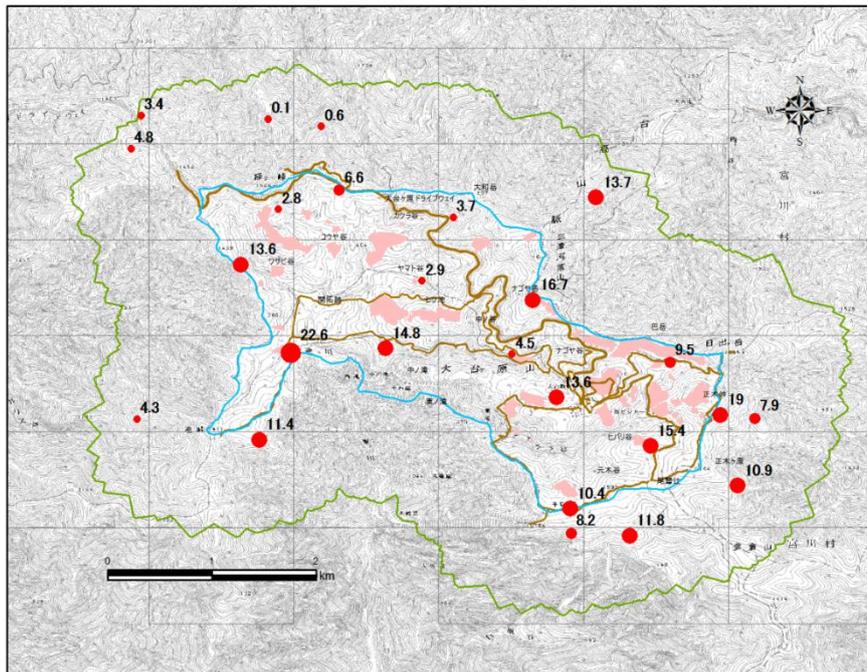


図 1.2.3 平成 25 年度及び平成 26 年度の糞粒法による
生息密度結果（調査地点別）

ii) ライトセンサス調査

大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第3期）に基づき、緊急対策地区内の4ルートにおいて、ライトセンサス調査を実施し、ニホンジカ生息個体数の動向についてニホンジカ保護管理ワーキンググループで検討した。昨年度と比べ、西大台地区のルート3で目撃頭数が増加しており、糞粒法と概ね同様の傾向だった（図1.2.4、図1.2.5）。

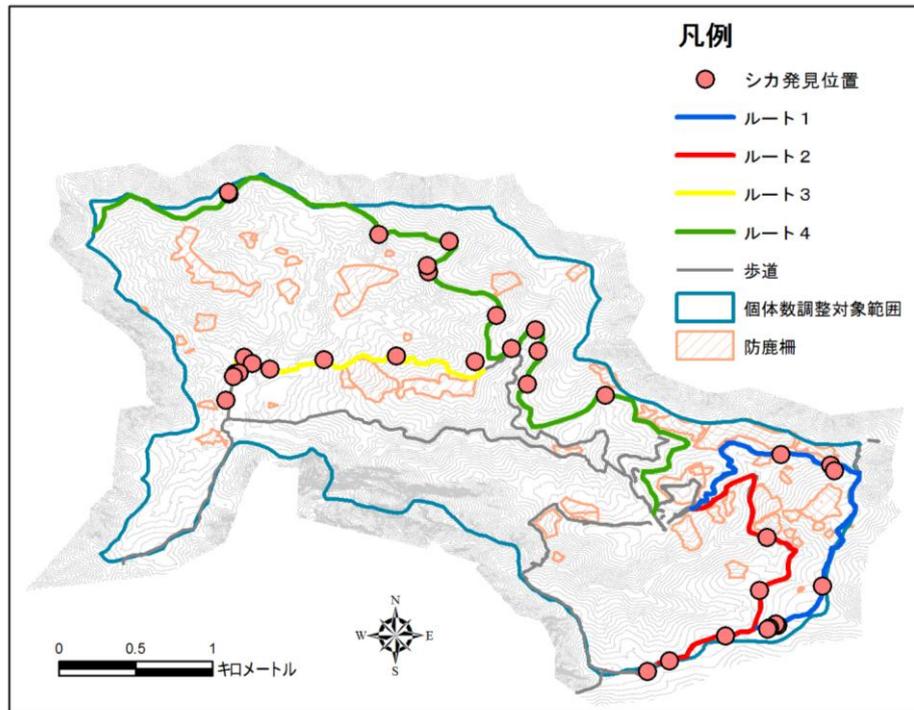


図 1.2.4 平成 26 年度のライトセンサスによるニホンジカ発見場所

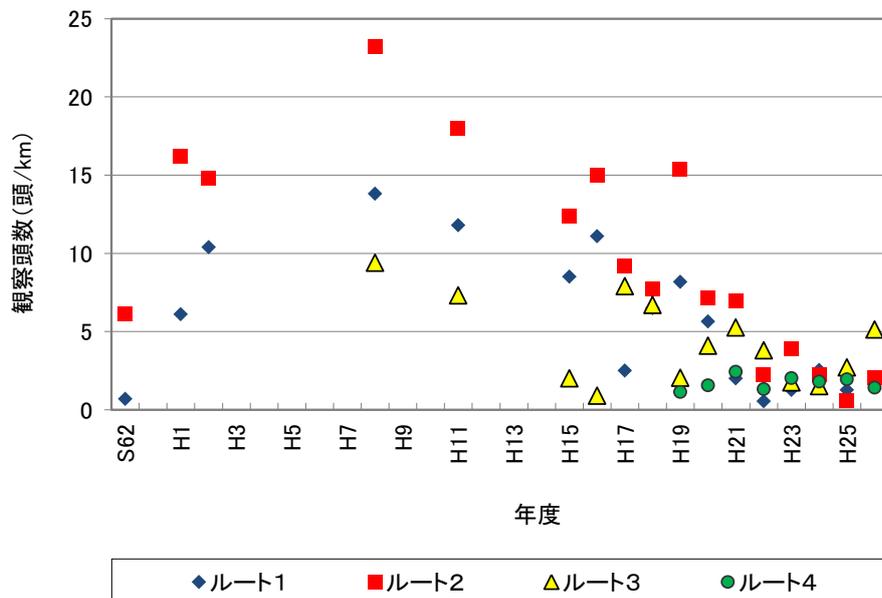


図 1.2.5 ライトセンサスによる観察頭数の推移

iii) カメラトラップ調査

緊急対策地区内の 30 地点に自動撮影カメラを設置し、ニホンジカの生息密度の月変化や地点別の利用強度等について、ニホンジカ保護管理ワーキンググループで検討を行った。

全体では、東大台地区では牛石ヶ原や正木ヶ原等で、西大台地区では三津河落山等で撮影頭数が多かった（図 1.2.6）。月別では、4 月は撮影頭数に大きな地域的な差はなかったが、5 月から 7 月は東大台地区の牛石ヶ原や正木ヶ原での撮影頭数が多かった（図 1.2.7）。8 月になると再び撮影頭数に大きな地域的な差はなくなり、同様の状態が 10 月まで続いたが、11 月になるとビジターセンター北西部での撮影頭数が多くなった。また、ドライブウェイ沿い等で成獣オスの撮影割合が高く、捕獲が進んでいない搬出が困難な地点でメスの撮影割合が高い傾向にあった（図 1.2.8）。

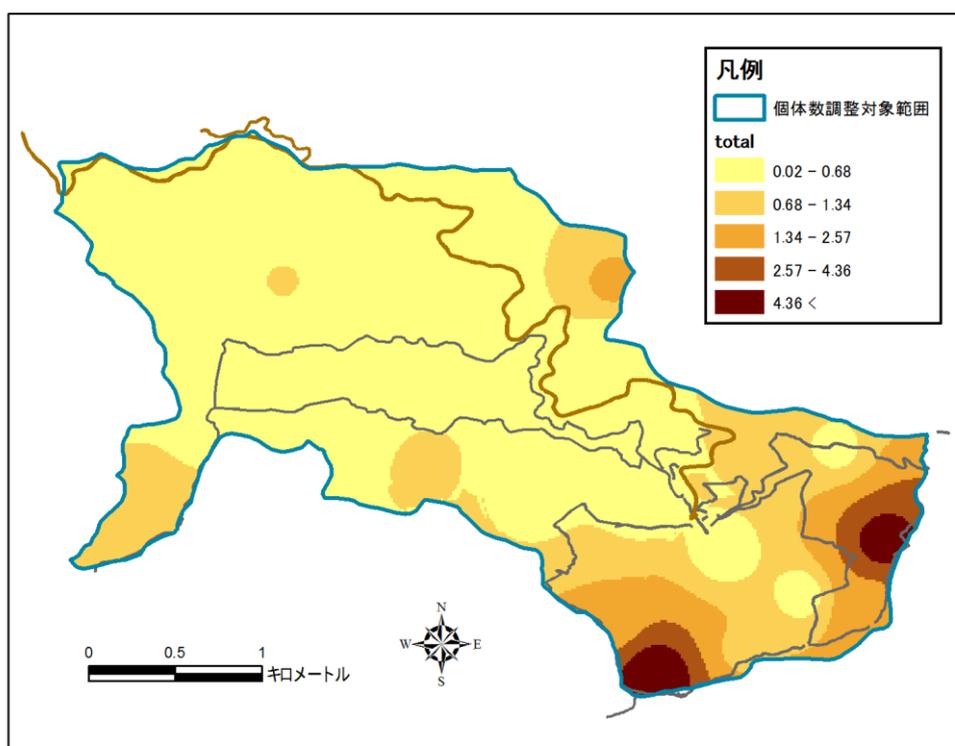
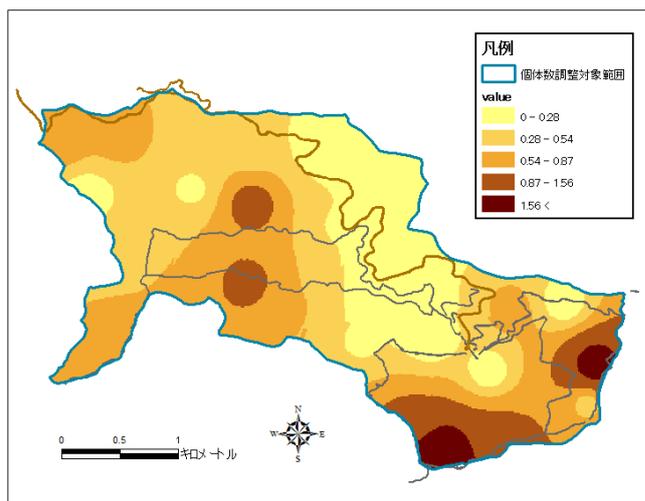
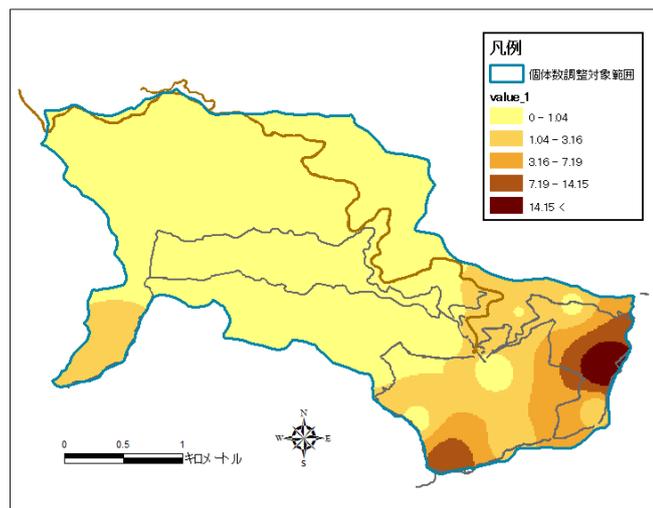


図 1.2.6 4 月から 11 月における平均撮影頭数（頭/日・台）の IDW 補間結果

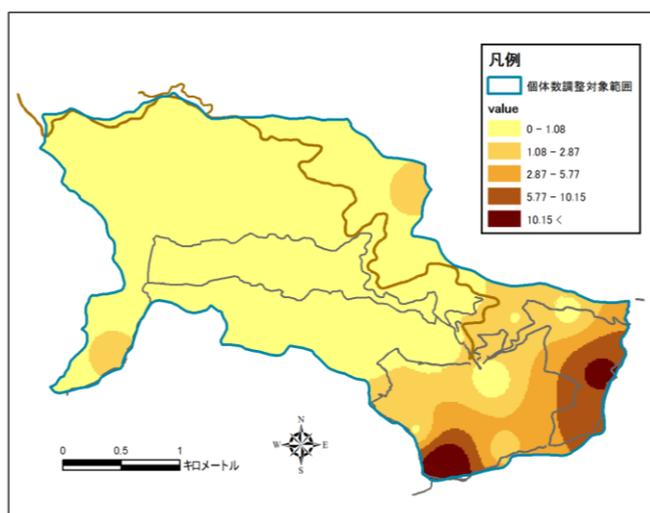
● 4 月



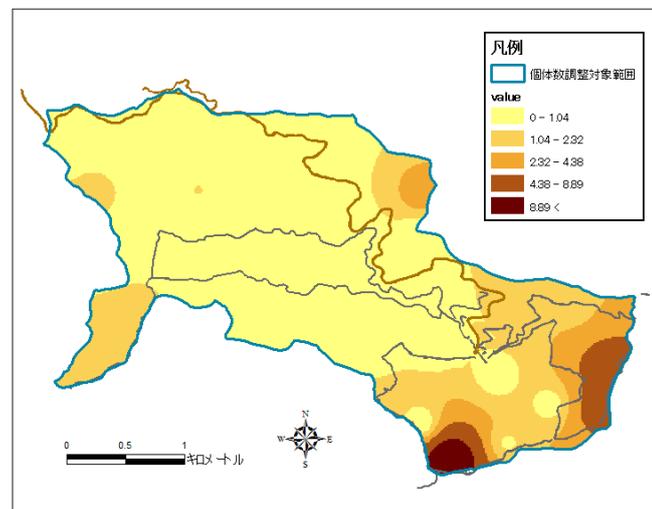
● 5 月



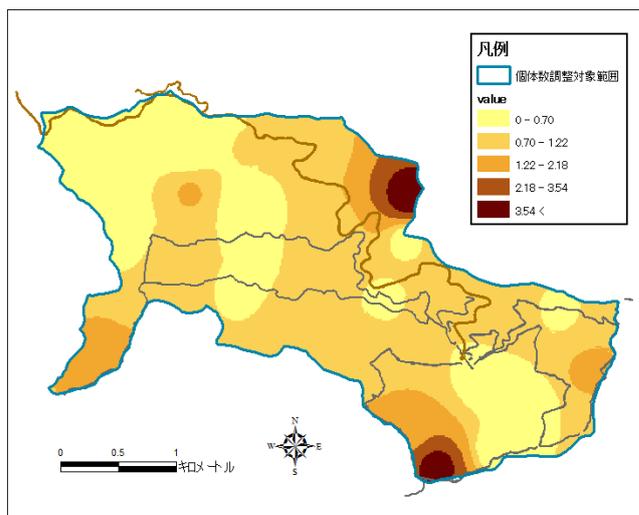
● 6 月



● 7 月



● 8 月



● 9 月

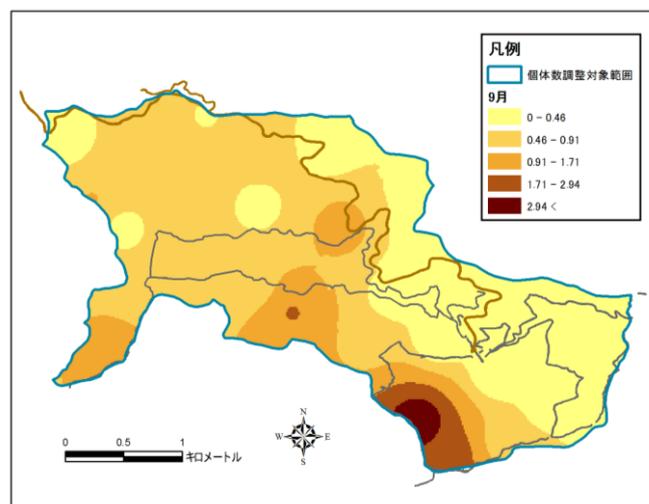


図 1.2.7-1 各月における平均撮影頭数（頭/日・台）の IDW 補間結果
 ※月によって数値の区分が異なるため、同色であっても月間で同価値とは限らない。
 同月における撮影頭数の多寡を空間的に把握するための地図である。

●10月

●11月

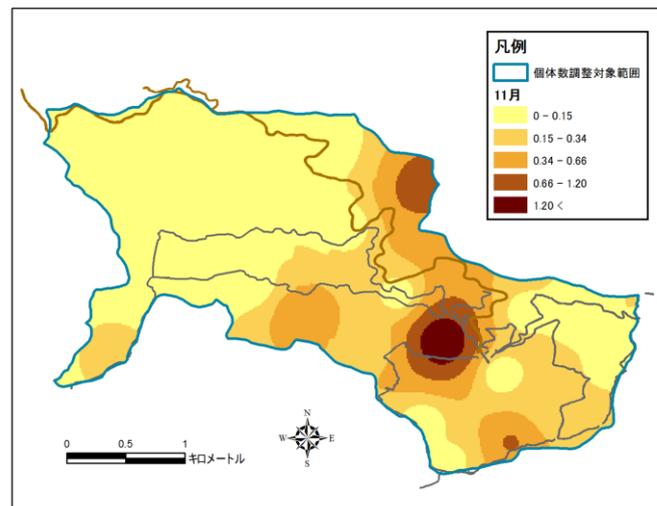
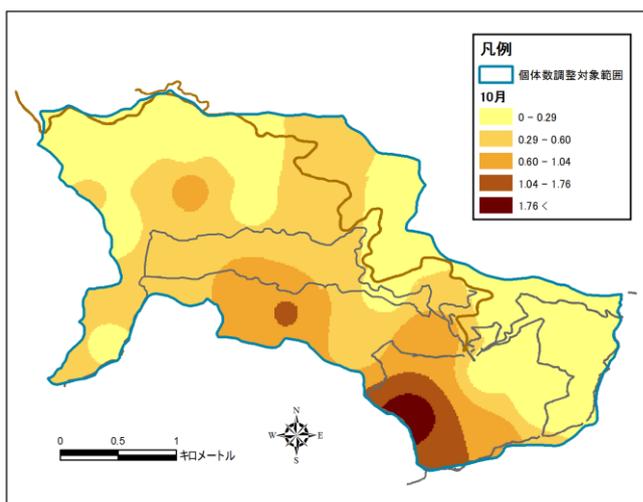


図 1.2.7-2 各月における平均撮影頭数（頭/日・台）の IDW 補間結果
 ※月によって数値の区分が異なるため、同色であっても月間で同価値とは限らない。
 同月における撮影頭数の多寡を空間的に把握するための地図である。

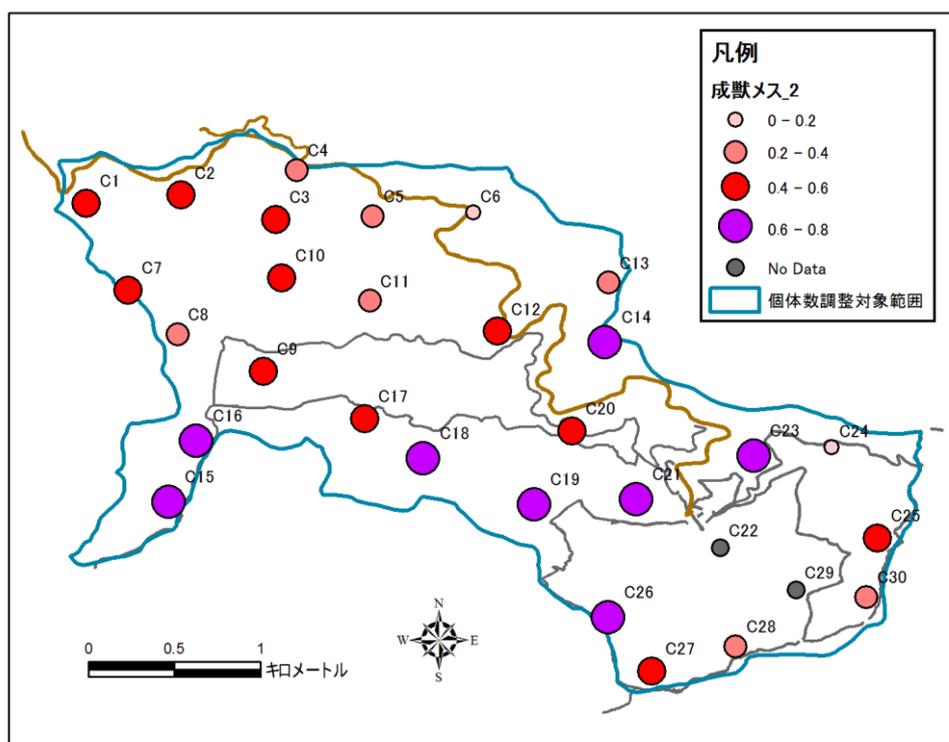


図 1.2.8 成獣の撮影頭数に占める成獣メスの撮影頭数の割合
 ※C22、C29 は成獣オスと成獣メスの合計撮影頭数が 10 頭以下と少ないため対象外

3) 捕獲個体のモニタリング調査

大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第3期）に基づき、捕獲個体の栄養状態や繁殖状況を分析した。成獣メスの妊娠率は依然として 8 割を超す高い値

を示した（図 1.2.9）。また、個体数調整の開始当初と比べ、成獣メスの腎脂肪指数が有意に低下した（図 1.2.10）。

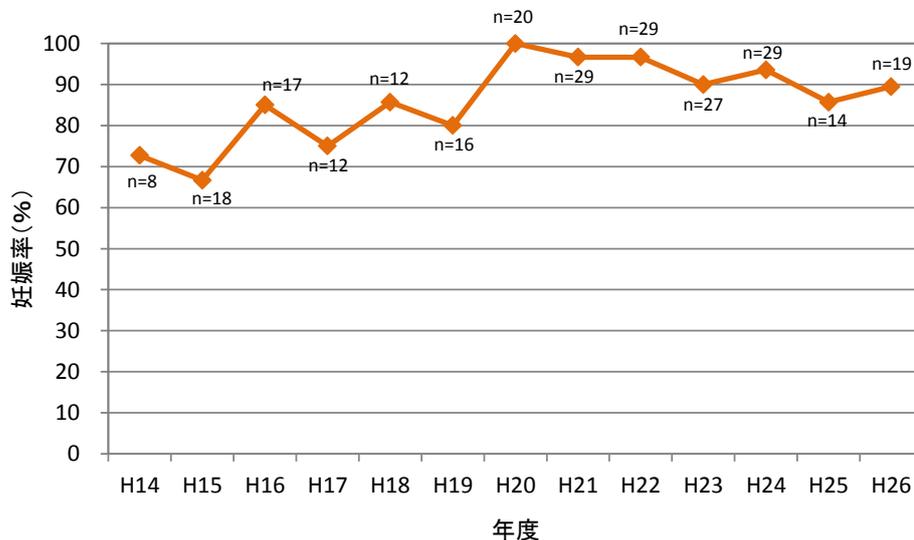


図 1.2.9 成獣メスの妊娠率の推移

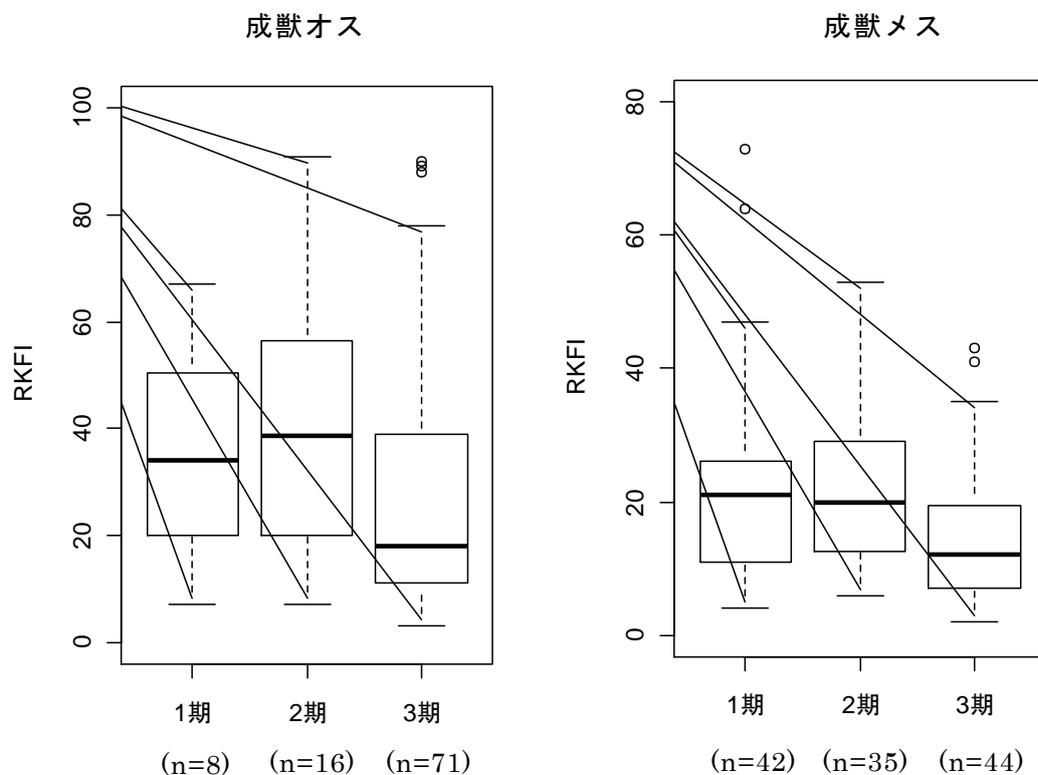


図 1.2.10 ニホンジカ保護管理計画の期間別のライニー式腎脂肪指数 (RKFI) 比較

※箱内の直線は中央値を、箱は 25~75% の範囲を表している。また、箱から上下に延びる直線はそれぞれ最大値、最小値を表している。なお、図中の○は外れ値である。

※比較的試料数を確保できた夏季 (6~8 月) について、ニホンジカ保護管理計画の期間ごとにグルーピング処理を行った。

4) 平成 27 年度捕獲目標頭数の検討

大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第 3 期）に基づき、緊急対策地区内の生息密度を暫定目標値である 5 頭/km² とするために必要な捕獲数を、糞粒調査結果を基に推移行列による個体数シミュレーションを実施して算出した。その結果を基に、平成 27 年度の捕獲目標頭数をニホンジカ保護管理ワーキンググループで検討し、実現可能性を踏まえて 84～134 頭とした。

② ニホンジカによる植生への影響調査

1) 下層植生への影響把握調査

大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第3期）に基づき、緊急対策地区6地点（図1.2.11）、緊急対策地区隣接メッシュ11地点（図1.2.12）においてササ類の稈高を調査した。また、重点監視地区1地点（図1.2.13）において下層植生を調査した。

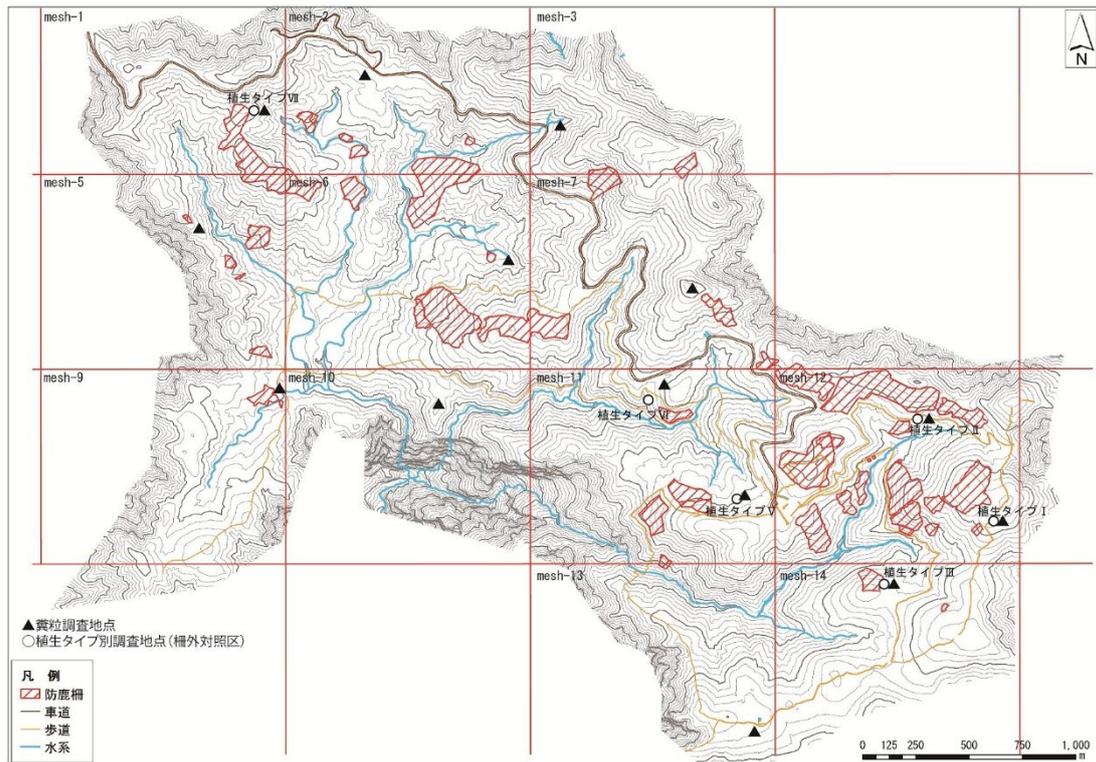


図 1.2.11 ササ稈高調査地点(緊急対策地区)

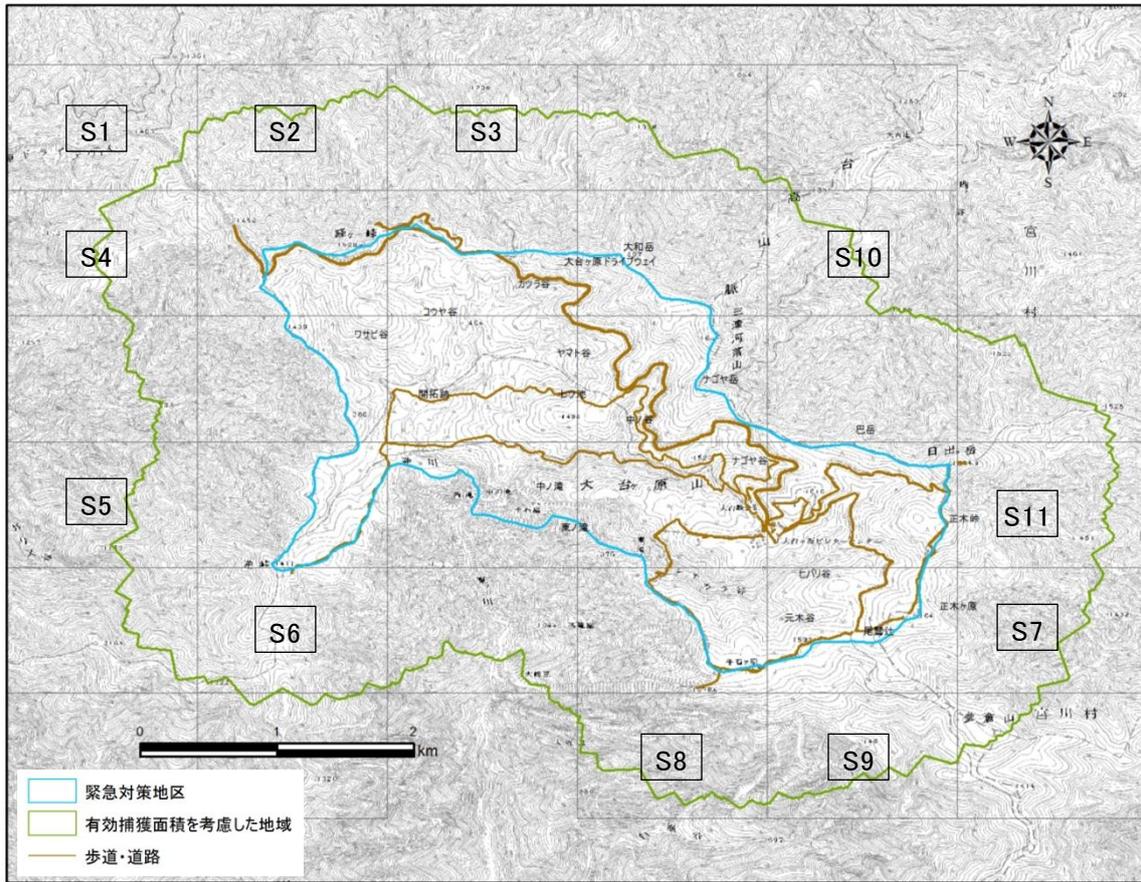


図 1.2.12 緊急対策地区隣接メッシュ

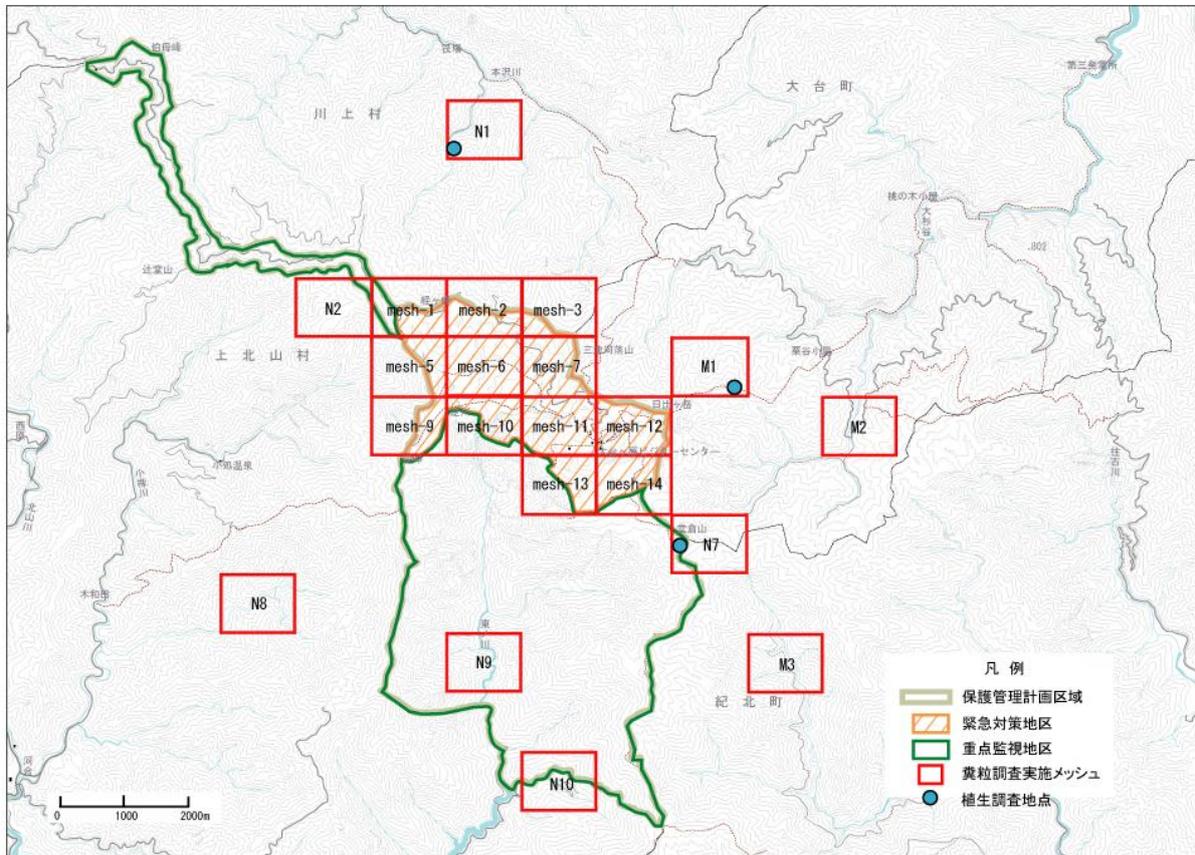
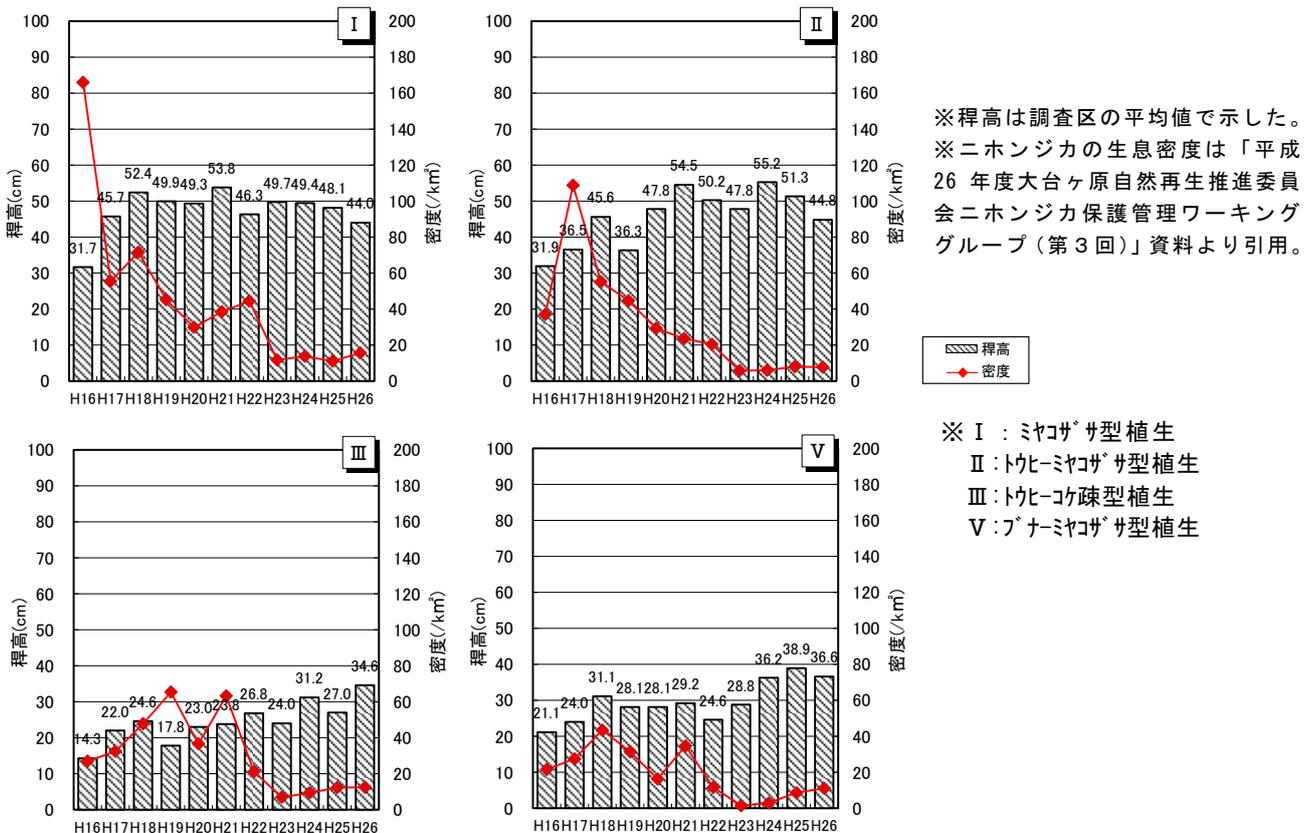


図 1.2.13 重点監視地区及び周辺地区調査地点

●緊急対策地区

ミヤコザサ型植生（植生タイプⅠ～Ⅲ、Ⅴ）では、平成16年度以降、ニホンジカの生息密度は減少しており、それに伴い、ミヤコザサの稈高はゆるい増加傾向にある（図1.2.14(1)）。

スズタケ型植生では、スズタケの稈高が高い場所（植生タイプⅥ）では稈高は減少傾向にある。また、スズタケの稈高が低い場所（植生タイプⅦ）では、稈高に大きな変化は見られず、回復の傾向が見られない（図1.2.14(2)）。以上のことから、スズタケ型植生ではニホンジカによる採食の影響が継続しているものと考えられる。

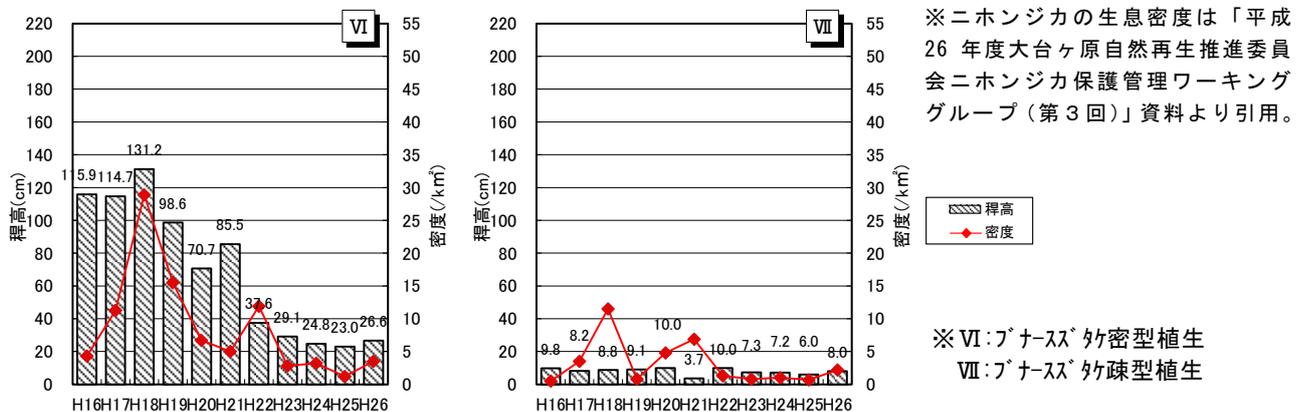


※稈高は調査区の平均値で示した。
 ※ニホンジカの生息密度は「平成26年度大台ヶ原自然再生推進委員会ニホンジカ保護管理ワーキンググループ（第3回）」資料より引用。

▨ 稈高
 ● 密度

※Ⅰ：ミヤコザサ型植生
 Ⅱ：トビミヤコザサ型植生
 Ⅲ：トビコサ疎型植生
 Ⅴ：ブナミヤコザサ型植生

図1.2.14(1) 平成16～26年度のミヤコザサの稈高とニホンジカ生息密度の変化（植生タイプⅠ～Ⅴ）



※稈高は調査区の平均値で示した。
 ※ニホンジカの生息密度は「平成26年度大台ヶ原自然再生推進委員会ニホンジカ保護管理ワーキンググループ（第3回）」資料より引用。

▨ 稈高
 ● 密度

※Ⅵ：ブナスズタケ密型植生
 Ⅶ：ブナスズタケ疎型植生

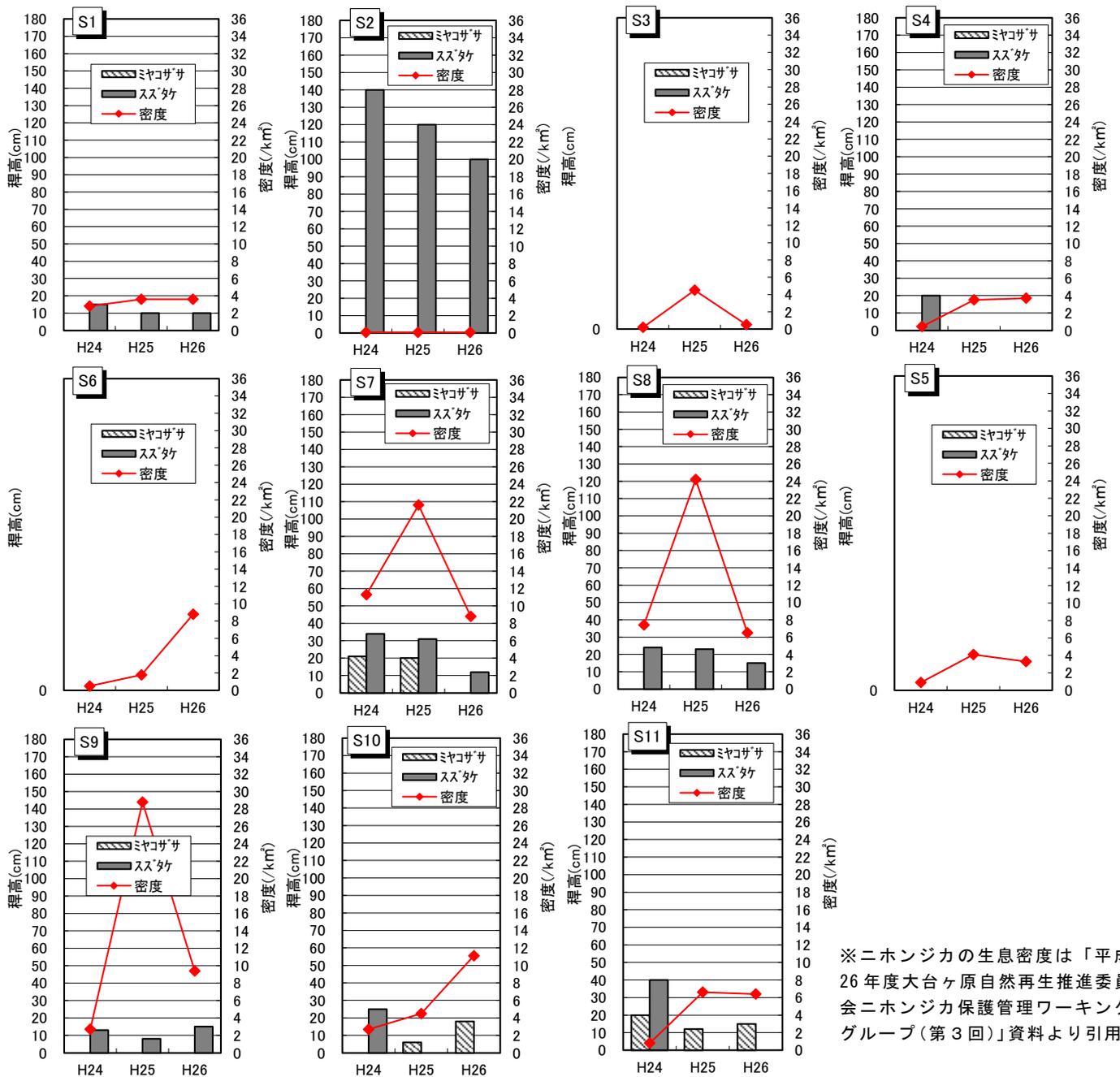
図1.2.14(2) 平成16～26年度のスズタケの稈高とニホンジカ生息密度の変化（植生タイプⅥ、Ⅶ）

●緊急対策地区隣接メッシュ

スズタケの稈高が比較的高い S2 ではニホンジカの生息密度は非常に低い (0.1 頭/k m²) が、スズタケの稈高は年々減少傾向である (図 1.2.15)。

S4、S10、S11 では、平成 24 年度調査においてスズタケの生育が確認されていたが、平成 25 年度以降スズタケは消失した。これらの地点ではニホンジカの生息密度は増加傾向にある (図 1.2.15)。

S7、S8、S9 では平成 25 年度にニホンジカの生息密度が急に増加したが、平成 26 年度には減少した。しかしスズタケの稈高は減少傾向にあり、回復には至っていない (図 1.2.15)。



※ニホンジカの生息密度は「平成 26 年度大台ヶ原自然再生推進委員会ニホンジカ保護管理ワーキンググループ(第 3 回)」資料より引用。

図 1.2.15 各調査地点におけるササ類の稈高とニホンジカ生息密度の変化

●重点監視地区

重点監視地区 N7 ではニホンジカの不嗜好性植物であるミヤマシキミ以外の植物の被度は 0.2%以下と非常に低く、表土の流出が著しい場所も見られた。

重点監視地区 N7 では、平成 19 年度以降、平成 24 年度まではニホンジカの生息密度が低下していたが、スズタケの被度、稈高は平成 22～23 年度までは低下を続け、採食の影響が継続していたものと考えられた。平成 24 年度以降、被度、稈高ともに若干の回復傾向が見られた（図 1.2.16）。

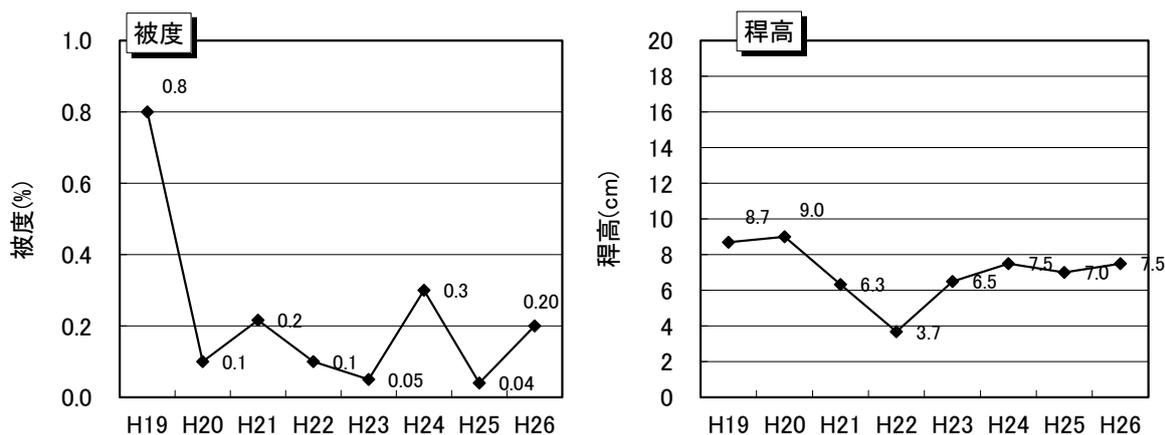


図 1.2.16 重点監視地区 N7 におけるスズタケの被度と稈高の変化

※スズタケの被度、稈高は調査区 5 個の平均値で示した。

2) 植生モニタリング手法の検討

ニホンジカの個体数調整による森林生態系の回復効果及びシカの適正な生息密度を把握することを目的に、新たな植生モニタリング手法について、ニホンジカ保護管理ワーキンググループにおいて検討した。

今後、植生調査と合わせて、自動撮影カメラによるニホンジカの行動調査を行い、ニホンジカが下層植生、溪流沿い湿地植生、稚樹及びササ類に及ぼしている影響について調査する。

なお、溪流沿い湿地植生の調査については、平成 26 年度に調査地を設置するとともに、初期値調査を行った。

(2) ニホンジカによる森林生態系被害の防止

「1. 森林生態系の保全・再生」に記載するとおり、以下の 2 項目を実施した（2～5 頁）。

- ①大規模防鹿柵の設置
- ②剥皮防止用ネットの設置および更新

(3) 生息環境の整備

大台ヶ原・大杉谷周辺地域におけるニホンジカ保護管理に関する関係機関の情報共有と広域的な視点での保護管理に向けた取組を進めることを目的に「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を開催した。

近畿中国森林管理局、三重県、上北山村、大台町及び近畿地方環境事務所（事務局）が参加し、各機関で実施しているニホンジカ対策の取組について報告するとともに、今後の連携について話し合った。

今年度、大杉谷国有林において地域関係者と連携して新技術を組み合わせた新たな対策の実証を行い、モバイルカリングとくくりわなでニホンジカを捕獲し、結果について分析・検証しており、東京において成果報告会を開催すると近畿中国森林管理局から報告があった。

今後の関係機関等の連携について、大台ヶ原及び大杉谷でそれぞれ実施しているGPS テレメトリー調査のデータ交換や、越冬地でのニホンジカ捕獲などが考えられると意見があった。

3. 生物多様性の保全・再生

(1) 大台ヶ原の生物相の把握と保全・再生策の検討

大台ヶ原における生物相を把握するために、動植物種のリストを作成した。

① 植物確認種リストの作成

1. (1) ①3)で実施した防鹿柵内植物相調査結果をとりまとめ、大台ヶ原における植物確認種リストを更新した。

② 動物確認種リストの作成

5. (4) 動物モニタリング調査の一環として実施したクモ類調査結果をとりまとめ、クモ類の確認種リストを作成した。

(2) 多様な生態系の保全・再生

1. (1) ①1)に記載するとおり、図 1.1.1 に示す 2 箇所で大規模防鹿柵を設置した。

(3) 動植物の相互関係の把握と保全・再生策の検討

生物多様性の現況及び回復状況を把握するため、動植物の相互関係を把握する調査手法について、生物多様性（相互関係）ワーキンググループにおいて検討した。

防鹿柵設置や個体数調整に伴うスズタケ生育地の回復とコマドリの生息状況の相互関係、防鹿柵内の下層植生の回復に伴う開花植物の増加と訪花昆虫の相互関係、食草や吸蜜対象となる植物の増加とハバチ類の相互関係などが生物多様性の回復の指標として挙げられた。

4. 持続可能な利用の推進

持続可能な利用の実現を模索しつつ、「適正利用に係る交通量の調整」、「利用環境の適正な保全」、「総合的な利用メニューの充実」の3つの視点に基づく取組を実施した。

(1) 適正利用に係る交通量の調整

①関係機関の協力の下、大台ヶ原公共交通機関利用促進普及啓発キャンペーンを実施し、秋の行楽シーズンにおける大台ヶ原への到達手段を、自家用車から自然環境への負荷の小さい公共交通機関に転換するよう普及啓発を行った。

②過去22年間の大台ヶ原の利用者数の推移をみると、減少傾向で推移していたが、平成24年から微増傾向に転じ、平成26年は90,382人であった。

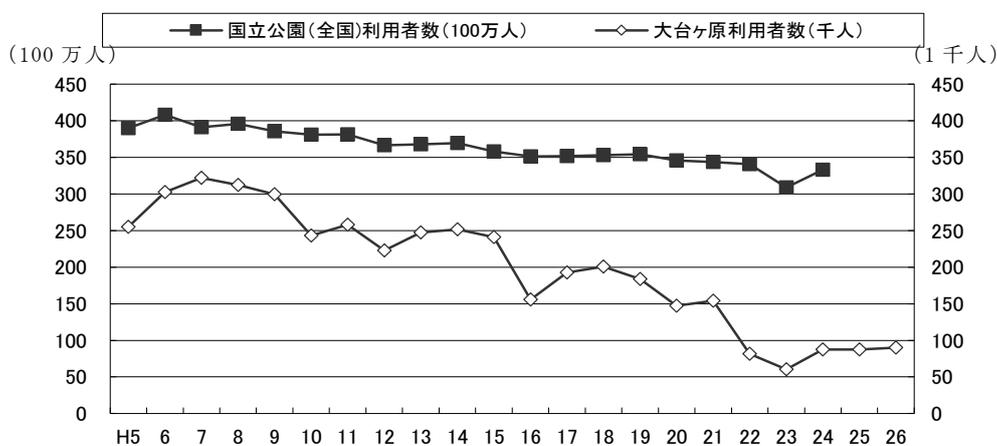


図 1-4-1 全国の国立公園と大台ヶ原の利用者数の推移

③過去12年間の路線バス(奈良交通)の利用者数の推移をみると、平成26年は8,697人で、2番目に多い利用者数であった。

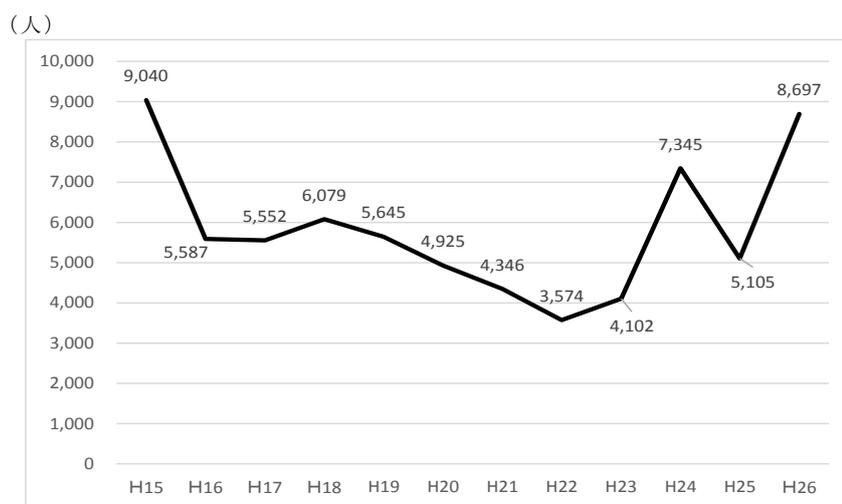


図 1-4-2 路線バス乗車人数の推移

出典：奈良交通株式会社吉野営業所・葛城営業所資料
平成15～24年度及び平成26年度は乗車人数(実数値)をカウント
平成25年度は売上金額からの推計値

(2) 利用環境の適正な保全

①事前レクチャー

西大台利用調整地区の利用者に対して事前レクチャーを実施し、現地の状況や立入に当たっての注意事項等について周知を図った。レクチャー回数は通常期及び利用集中期の平日は5回/日、利用集中期の土日休日は6回/日実施した。

平成26年度の入山者数は2,786人で、利用調整地区運用開始以降最も多くなった。

表 1-4-1 西大台利用調整地区の入山者数の推移

月	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
4月	80	179	166	51	43	21	40	42	58	96
5月	1,134	712	1,242	188	298	203	430	477	591	699
6月	409	390	1,060	166	107	240	183	256	230	278
7月	373	552	1,967	84	74	96	135	183	250	230
8月	546	884	5,550	121	107	152	264	252	340	300
9月	586	434	131	70	84	117	54	240	199	234
10月	1,321	1,439	299	268	286	563	428	839	714	712
11月	647	656	175	208	124	143	132	441	315	237
合計	5,096	5,246	10,590	1,156	1,123	1,535	1,666	2,730	2,697	2,786

※平成17年4月～平成19年8月は入山カウンターによる数値、それ以降は認定者数に基づく推定入山者数

②巡視

利用調整地区の運用期間をとおして巡視を行った。平成26年度の無認定立入者への指導件数は2件、無認定での立入の防止は4件で、指導等の件数は年々減少傾向となっている。

③アンケート

利用者ニーズを的確に把握するため、利用調整地区の利用者を対象にアンケートを実施した（配布数943、回収率68.2%）。

- ・ 事前レクチャーについては、回答者の68.0%が「レクチャーの内容に満足」、同71.5%が「配布冊子の内容に満足」と回答しており、概ね満足度は高い。
- ・ 携帯用トイレブース設置の必要性について聞いたところ、「必要」が56.6%、「必要ない」が19.6%であり、「必要」とする意見として「最低限でよいが自然を守るためにひとつは必要」、「女性は特に必要と思う」、「知床等他の地域でも利用して必要と思った」等66件、「必要ない」とする意見として「景観が壊れてしまうのが心配」、「自然に反する」等9件の意見があった。
- ・ 大台ヶ原で希望するガイドについて聞いたところ、42.0%が「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」、37.5%が「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」で、初心者向けから上級者向けまで幅広い需要があった。
- ・ 再訪の意向を聞いたところ、84.5%が西大台を「再訪したい」との回答であった。
- ・ 自由意見として「自然が美しかった」、「非常に良かった」と賞賛する意見、「利用調整の取組により自然を守って欲しい」と制度に期待する意見があった。
- ・ 一方「標識や案内板が少ない、老朽化してわかりにくい」等登山道整備に関する要望、「事前レクチャーを早朝や夕刻にも開講してほしい」、「1時間毎でなく随時開講してほしい」等事前レクチャーの開講時間に関する要望があった。

(3) 総合的な利用メニューの充実

①東大台の歩道の修復

大台ヶ原周回線歩道（東大台）において、侵食や荒廃が進んでいる歩道の修復を行った（8か所）。

修復に当たっては、歩道利用に伴う植生や侵食への負荷の軽減を図るとともに、多様な利用者や自然景観に配慮すること等を念頭に置いて実施した。

②ガイド制の検討

ガイド制については、これまでの議論を踏まえ、登録制とすることとし、平成 27 年度に大台ヶ原の利用に関する協議会の中に作業部会を設置し、利用WGとの協働により具体的な検討を行うという試案を取りまとめた。

今後の進め方については、平成 26 年度第 1 回大台ヶ原の利用に関する協議会（平成 27 年 2 月 19 日開催）において、関係機関の合意形成を得たところ。

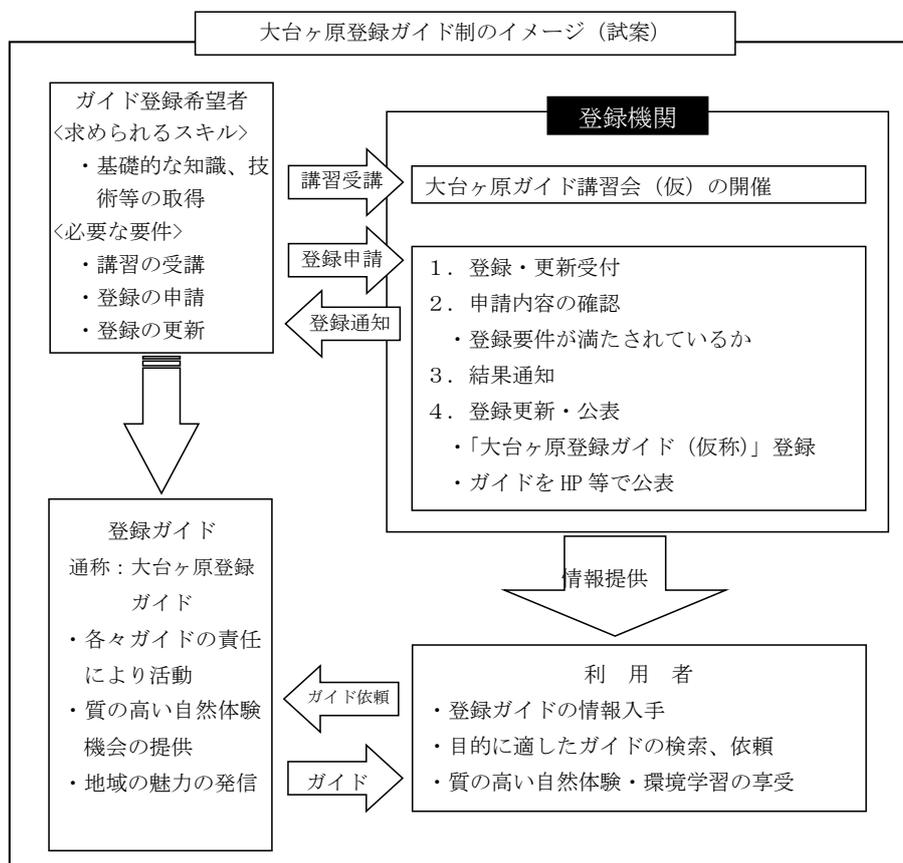


図 1.4.3 大台ヶ原登録ガイド制のイメージ(試案)

③トイレ設置の検討

トイレ設置については、これまでの議論を踏まえ、西大台と東大台に分けて以下のとおり検討することとした。

西大台については、地元団体による携帯トイレブース設置の取組を、大台ヶ原の利用に関する協議会の取組とし、今後試行的に維持管理等に関するデータの収集、利用者アンケート等を実施し、安定的・継続的な運用に向けて検証を行う。

東大台については、携帯トイレブースの設置の必要性について引き続き検討することとし、一方で、利用者に対して歩道にトイレがないという実情を積極的に広報し、駐車場のトイレで事前に済ましておく必要があること等について一層普及啓発を図ることとする。

④標識の多言語化

標識の多言語化は、大台ヶ原ビジターセンターの展示内容を含め、大台ヶ原全体の情報発信のあり方を含めて総合的に検討することとする。

なお、平成26年度は、基礎的データの整理との観点から東大台・西大台ごとに既存の標識の位置等を地図上に取りまとめた。

⑤自然解説・自然体験学習プログラムの充実

アクティブレンジャーによる自然観察会（小学生以上対象）を3回、パークボランティアによる自然観察会（小学生以上対象）を4回実施した。

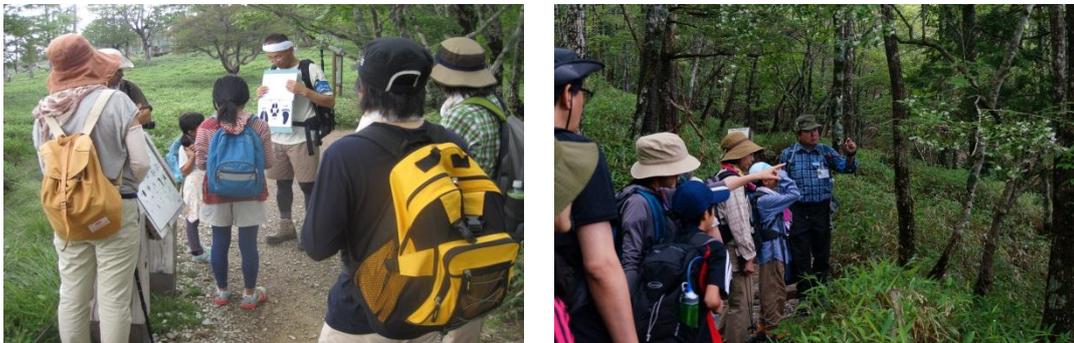


図 1.4.4 7月20日(日)に東大台で行われたパークボランティアによる自然観察会(14名参加)の様子

⑥情報発信

ホームページやポスター・リーフレット等を活用し情報発信を行った。



図 1.4.5 大台ヶ原公共交通機関利用促進普及啓発キャンペーンポスター等

5. 大台ヶ原全体の変化に関する調査

大台ヶ原の気温や雨量などの希少条件、景観の変化、動物相の把握など、大台ヶ原全体の変化をモニタリングするための調査を実施した。

(1) 環境条件調査

① 気温

大台ヶ原における環境条件を把握するために、各植生タイプの柵内対照区(7地点、ミヤコザサ型植生については既設柵内対照区)内において、気温の自動計測を平成20年度から引き続き実施した。

- 平成16～20年の5年間、平成21～25年の5年間のそれぞれの平均気温と比較すると、今年度は8～9月の平均気温が低かった。また、冬期気温の計測を始めた平成21～25年の5年間と比較すると、例年では最寒月となる1月の気温が高く、12月の気温は低い年であった(図1.5.1)。

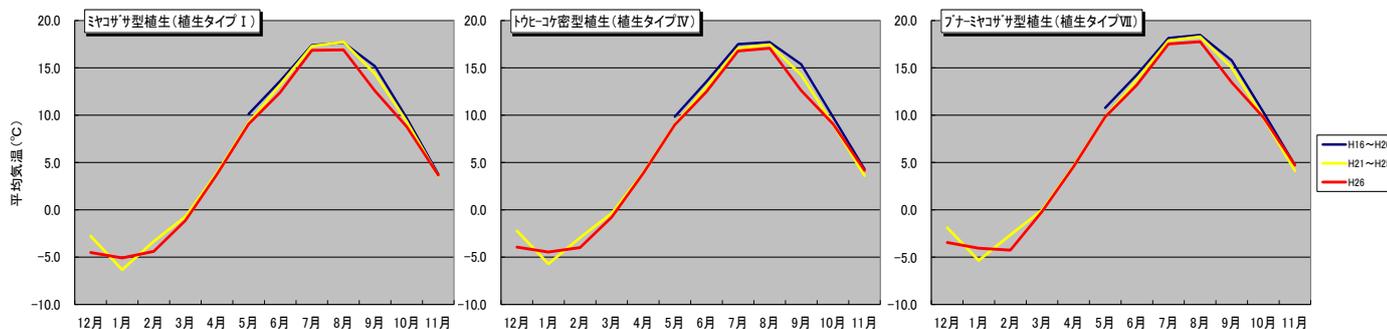


図 1.5.1 平成 16～20 年度、20～25 年度の月間平均気温の平均値と平成 26 年度の月間平均気温(植生タイプ I、IV、VII)

※H16～20 は冬季(11月～翌4月)の気温の測定は実施していない。
H21～26 の12月は前年度の12月の値を示した。

② 雨量

西大台のナゴヤ谷及び東大台のヒバリ谷において、自動計測雨量計を設置し、降水量の観測を行った。

- 平成 23～25 年は台風シーズンの 9 月上～中旬に最大雨量を記録していたが、今年（平成 26 年）は 9 月の雨量が非常に少ない年であった（図 1.5.2）。

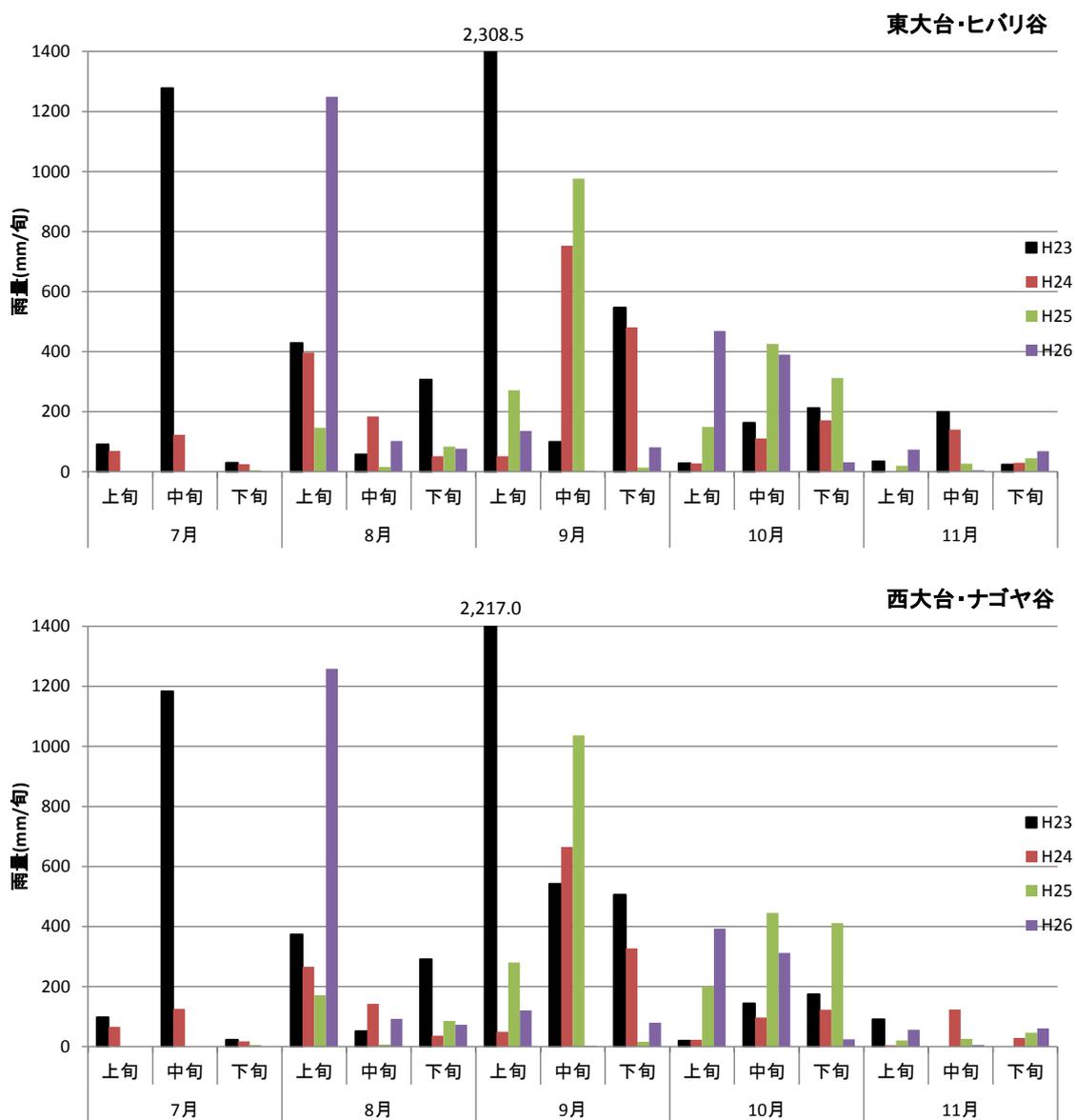


図 1.5.2 平成 23～26 年度の旬別雨量

※集計期間 H23: 7/1～11/26、H24: 7/5～11/27、H25: 7/30～11/27、H26: 8/5～11/28
H23 は東大台で 9/10～9/20、西大台で 11/4 以降、電池切れによる欠測期間があった。

(2) 景観調査

大台ヶ原の植生及び景観の経年変化を把握するため、16箇所の定点（図 1.5.1）において写真撮影を実施した。

定点写真撮影は平成 26 年 10 月 16～17 日に実施した。

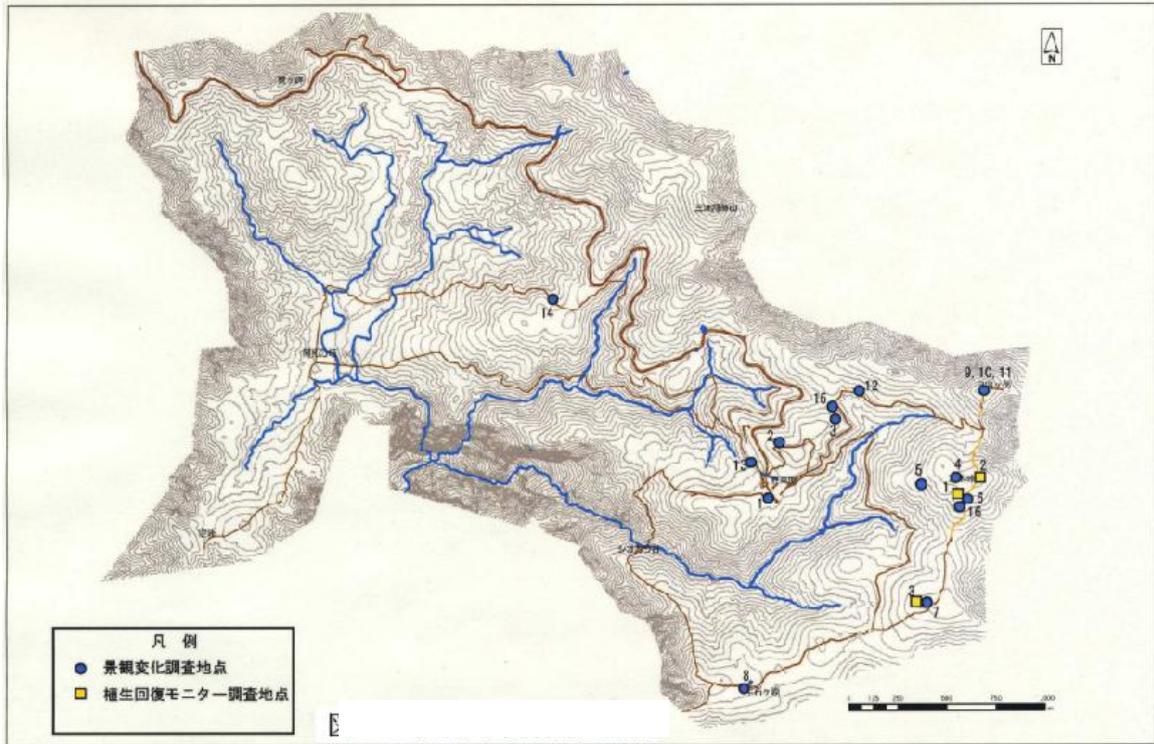


図 1.5.1 定点写真撮影位置図

(3) フェノロジー調査

生態系における生物間の相互作用や環境指標を検討するための基礎資料とすることを目的として、大台ヶ原地域に生育する植物の開花・結実の時期など、フェノロジーに関するデータを取りまとめた。

(4) 動物モニタリング調査

動物モニタリング調査は、動物相や動物群集の回復と変化を継続的にモニタリングし、森林生態系の回復状況を把握することを目的としている。これまで、大台ヶ原を代表する植生タイプごとの防鹿柵内外における動物の変化を把握する調査と、大台ヶ原全体の動物の生息状況とその変化を長期的・広域的な観点から評価する調査を実施してきた。これらの調査結果を踏まえ、平成 27～30 年度にかけて実施する調査の内容、方法等について生物多様性（種多様性）ワーキンググループにて検討し、とりまとめた。

動物モニタリング調査の一環としてクモ類調査を実施し、平成 17、18 年度に行った同調査結果と比較し、その変化等についてとりまとめた。

防鹿柵内のみならず防鹿柵外でもクモ類の種数・個体数の増加傾向が見られた（図 5.4.1、5.4.2）。ニホンジカの生息密度が減少し、防鹿柵外においてもササ類や下層植生が増加しつつあることにより、クモ類も増加した可能性が考えられる。

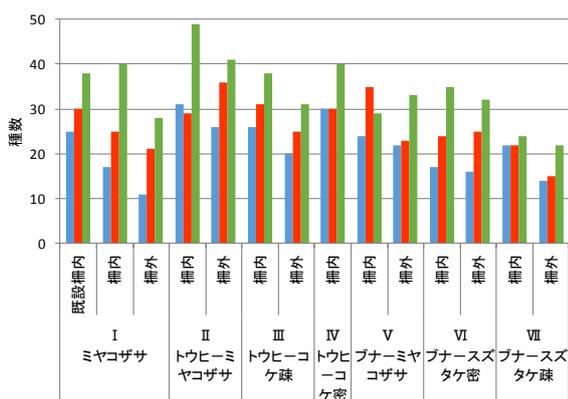


図 5.4.1 調査区別の種数
(不明種を含む)

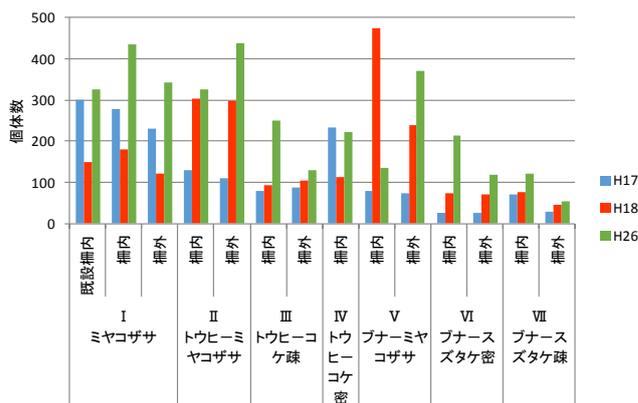


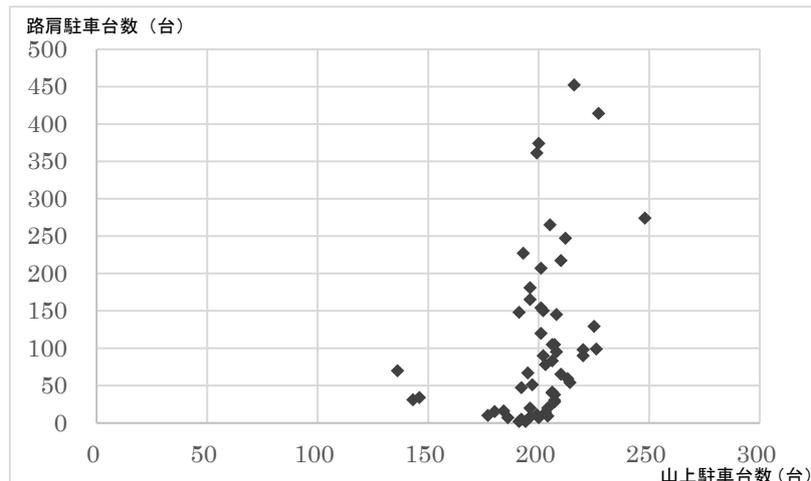
図 5.4.2 調査区別の個体数
(不明種を含む)

山上駐車場の駐車台数と路肩駐車発生状況について

平成 24～26 年度の、大台ヶ原ドライブウェイに路肩駐車が発生した日について、山上駐車場の駐車台数と路肩駐車台数との関係について、散布図を作成した。路肩駐車の日数は、平成 24 年度が 17 日間、平成 25 年度 15 日間、平成 26 年度 23 日間の計 55 日間であった。

山上駐車場の駐車台数と路肩駐車台数との相関係数は 0.358 でほとんど相関はみられなかった。

山上駐車場の駐車台数と路肩駐車台数の関係（平成 24～26 年）



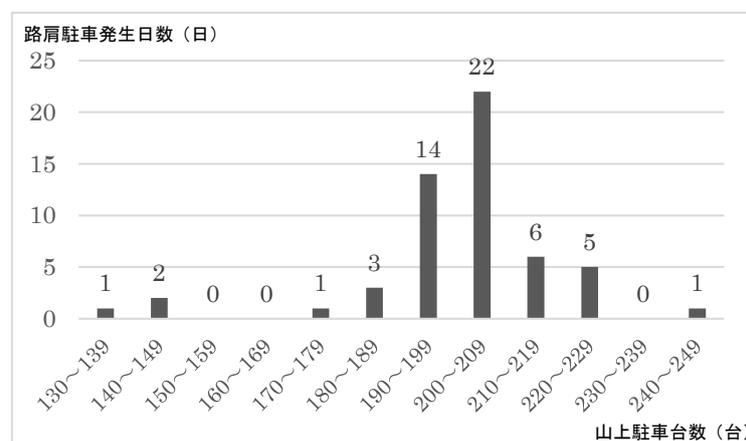
※駐車台数は、いずれも正午時点での駐車台数。

次に、山上駐車場の駐車台数ごとの、路肩駐車発生頻度（日数）について、ヒストグラムを作成した。

山上駐車場の駐車台数が 150 台未満でも路肩駐車が発生した日が、平成 26 年度に 3 日間あり、5 月 17 日（土）（山上駐車場 143 台、路肩駐車 31 台）、5 月 18 日（日）（山上 146 台、路肩 34 台）、9 月 13 日（土）（山上 136 台、路肩 70 台）となっている。

それ以外は、山上の駐車台数 170 台以上で、路肩駐車が発生しはじめており、190～199 台で発生日数 14 日、200～209 台で 22 日となっている。

山上駐車場駐車台数ごとの路肩駐車発生日数（平成 24～26 年）



また、山上駐車場の駐車台数ごとの路肩駐車が発生確率をみると、下表の通りとなり、駐車台数が 190 台を超えると 8 割近い確率で路肩駐車が発生することが分かる。

山上駐車場駐車台数ごとの路肩駐車発生日数及び発生確率（平成 24～26 年）

山上駐車場 駐車台数	日数	路肩駐車 発生日数	発生確率(%)
130～139	10	1	10.0
140～149	13	2	15.4
150～159	13	0	0.0
160～169	12	0	0.0
170～179	7	1	14.3
180～189	11	3	27.3
190～199	18	14	77.8
200～209	22	22	100.0
210～219	6	6	100.0
220～229	5	5	100.0
230～239	0	0	—
240～249	1	1	100.0

西大台利用調整地区の利用者アンケート結果

西大台利用調整地区では、利用者の属性や利用実態、利用後の満足度、事前レクチャーに対する評価等を把握するため、利用者に対するアンケート調査を実施している。以下に、平成 19 年度から平成 26 年度までのアンケート調査結果を集計し、過年度の結果と比較した。

平成 19 年～26 年度のアンケート配布数及び回収率

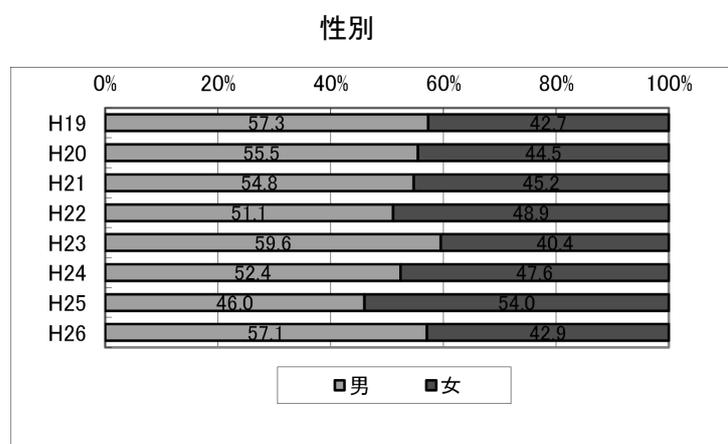
年度	配布数	回収数	回収率
H19	355	348	98.0%
H20	1,025	445	43.4%
H21	1,020	145	14.2%
H22	1,501	448	29.8%
H23	1,604	420	26.2%
H24	1,930	659	34.1%
H25	2,615	545	20.8%
H26※	943	643	68.2%

※平成 26 年度は 10 月～11 月のみ

(1) 回答者の属性

(ア) 性別

回答者の性別は男性が 57.1%、女性が 42.9%であった。

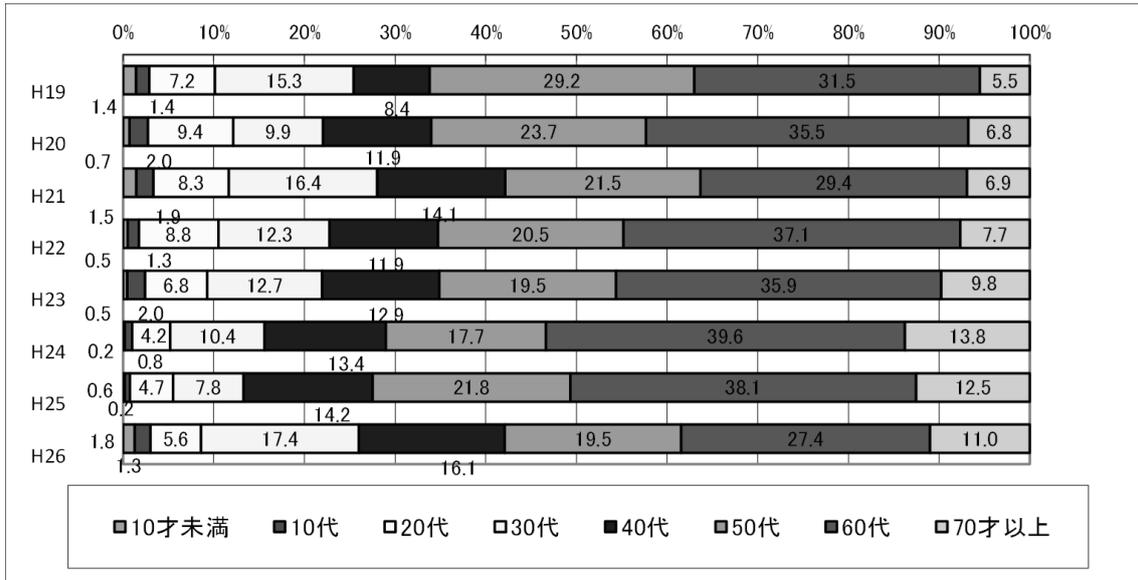


※無回答は除去して集計

(イ) 年齢

回答者の年齢は、過年度と同様に、60代の割合が 27.4%と最も多く、次いで 50代が 19.5%となっており、60代以上が 38.4%を占めている。

年齢



※無回答は除去して集計

(ウ) 居住地

居住地については、大阪府が最も多く、33.6%を占め、次いで兵庫県 16.0%、京都府 11.0%の順となっており、大阪府、兵庫県、京都府の3府県で過半数を占めている。また、岡山県、愛知県などの利用者も比較的多くなっている。経年的にみると、上位府県の傾向は、概ね同様となっている。

居住地（上位8位）

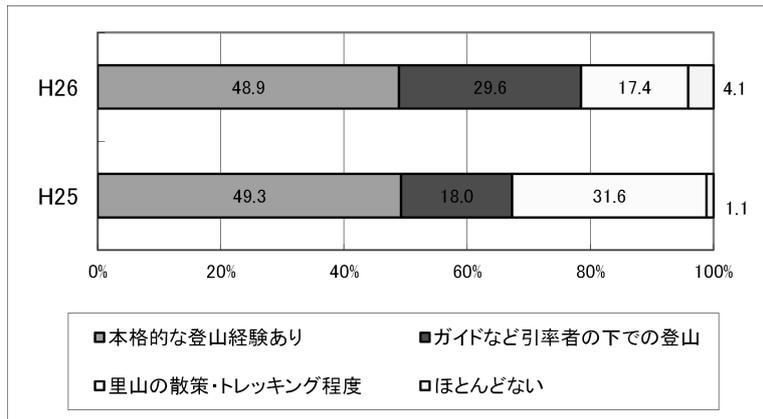
																(%)
		H19		H20		H21		H22		H23		H24		H25		H26
1	大阪	39.4	大阪	35.4	大阪	30.5	愛知	23.2	大阪	33.1	大阪	31.9	大阪	29.0	大阪	33.6
2	奈良	15.2	奈良	13.3	兵庫	14.2	大阪	20.2	奈良	19.0	奈良	13.2	奈良	15.6	兵庫	16.0
3	兵庫	11.2	兵庫	11.3	奈良	13.3	奈良	16.2	兵庫	11.5	兵庫	8.9	兵庫	13.8	京都	11.0
4	三重	9.5	京都	6.6	京都	9.3	兵庫	10.6	愛知	6.0	愛知	8.9	愛知	8.2	奈良	9.5
5	京都	6.0	三重	6.2	神奈川	4.2	京都	10.1	京都	5.8	三重	7.6	京都	5.8	岡山	6.0
6	愛知	4.9	東京	6.1	愛知	4.0	三重	8.0	三重	4.8	京都	7.3	和歌山	4.3	愛知	5.8
7	東京	2.6	愛知	6.0	東京	3.6	和歌山	2.7	和歌山	4.5	静岡	6.2	神奈川	3.9	和歌山	4.7
8	神奈川	1.7	和歌山	3.8	和歌山	3.6	岐阜	1.8	福岡	2.5	和歌山	3.0	滋賀	2.9	三重	2.7

※無回答は除去して集計

(エ) 登山経験

登山経験については、昨年度とほぼ同様に、「本格的な登山経験あり」とした人が最も多く 48.9%を占め、次いで、「ガイドなど引率者の下での登山」が 29.6%、「里山の散策・トレッキング程度」が 17.4%、「ほとんどない」が 4.1%であった。

登山経験

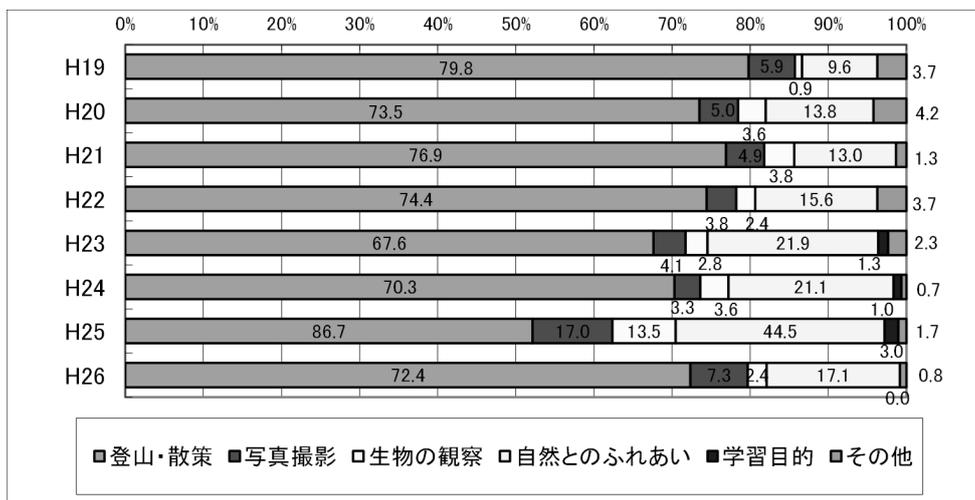


※無回答は除去して集計

(オ) 来訪目的

来訪目的は「登山・散策」が72.4%と最も多く、次いで「自然とのふれあい」が17.1%、「写真撮影」が7.3%であった。

来訪目的

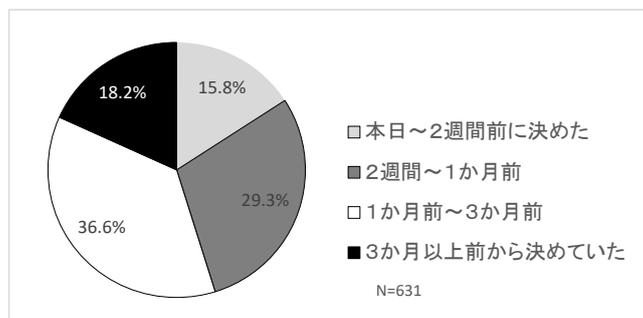


※「学習目的」の選択肢は平成23～25年度のみ。
 ※平成25年度は設問が複数回答だったので、合計が100%を超える。
 ※無回答は除去して集計

(2) 来訪を決めた時期

西大台利用調整地区の利用を決めた時期は、「1か月前～3か月前」が36.6%で最も多く、次いで「2週間～1か月前」が29.3%であった。「本日～2週間前に決めた」も15.8%見られた。

来訪を決めた時期

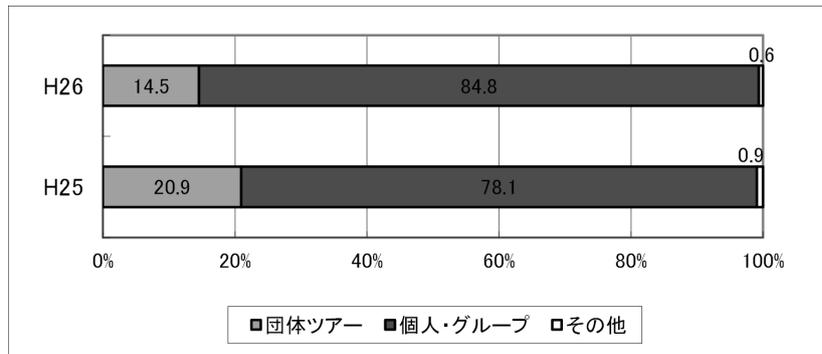


※無回答は除去して集計

(3) 団体ツアー・個人等の別

団体ツアー・個人の別については、昨年度とほぼ同様に、「個人・グループ」が 84.8%を占め、「団体ツアー」は 14.5%であった。団体ツアーの具体的な主催者名は「クラブツーリズム」が 25 件、「銀のステッキ」及び「阪急トラピックス」が 8 件となっていた。また「個人・グループ」との回答者に構成人数を尋ねたところ、「2～4人」が 54.7%と最も多かった。

団体ツアー・個人等の別

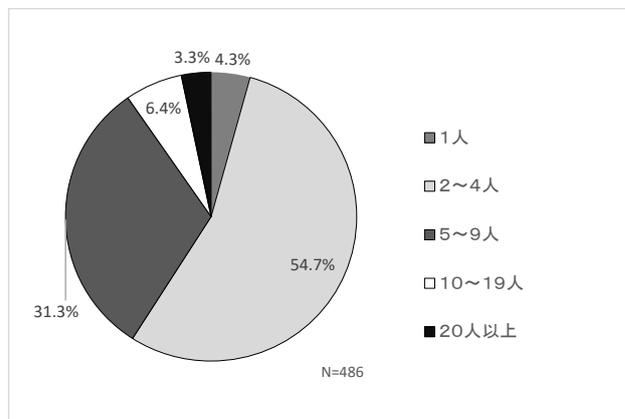


※無回答は除去して集計

具体的なツアーの主催者名

主催者名	回答数 (54 件)
クラブツーリズム	25
銀のステッキ	8
阪急トラピックス	8
コバントラベル	4
トラベルギャラリー	2
ビスターリアアドベンチャークラブ	2
近畿日本ツーリスト	1
個人ガイドツアー	1
阪急交通社	1
登山の会	1
名鉄観光	1

個人・グループの構成人数

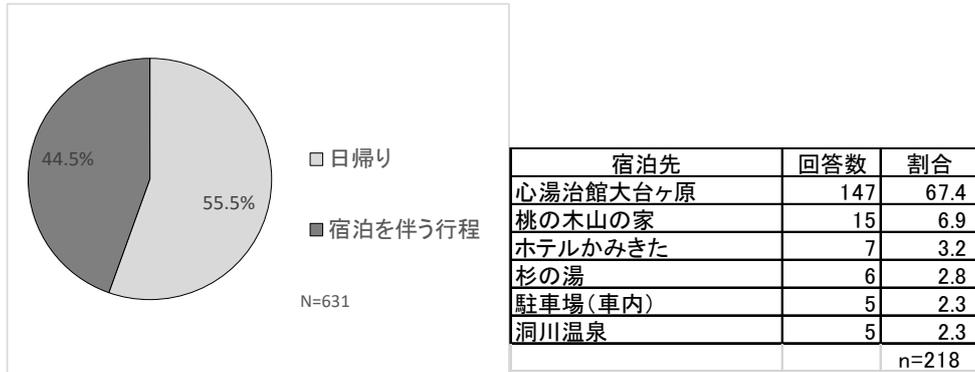


※無回答は除去して集計

(4) 行程

行程については「日帰り」が 55.5%、「宿泊を伴う行程」が 44.5%となっている。なお「宿泊を伴う行程」との回答者の具体的な宿泊先としては「心湯治館 大台ヶ原」が 147 件 (67.4%) と最も多く、次いで「桃の木山の家」が 15 件 (6.9%) であった。

行程と具体的な宿泊先 (右)



※無回答は除去して集計

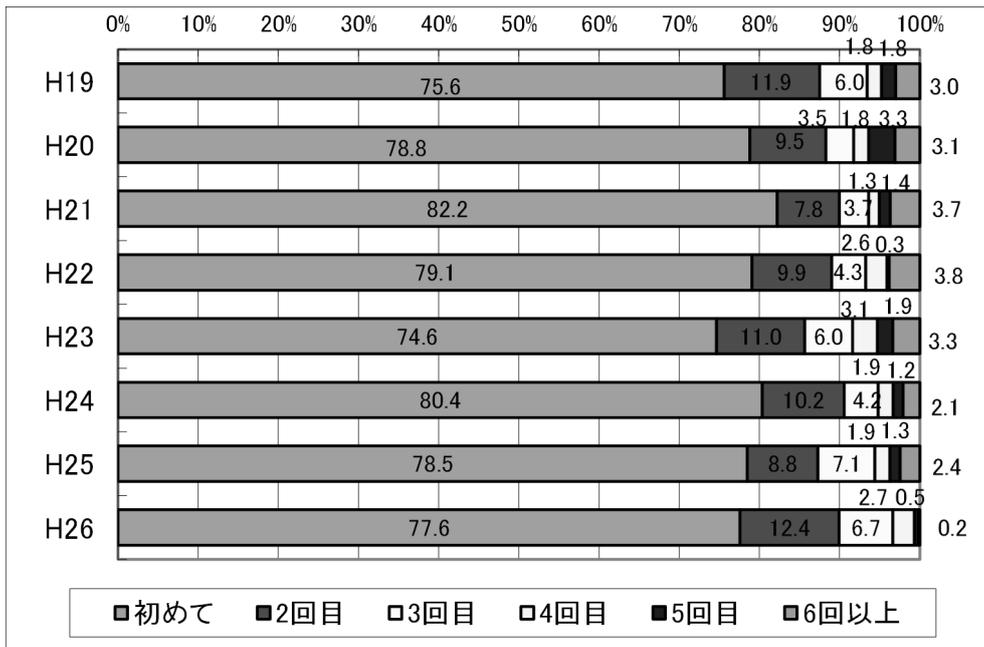
(5) 来訪回数

(ア) 西大台地区への来訪回数

西大台地区への来訪回数は、今回が初めてである人の割合が 77.6%と最も多かった。この傾向は、利用調整の開始後、大きく変わっていない。

利用調整開始前の平成 18 年度の西大台の利用者に対する意識調査 (回答者数 110) の結果と比較すると、平成 18 年度の調査では、西大台に初めて来た人の割合は 52.8%となっており、利用調整の開始後、初めて来た人の割合が増加している。

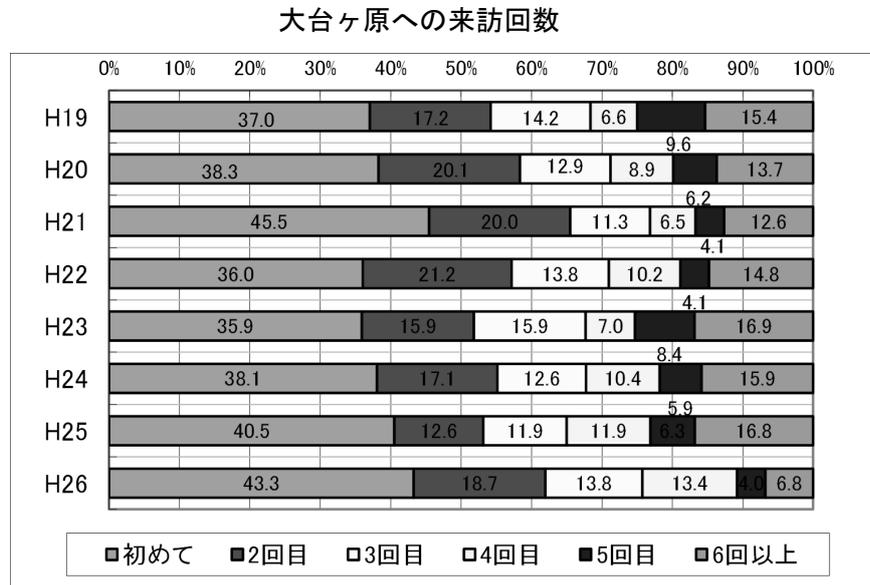
西大台地区への来訪回数



※無回答は除去して集計

(イ) 大台ヶ原への来訪回数

大台ヶ原への来訪回数についても、「初めて」の割合が43.3%と最も多かった。この傾向は、利用調整の開始後、大きく変わっていない。

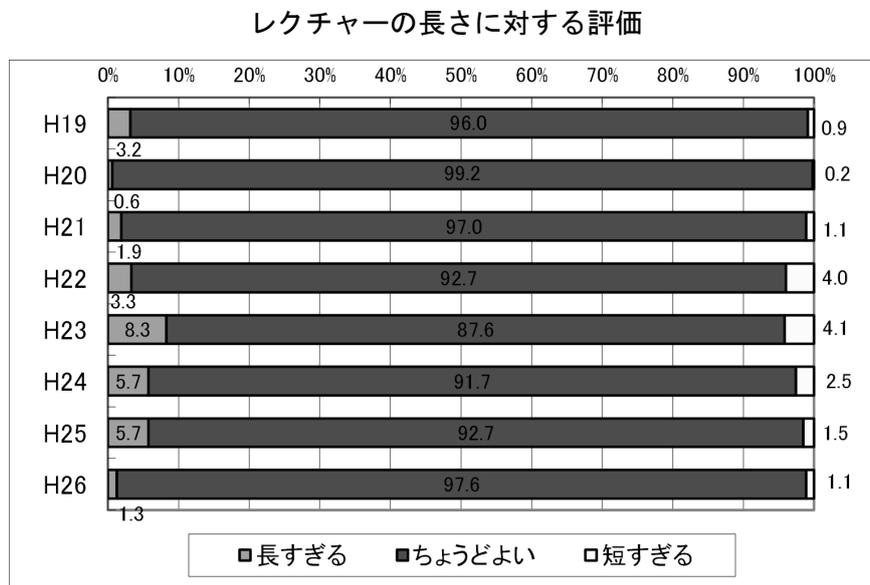


※無回答は除去して集計

(6) 事前レクチャーについて

(ア) 事前レクチャーの時間の長さ

事前レクチャーの長さについては97.6%が「ちょうどよい」と回答しており、昨年度の92.7%から増加した。



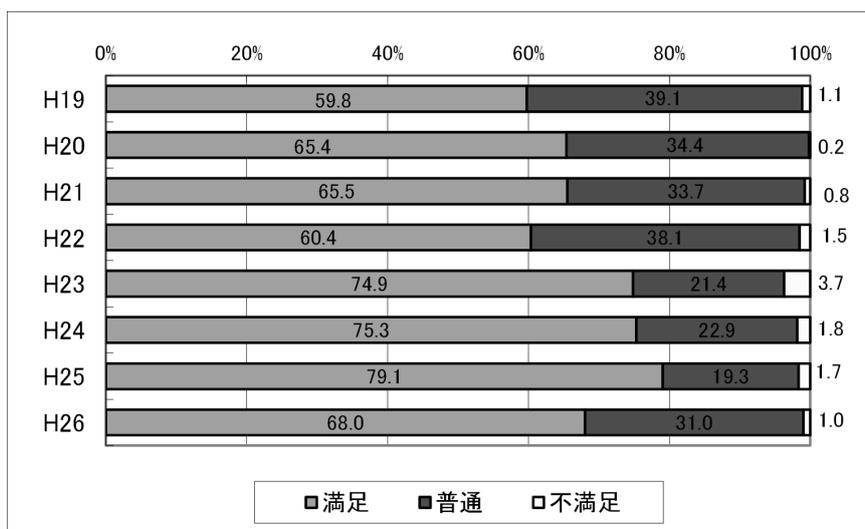
※無回答は除去して集計

(イ) 事前レクチャーの内容

①全体

事前レクチャーの全体的な内容については、「満足」が68.0%と最も多く、「普通」が31.0%、「不満足」が1.0%となっており、概ね満足度は高いと言える。

レクチャー全体に対する評価

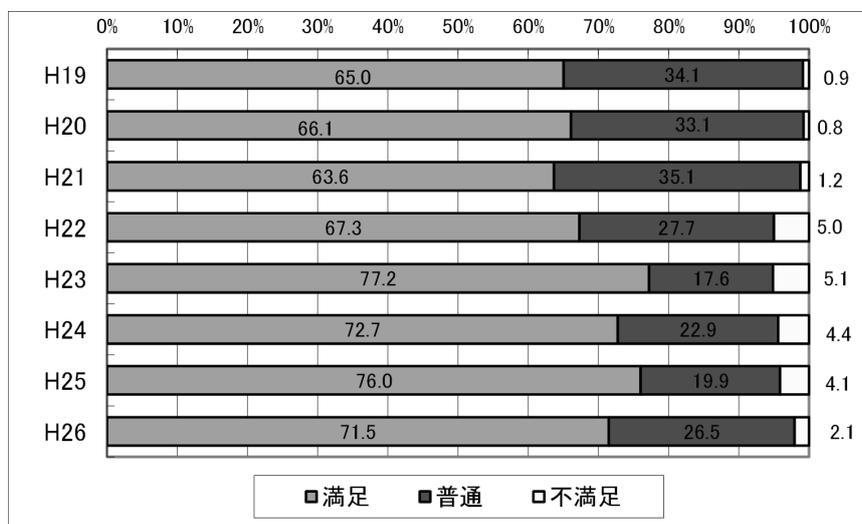


※無回答は除去して集計

(ウ) 冊子の内容

配布冊子の内容については、「満足」が71.5%と最も多く、「普通」が26.5%、「不満足」が2.1%となっており、概ね満足度は高いと言える。

冊子に対する評価



※無回答は除去して集計

(エ) 配布冊子の不満点等

配布冊子について、「不満」と答えた理由については、「地図に現地にある標識の内容を記入してほしい」や「コースタイム」、「保護されてからの変化」等を追加してほしい、使いやすいように「地図を取り外せるように」してほしい、「事前に冊子を送付してほしい」等、計20件の意見があった。

配布冊子の不満点等についての自由記述（20件）

区分	記述内容
追加すべき情報 (14件)	5～6ページの地図に現地にある標識の内容を記入してほしい。地図を見ても、今どこにいるのかわからない。
	道標に両方の場所をかいしてほしい。リーダーが欠席の時の対応を考えてほしい。途中、登山道が不明瞭な箇所がある。
	コースタイム（区間別）を入れたほうが良い。
	周遊コースの目安が5時間となっていたが、もう少し短いのではないと思う。
	昼食ポイント
	撮影についての注意事項をわかり易い場所に記載してほしい。
	もう少し動植物の情報を載せてほしい。
	もっと厳しく、深く勉強するのだと思っていたので不満です。木や苔の種類がもっとわかるとうれしいです。
	見れる生き物やキノコ、木や植物とその分布も少し知りたかった。（散策するポイントを知りたい）
	冊子に載っていない植物があった。気になる…。
	植物について教えてもらえるとありがたいです。
	もう少し、歴史や植物の説明が欲しかった。
	松浦武四郎の碑の説明をしてほしかった。地図にも記してほしい。（2件）
	地図がもう少し詳しい方が安心です。
冊子の仕様 (5件)	西大谷の地図が取り外せるようになっていたら登山者は見やすい。
	地図を取り外せるように。
	内容は満足でしたが、マップが冊子にとじられているのではなく、1枚もので折りたためるとよりいいなと思いました。
	地図をもう少し大きく。
	わかりにくい。地図を大きく、別紙でもよい。
その他 (1件)	不満はありませんでしたが、せっかく良い冊子があるので事前に送ってもらえたりすると魅力が伝わるのかなと思います。

(オ) レクチャーについての自由意見

レクチャーについての自由意見では、レクチャー開始時間等に係る要望(30件)や感想(15件)、講義内容に関する要望(14件)や感想(14件)等、計73件の意見があった。

レクチャーについての自由記述（73件）

区分	記述内容
開始時間に係る 要望 (30件)	もう少し早い時間にあってもいいと思う。
	もう少し早く開始していただければありがたい。
	もっと早い時間にもレクチャーをしてほしい。
	開始時間をはやめてほしい。2回目は何時でも入山できるようにしてほしい。
	開始時間を早めて欲しい。（土日祝は）
	レクチャーは丁寧で良かったが、9時頃開始の講座があれば、さらに良い。
	朝早くからしてもらえるとありがたいです。
	平日の7:30も欲しいです。
	平日も少し早い時間があればいい。
	7:00 スタートでは？
	8:00, 16:30 もつくってほしい。
	バスの到着時刻に合わせた開始時間にしてほしい。
	バスで到着した当日のレクチャーから、西大谷のスケジュールだったので、展望台までまわるには時間がギリギリでした。もう少しコンパクトにしていたらと思いました。結局11:45に歩き始め、13:40展望台下、15:15大台教会。反時計回りで展望台下からは、1時間35分でした。そこまでは2時間です。お役立てください。
	10:30を逃してしまい、奇跡的に団体と一緒に11時をうけることができたのでよかったです。
	11:00、11:30の時間割を増やしてほしい。1時間の待ちはつらいです。
	午前中の回数を多くしてほしい。例えば、8:30～9:00、9:15～9:45、10:00～10:30等。
	今回特別に時間調整してもらったが…もし定時まで待っていれば下山が暗くなる場所だった。

	勝手ではありますが、泊の場合、夕刻にしていれば東大台の散策にもっと時間を費やすことができました。但しお勤めのことを考えればやむを得ないと納得しました。前日に受けようと思ったのですが、時間が合わず。車を降りてから、15:30～、15:00～とかも在れば良い。
	夕方5時頃からのレクチャーの時間をつくってほしい。ガイドブックに目をと押す時間が欲しい。
	13～15時の間に1回あったら、より便利だと思います。
	30分刻みでほしい。
	レクチャーが30分毎にあると嬉しい。
	レクチャーが1時間毎ではなく、30分毎にあると嬉しい。
	30分に1回がよいか～とお人の人数にもよりますが。
	1時間毎ではなく、随時やっていただくとありがたい。
	随時開講が望ましいように思う。
	1日に何回実施されているのか不明な為わかりません。
	見落としたかもしれないが、入山者に勧められる受講時間を書いていただきたい。
	途中入会する人があった。時間厳守してほしい。
	途中入場も有りにしてください。
開始時間等に係る感想 (15件)	8時半からの受講ができ、余裕をもって散策できた。
	朝一番のを受けてちょうどいい感じに回れてよかったですと思います。
	16時からでしたが、私たちにはちょうど良かった。
	前日の16時に受講できて良かった。
	二人だけのために前日のうちにやっていただき、ありがとうございました。
	入之波まで戻るのに1時間かかり、夕暮れを考慮してガイドしていただいたことで、本当に助かりました。
	夕方の前日に実施してもらってよかった。
	様々な行程の人に対応できてよいと思う。宿の人が前日最終のを受けたらよいと教えてくれて大変助かりました。
	臨機応変に対応いただき散策の時間を長くとれた。
	臨機応変に対応してくれたので、ありがたかったです。どうもありがとうございました。
	無理をきいてもらい、時間外にレクチャーしていただきありがとうございます。
	時間を調整いただき、ありがとうございます。
	時間外に行ったのにレクチャーをしていただきありがたかったです。
	突然の訪問に快く時間を合わせていただいて感謝します。
	遅れましたが、入れてもらって上がった。
講義内容に係る要望 (14件)	自然保護の状況、及び西大台地区の特性(植物・動物を含めて)など学術的なレクチャーも必要。またトイレの使用、ストックの使用などの説明も欲しかった。
	大台のなりたち、地質など話が聞きたかった。冊子などを見ればわかることばかりではレクチャーの意味がない。
	自然保護徹底を、もっと厳しく指導された方が良い。
	当時見られる花、茸、コケ類の1～2種をわかるように説明してほしい。
	最低コケ1種について他人に説明できるようになりたい。
	特別な内容はなかったと思う。
	保護されてからの変化など、きけると意義が伝わりやすい。
	大人だけのレクチャーでした。(15～16人?)話し方の工夫を。この高さ(内容)など子供向けにはよいとおもいますが、トーンをもう少し低くして欲しい。聞き取りにくい。
	レクチャーの部屋が寒かった。ちょっと機械的な説明だったか。
	少し迷った。もう少し詳しく説明してもらえたら初心者でも安心できると思います。
	WEBで事前にレクチャーが受けられれば便利。
	各自ビデオを見る程度で良いと思う。
	毎年レクチャーだと新しい情報を入れてくれるとありがたい。
	レクチャーは初めての人だけにしてほしい。
	同伴者がレクチャー受講者なら、2～3人までなら免除してほしい。
	クライミング用を別にしていいただければ尚よいです。
講義内容に係る感想 (14件)	インストラクターの柔軟な対応、質問に対する返答などとても心の行き届いたものと感じました。ありがとうございます。
	すごく素敵な説明で、飽きさせない、印象に残るレクチャーでした。先生のファンになりました。
	とても参考になって受けてよかったです。

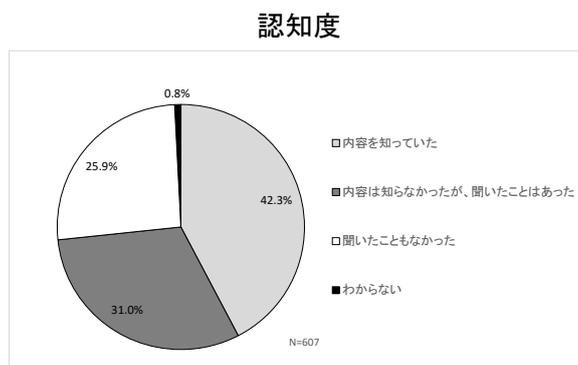
もっと話を聞きたい。
レクチャーの内容はとてもわかりやすく、説明も良かった。
わかりやすく説明してくださってとてもよかったです。
解りやすく丁寧に本当に良かったです。予備知識のお陰で安心して散策できました。
大変聞きやすかったです。質問もしやすい雰囲気、いろいろたずねてみたいと思いました。
担当者の方が明るく、丁寧に説明してくれてよかった。
饒舌なおしゃべりで、楽しくレクチャーを受けられました。
MAPの説明が楽しいです。
ガイドブックは充実したものでとても勉強になります。(写真もとってもきれいですね)
西大台の大事さが改めて実感しました。
質問時間をとってもらえたのが good。ルートはもちろん、自然、人文についても教えてもらえた。

(7) 西大台利用調整地区の認知手段

(ア) 西大台利用調整地区の認知度

① 認知度

西大台利用調整地区の制度について、事前に知っていたかどうかの設問に対しては、「内容を知っていた」が 42.3%、「内容は知らなかったが、聞いたことはあった」は 31.0%であり、両者合わせて全体の 7 割程度を占めていた。

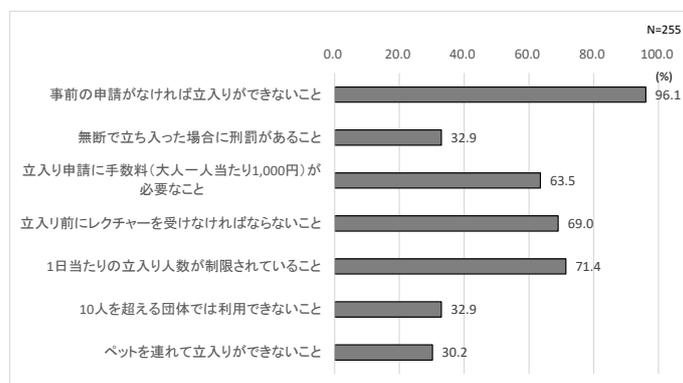


※無回答は除去して集計

② 認知の度合い

上記設問で「内容を知っていた」方が、どの程度の内容を知っていたかという設問に対しては、「事前の申請がなければ立入りができないこと」は 96.1%に認知されており、「1 日当たりの立入り人数が制限されていること」は 71.4%、「立入り前にレクチャーを受けなければならないこと」も 69.0%に認知されていた。一方で、「10 人を超える団体では利用できないこと」や「ペットを連れて立入りができないこと」については、やや認知度が低かった。

認知の度合い（複数回答）

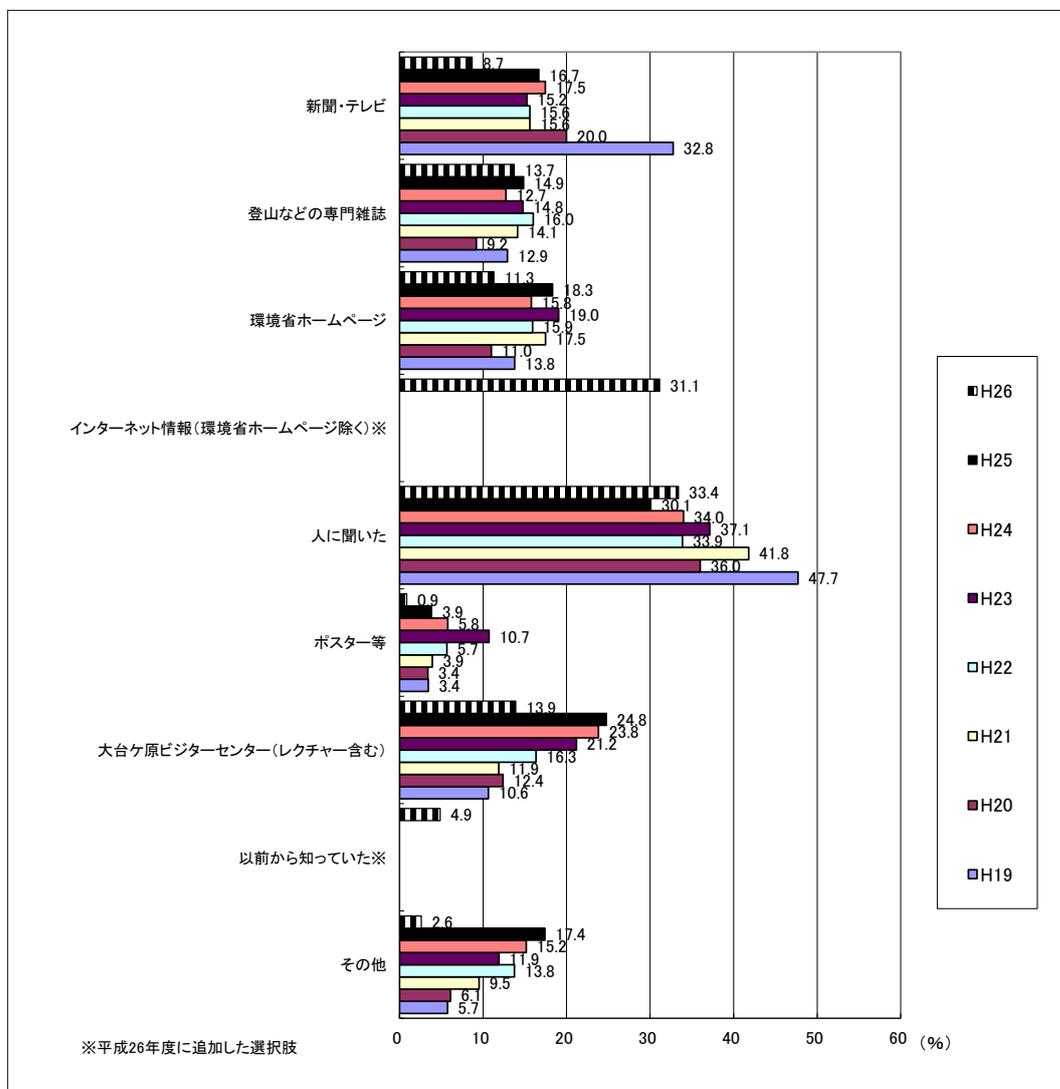


※無回答は除去して集計

(イ) 西大台利用調整地区の認知手段

西大台利用調整地区の認知手段としては、過年度と同様に「人に聞いた」が33.4%と最も多く、次いで、今年度調査より追加した選択肢、「インターネット情報(環境省ホームページ除く)」が31.1%となっている。

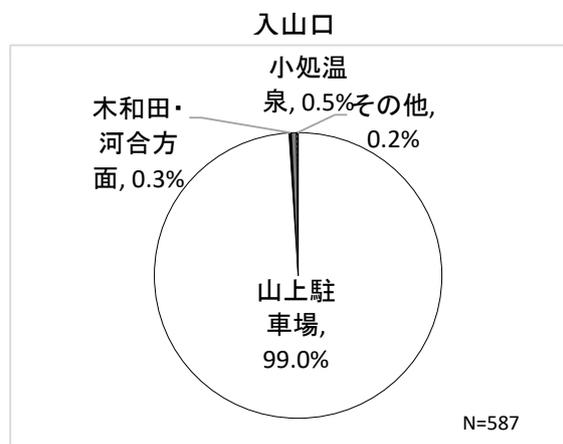
西大台利用調整地区の認知手段(複数回答)



(8) 利用ルート

(ア) 入山口

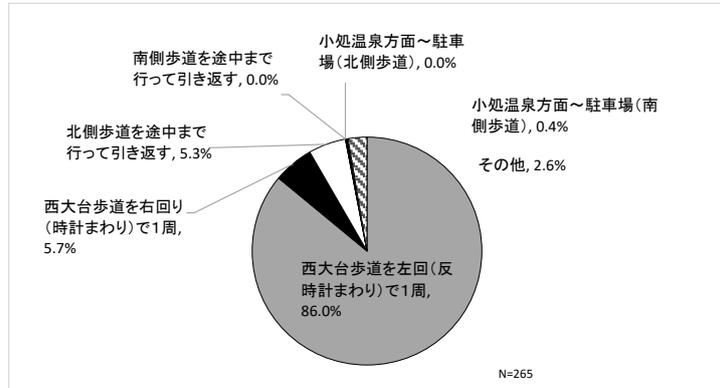
入山口は、「山上駐車場」が99.0%を占めており、次いで「小処温泉」が0.5%となっている。



(イ) 利用ルート

西大台利用調整地区の利用ルートとしては、「西大台歩道を左回（反時計まわり）で1周」が86.0%と最も多く、次いで「西大台歩道を右回り（時計まわり）で1周」が5.7%、「北側歩道を途中まで行って引き返す」が5.3%であった。

利用ルート



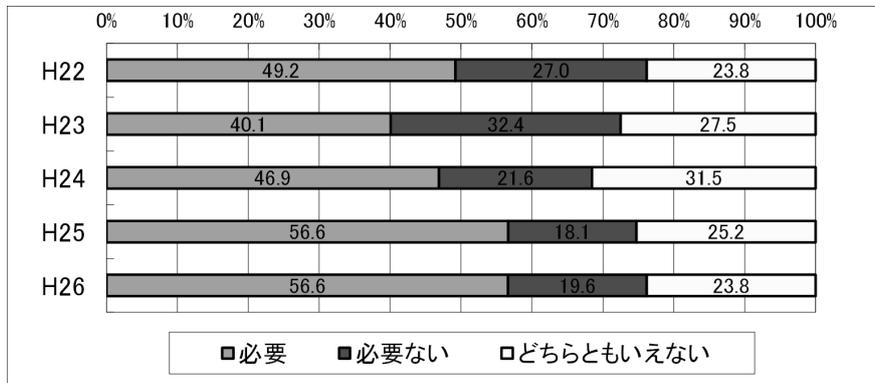
※無回答は除去して集計

(9) 携帯用トイレブースの設置について

(ア) 携帯用トイレブースの必要性

携帯用トイレブースの設置については、「必要」が56.6%、「必要ない」が19.6%、「どちらともいえない」が23.8%であった。経年変化をみると「必要ない」の割合が減ってきている。

携帯用トイレブースの設置について



※無回答は除去して集計

(イ) 携帯用トイレブースに係る自由意見

携帯用トイレブースについての自由意見では、設置が必要とする意見としては「最低限で良いが自然を守るために1つは必要」、「女性は特に必要と思う」「知床等の他地域でも利用して必要と思った」等、不要とする意見としては「景観が壊れてしまうのが心配」「自然に反する」等、合わせて95件の意見があった。

携帯用トイレブースに係る自由記述（95件）

区分	記述内容
必要 (66件)	3か所位あれば安心。
	トイレブースが、1～3箇所あると嬉しい。
	トイレブースがいくつかあれば助かる。
	トイレブースは一か所はほしい。
	一か所だけでもあれば良い。
	中間に一箇所でもいいのであれば安心。
	途中で一箇所あった方がよいと思います。
	東大台でも実施すべき。またゴミやトイレ等マナーについては、もっとわかるように駐車場や入り口に出した方がよい。
	あった方が自然環境に良いのでは？
	そのつもりでいれば、もつことがわかりましたが、やはり腹痛とか吐瀉の場合もあり自然を汚さないためにもあった方がよい。
	景観に溶け込むものであれば、コース内に2か所ほどあってもいいと思う。
	女性が少し不便。
	女性としては有った方がよい。ただブースがあっても携帯トイレを持っていないと意味がありません。
	女性は特に必要と思う。携帯用トイレの販売も必要（忘れてくる人、知らない人のため）
	女性は特に必要なのでは？
	中ノ谷、七ツ池中間
	但し有料にする必要がある。
	丁度中間地点なので、展望台のところにトイレは必要だと思いました。
	入山料をもっと取って、エコトイレを入れてほしい。
	尿袋の販売、有料回収が必要。
	トイレ用品の販売、使用後の持ち帰りマナーなどを徹底指導しなければ、マナー向上にはならないと考える。
	どこまで持ち帰るのですか。ポストを設置する場所が問題。
	ビジターセンター等で携帯トイレの販売をしないと、成果は出ないと思います。
	携帯トイレを使用しても、捨てられる場所が無いと、ずっと持っていないといけないので困る。
	4～5時間の長時間ではトイレが必要でしょう。
	特に女性の場合はブースが必要でしょう。
	5時間コースのため、1か所は必要。
	5時間は少し長いので必要と思います。
	5時間近くもトイレに行けないのはつらい。我慢しようと思えばできるが、寒い日や高齢者には厳しいと思う。水分補給もトイレに行けないので控えるしかなかった。
	トイレがあることで観光客が増えることは事実ですが、管理運用の人手が必要なもの事実です。行程が長いのであってもよいと思います。
	トイレに近い方は、ブースがあった方が安心して歩けると思う。
	トイレキッドを有料で購入し、用を足して持ち帰る。ガイドがいないと山中でしてしまう。
	トイレをすごく我慢したので、是非設置してほしい。
	トイレを作ってください。
トイレ設置が無理であればブースが必要ですし、積極的に携帯させるべきである。全国的に言えることだと思います。	
トイレ設置強く希望。	
とても必要なので、是非設置してほしい。	
バイオトイレの設置を希望します。	
やっぱり人間。万が一の時どうするのかと思った。	
やはり必要と思います。	
ゆっくり散策したいときは、ブースがあった方が安心かも…。	
往復5時間は少し不安。水分を取るのを我慢してしまう。	
夏はそうでもなかったが、秋は良いと思う。ただ携帯トイレを持ってくる人がどのくらいいるのかと思う。	
我慢の限界の時は困る。	
開拓跡あたりに設置してください。	
開拓跡にトイレ設置が望ましい。	

	開拓分岐あたりがあると better
	岐阜の山においてもありますので、いいことだと思います。
	帰りのルート（時計周り）にもあれば良いと思う。
	季節、その人によって異なるので、ブースがあると精神的にも楽なのでは…。
	距離が長いので、トイレブースは必要。
	携帯トイレの使用の奨励が必要。
	携帯トイレの周知のためにもあった方がよい。
	携帯トイレは持たせるべきです。
	五時間トレッキングでトイレが無ければどこかですることになるだろう。トイレブースが一か所でもあれば、我慢する人も増えると思う。
	高齢者の登山者が増加している状況を考えるとコースの途中にトイレを設けたほうがよい。
	今回、途中で腹痛が起こりトイレに行きたくなり、子供と引き返したので、あってもいいかも。
	今回あると思っていたのですが、ないと聞いて心細い気がしました。
	今回は必要ともしませんでした。必要だと思います。
	どこにあったか気がつきませんでした。
	最低限で良いが、自然を守るためには一つは必要。
	最低限必要と思われる。
	私は我慢できたが、我慢できない人もいると思う。
	自分は我慢できたが、トイレの近い方は途中でしたくなるはず。
	自分は大丈夫だったが、人によってはトイレなしでは困る人もいるかもしれない。確かに景観等との兼ね合いも難しいが…。
	長時間歩くのであった方がよいと思う。
	便意と景気は予測できない。
	利尻、トムライウシ、知床などで利用し必要だと思った。
	利用の有無は別として設置した方がよい。
必要なし (9件)	あった方が助かるが、問題はあろうと思う。
	必要なかった。
	4~5時間なら我慢できる。
	あったら利用するかもしれないが、無くても我慢できる。
	あれば便利かもしれない。本来はないにこしたことはないと思います。
	トイレブースがあることは便利だとは思いますが、自然に反するような気がします。
	景観がこわれてしまうのが心配です。
	現状で気にならなかった。
	環境も考えて。
わからなかった (22件)	トイレについての説明なかった。
	まったく気づかなかった。もう少し案内があってもよい。
	携帯トイレブースがあるとは知りませんでした。レクチャー時に話してくれると助かります。
	あったのですか？わかっていれば使いたかった。
	気づきませんでした。※景観にとけこむ様なものであれば可。
	場所がわからなかった。(17件)

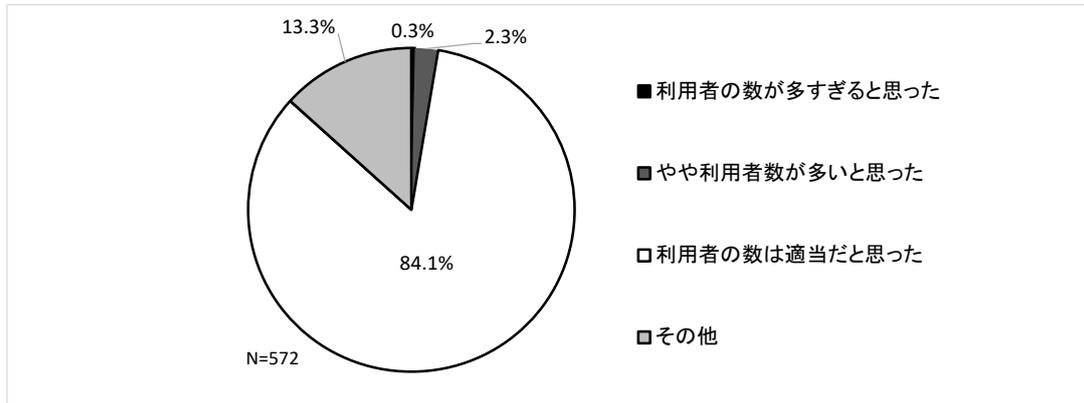
(10) 混雑感と対策

(ア) 混雑感

西大台利用調整地区のルートを歩いた際の混雑感については、「利用者の数は適当だと思った」が 84.1%と最も多く、次いで「利用者の数が多すぎると思った」と「やや利用者数が多いと思った」は合わせて 13.6%であった。

「利用者が多い」と感じたとき回答した方に、「概ね何人の人に出会ってそう感じましたか」という問には、3人から20人まで幅広い回答が得られた(9件)。

混雑感



※無回答は除去して集計

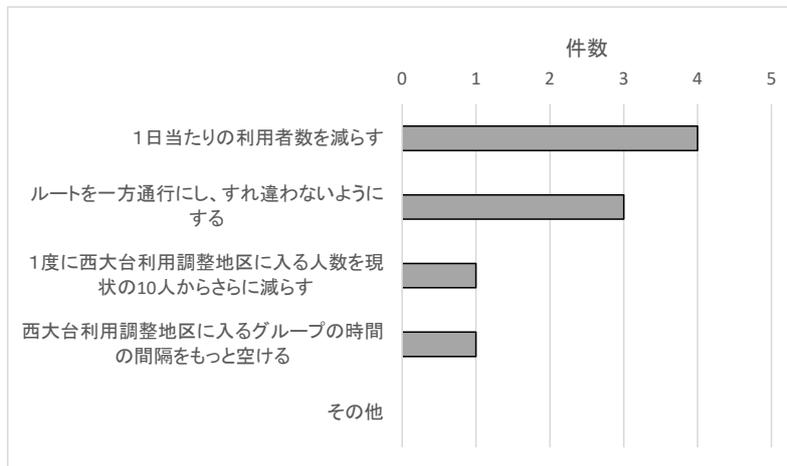
「利用者数が多い」と感じたときの会った人数

人数	回答数 (N=9)
1人	1
2人	1
5人	3
9人	1
15人	2
20人	1

(イ) 混雑への対策

ルート上で混雑を感じないようにする対策としては、9件の回答があり「1日当たりの利用者数を減らす」が4件で最も多かった。

混雑への対策

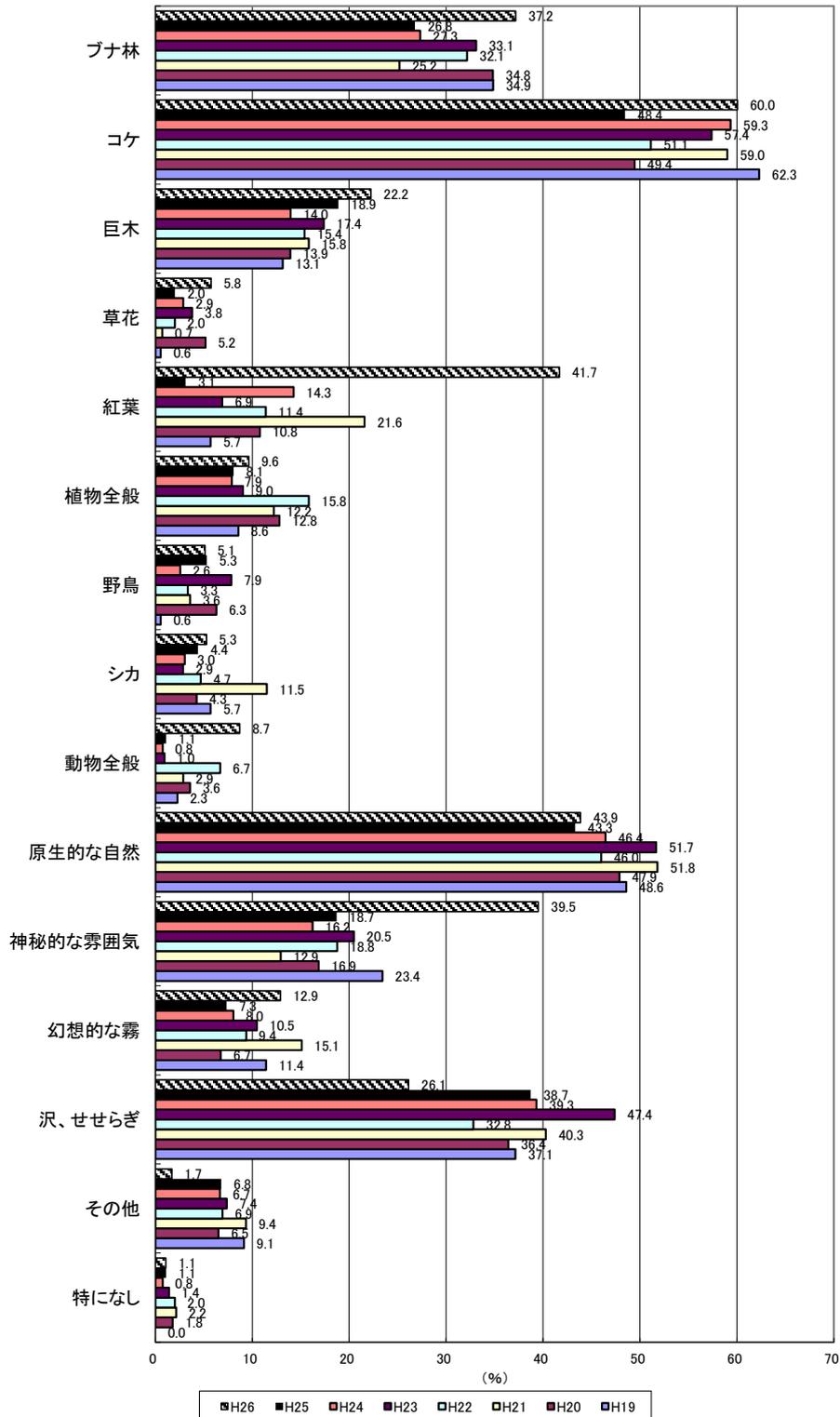


※無回答は除去して集計

(11) 期待していたものと感想

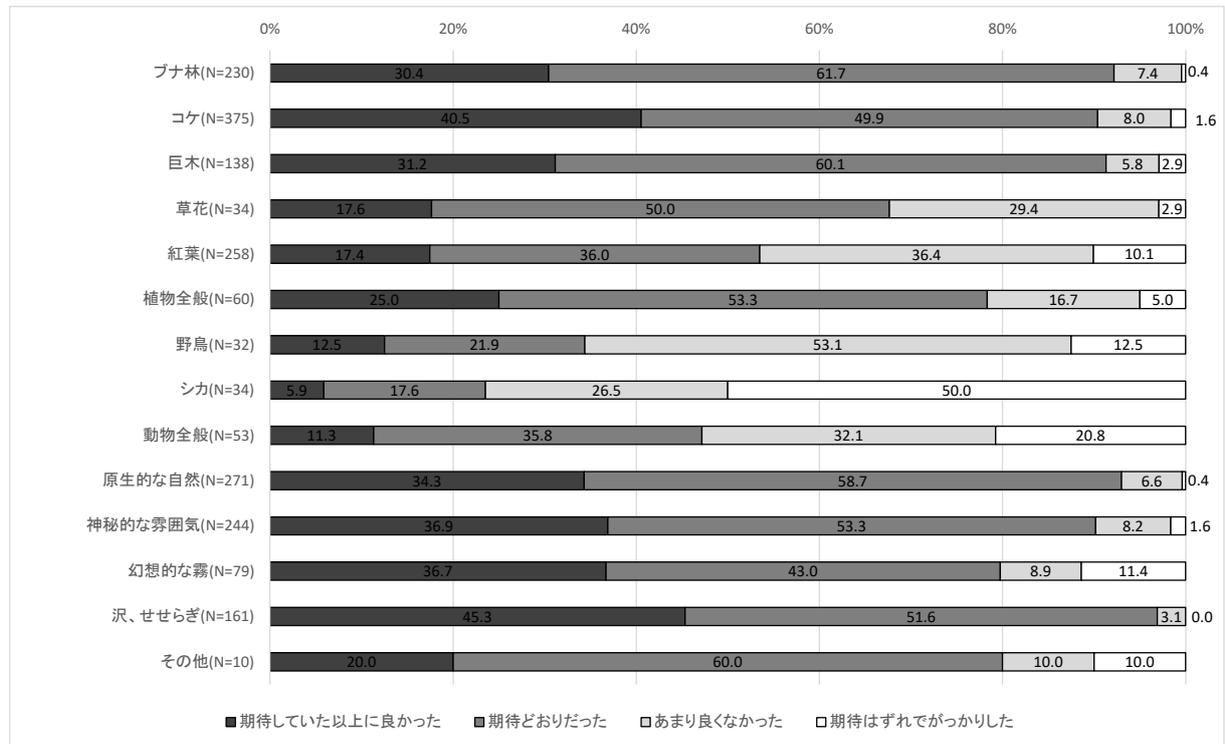
西大台利用調整地区への来訪にあたり、期待していたものとそれに対する感想について尋ねたところ、期待していたものの割合は「コケ (60.0%)」、「原生的な自然 (43.9%)」、「紅葉 (41.7%)」、「神秘的な雰囲気 (39.5%)」の順に多かった。経年調査と比べると、「紅葉」の割合が突出しているのが特徴的である。

期待していたもの (複数回答)



期待していたものに対する感想として、「期待していた以上に良かった」又は「期待通りだった」の割合の合計値が高かったのは、「沢、せせらぎ（計 96.9%）」「原生的な自然（同 93.0%）」、「ブナ林（同 92.2%）」、「巨木（同 91.3%）」等であった。逆に「あまり良くなかった」又は「期待はずれでがっかりした」の割合の合計値が高かったのは、「シカ（同 76.5%）」、「野鳥（同 65.6%）」であった。

期待していたものの感想

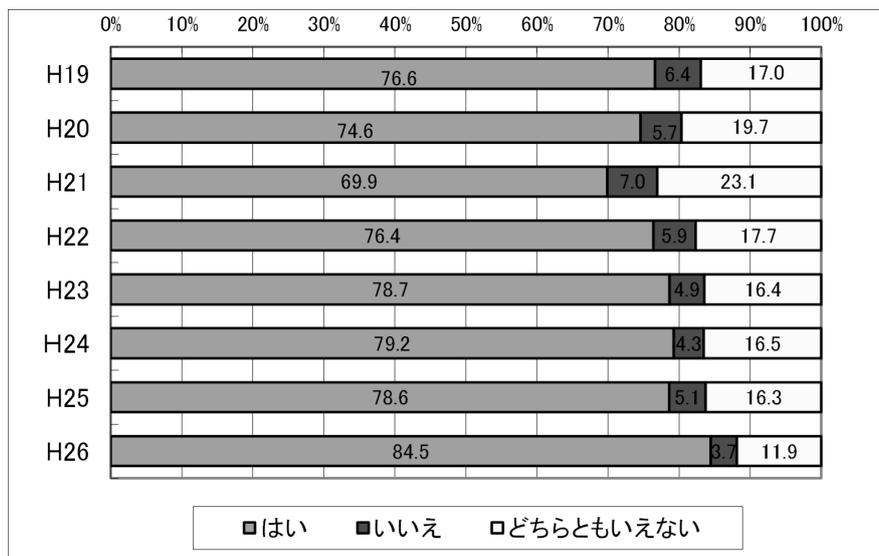


※無回答は除去して集計

(12) 再訪の意向

再訪の意思については、84.5%が「はい」と回答しているのに対して、「いいえ」と回答した人は8.7%となっており、過年度と同様、多くの人々が再訪したいと感じている。

再訪の意向



※無回答は除去して集計

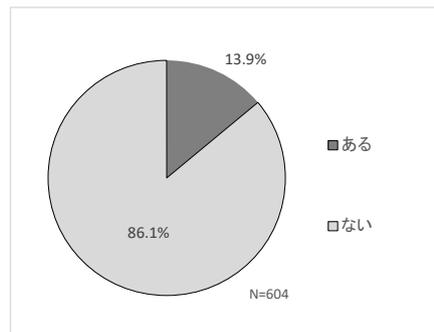
(13) ガイドについて

(ア) ガイド利用の有無

今回も含めて、大台ヶ原でガイド付きの山歩きや登山をした経験については、利用したことが「ある」が13.9%、「ない」は86.1%であった。

またガイドを利用しない理由については、詳しい知人が同行している等の理由で「ガイドの必要が無いから」が35.9%で最も多く、次いで「自分(達)のペースで歩きたいから」が31.7%であった。一方で「今後、利用してみたい」との回答も2.4%得られた。

ガイド利用経験の有無



※無回答は除去して集計

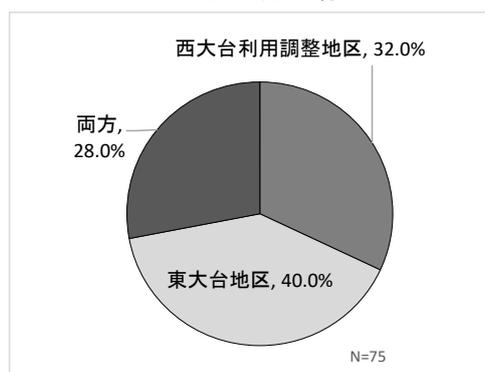
ガイドを利用しない理由 (自由記述)

ガイドを利用しない理由	回答数	割合(%, N=290)
ガイドの必要がないから (詳しい知人が同行、何度も来訪経験あり、事前に自分で調べる、等)	104	35.9
自分(達)のペースで歩きたいから	92	31.7
ガイドが利用できることを知らなかったから、利用する機会が無かったから	67	23.1
ガイド料金が高いから	11	3.8
ガイドとの相性が気になる、ガイドに気をを使うから	3	1.0
ガイドの利用方法がわからなかったから	4	1.4
今後、利用してみたい	7	2.4
その他	2	0.7

(イ) ガイドの利用場所

ガイド利用経験のある方に、利用場所を尋ねたところ、「西大台利用調整地区」が32.0%、「東大台」が40.0%であり、両方の地区でガイドを利用した方も28.0%を占めた。

ガイドの利用場所

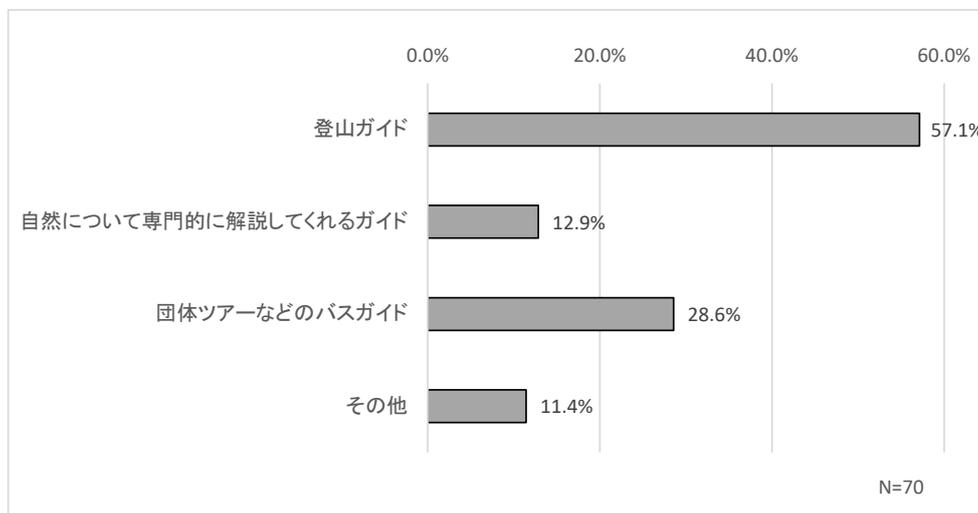


※無回答は除去して集計

(ウ) ガイドの種類

ガイド利用経験のある方が、利用したガイドは「登山ガイド」が57.1%、次いで「団体ツアーなどのバスガイド」が28.6%であった。

ガイドの種類（複数回答）

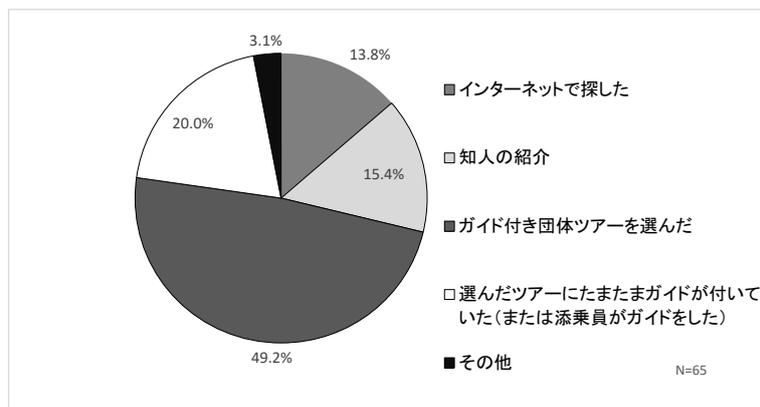


※無回答は除去して集計

(エ) ガイドを選んだ経緯

ガイド利用経験のある方が、ガイドを選んだ経緯については、「ガイド付き団体ツアーを選んだ」が49.2%と最も多く、次いで「選んだツアーにたまたまガイドが付いていた（または添乗員がガイドをした）（20.0%）」となった。

ガイドを選んだ経緯

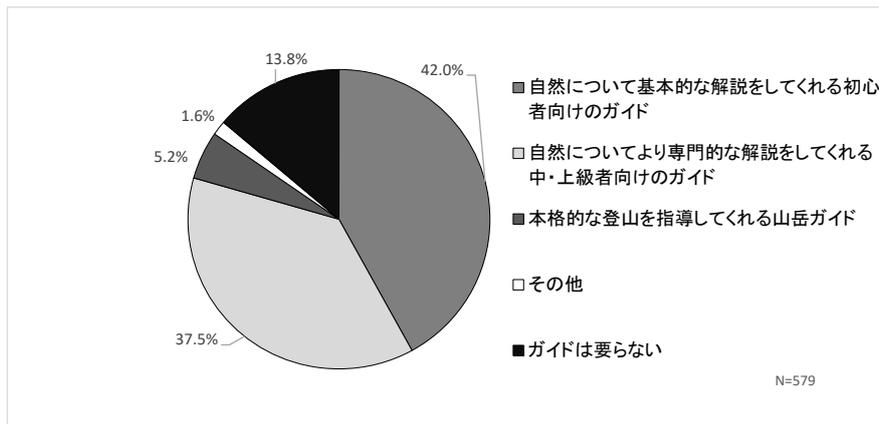


※無回答は除去して集計

(オ) 希望するガイド

大台ヶ原でガイドを利用するとした場合に、希望するガイドは、「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」が42.0%と最も多く、次いで「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」が37.5%であった。一方で「ガイドは要らない」との意見の割合は13.8%であった。

希望するガイド

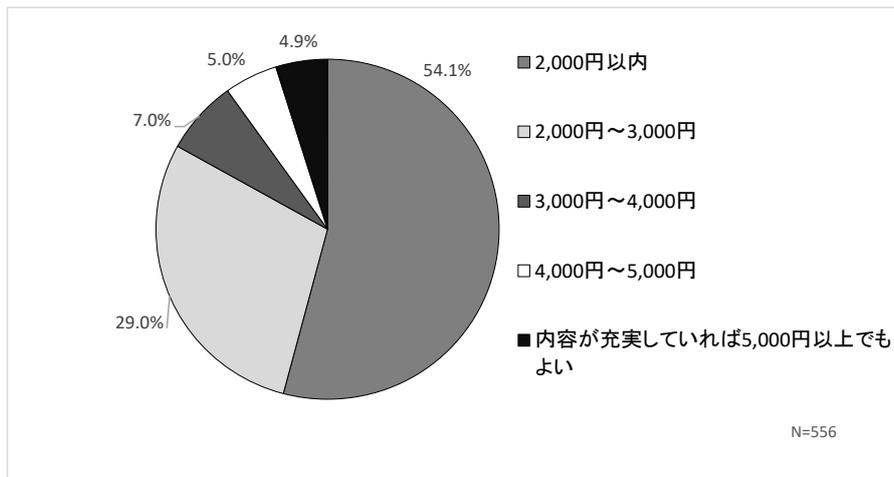


※無回答は除去して集計

(カ) ガイド料金

大台ヶ原でガイドを利用するとした場合に、利用者一人当たりガイド料金をいくらまで払っても良いかという設問に対しては、「2,000円以内」が54.1%と最も多く、次いで「2,000円～3,000円（29.0%）」であった。一方で「内容が充実していれば5,000円以上でもよい」との回答も4.9%見られた。

ガイド料金



※無回答は除去して集計

(14) 西大台利用調整地区全般に関する意見・要望等

西大台利用調整地区全般に関する意見・要望等としては、制度全般に関するもの（61件）、事前レクチャーに関するもの（7件）、登山道等の整備に関するもの（44件）、交通手段に関するもの（12件）、その他（76件）、計200件の意見があった。

① 制度全般に関するもの（61件）

区分	記述内容（性別、年代、居住地）
制度への期待 (41件)	30年前にニュージーランドに行った際に、ミルフォードトラックに行きたかったが、入山制限のため歩けず、とても残念だった。この30年間で100名山のうち70あまりに登った。山道は荒れており、雨の日には川のようなになる。将来が心配。立ち入り制限は将来のために必要と考えている。日本ではまだまだ新しい試みで、理解は深まっていないだろうが、100年後の子供たちのためにも頑張ってもらいたい。(男性, 30代, 愛知県)
	楽しく歩きました。私は京都でガイドをしておりますが、南丹市の美山町芦生の森を環境省に規制していただきたく思います。美山町や京大のやり方では納得できない部分が多く、西大台のやり方はそのお手本となるやり方で、国単位で広めていただきたいと思います。(男性, 50代, 京都府)
	自然を守る上で、入山規制や入山料などのシステムが素敵だと思いました。(男性, 20代, 大阪府)
	自然を守る上でこのような制度は残念ながら必要。おかげさまで堪能できました。ありがとう。(男性, 60代, 和歌山県)
	登山者が増え、オーバーユースの山が増えていて、対策が必要だと思います。(男性, 60代, 兵庫県)
	入山規制は必要。(男性, 60代, 奈良県)
	このままの自然をずっと守っていただけるように努力してください。(男性, 30代, 大阪府)
	このまま自然を残して、より自然になりますように。(男性, 60代, 京都府)
	このまま大自然を保持していただけるように、お願いします。(女性, 40代, 奈良県)
	この自然をずっと守ってほしい。(女性, 30代, 大阪府)
	この素敵な自然を保全努力していただいております。これからもよろしくお願いします。(男性, 30代, 兵庫県)
	とてもきれいでした。これからも自然を守ってください。(女性, 50代, 大阪府)
	環境保全は大変ですが、いつまでも美しい自然を残したいものです。(男性, 60代, 愛媛県)
	継続して自然で守られていくことを望みます。(男性, 30代, 京都府)
	今で十分良いと思う。(男性, 30代, 大阪府)
	今のままで良いと思います。(男性, 50代, 愛知県)
	今のままの自然をのこしてほしいと思いました。(女性, 70才以上, 愛知県)
	今の自然環境をこれからも守っていただけることを願っています。(男性, 不明, 京都府)
	今の制度を堅持して欲しい。(男性, 60代, 不明)
	今後のことを考えれば現況のやり方はよいと思います。(女性, 70才以上, 不明)
	自然の山中を散策するのは初めてなので調整していただき自然を残してくださるのはありがたいです。(女性, 60代, 奈良県)
	自然の美しさを残してほしい。(女性, 30代, 大阪府)
	自然はそのまま残されているが、登山道は程よく整備されており、気持ちよく歩くことができた。ロープや金網が黒くて目立たないのも、景観を損なわず良いと思った。(男性, 50代, 東京都)
	自然を守るために、こうした制度になっているのは良いこと。他の山や公園も同様にすべき。(男性, 50代, 神奈川県)
	自然保護しようとする取り組みが各所で見て取れてよかったです。(男性, 20代, 京都府)
	自然保全に今後とも努力してください。(男性, 60代, 滋賀県)
	自然林のよさはびっくりするくらいよかったです。この自然をこれからも保っていききたいと思います。(男性, 60代, 兵庫県)
守るためには努力が必要だと思います。私は守っていききたい。(女性, 50代, 愛知県)	
人数制限は良いことだと思う。これ以上自然が壊れないよう期待しています。(女性, 50代, 大阪府)	
西大台を末永く守ってください。(女性, 70才以上, 岡山県)	
素晴らしかったです。いつまでも残してほしい、残したいと思いました。また来たいです。ありがとうございました。(男性, 20代, 大阪府)	
足元のコケなどが茂っていることが「利用調整」しているのを実感できた。他の人とあうこともほとんどなく、大自然を独り占めできた気分でした。ありがとうございました。(男性, 10代, 大阪府)	
大事な景観を守るために入場制限を含め、制限はしかたがないと考えています。(女性, 50代, 不明)	
大自然の豊かを残して欲しい。(男性, 50代, 大阪府)	
利用人数の調整などを、このまま続けることには賛成です。(女性, 40代, 兵庫県)	
利用調整によってよい雰囲気山歩きができた。(女性, 50代, 京都府)	
自然環境を守られる為良く努力していらっしゃると思います。(女性, 60代, 京都府)	

	いいところに来られたと感謝しています。この素晴らしさを残してください。(女性, 60代, 兵庫県)
	いつまでも変わらない景観であってほしい。また来たいと思います。(女性, 30代, 兵庫県)
	昨日の東大台と比べ自然の豊かさに感動しました。保護によりこれだけ違うのだと改めてその必要性を実感しました。何らかの形で東大台を含め、すべての入山者から保護の為お金を取ったらいいと思います。(女性, 50代, 京都府)
	範囲を広げて欲しい。(男性, 60代, 奈良県)
制度への要望 (申請手続等) (14件)	その場で入山手続きができないと、遠方から来られた方が西大台の制度を知らなかった場合に入山できない。その場での入山手続きができるようにしてほしい。(男性, 20代, 兵庫県)
	商工会は、土日休館されているので、ビジターセンターでも立入申請を扱ってほしい。(女性, 60代, 京都府)
	登山の当日、または前日でも、ビジターセンターで受け付けできたらいいと思う。(女性, 50代, 大阪府)
	今回は商工会で当日手続きをしてきたが、ビジターセンターでも当日申し込みで西大台に入れるようになるといいと思う。登山は天気によって左右されるので、事前予約して雨の場合に困る。(男性, 60代, 三重県)
	レクチャーの申請、許可については、ビジターセンターで受付、受講を行えるように望みます。なぜ商工会なのか？専門でない上、利権があるように感じます。(男性, 60代, 京都府)
	日程変更が容易にできたら、利用しやすいと思う。(女性, 20代, 兵庫県)
	やはり雨の多いところなので、前に予約を入れるのはずごく考えます。もう少し2,3日前の天気ですべての予約ができる方法がありがたいです。(女性, 60代, 大阪府)
	雨天候の場合でも振り替えをできるようにしてほしい。(子供が小さいと無理ができないので)(女性, 10歳未満, 不明)
	子連れでは今日のような天気では中止せざるをえない。空きがあるなら振り替えができるようにしてほしい。(女性, 30代, 愛知県)
	申請が面倒。(女性, 50代, 東京都)
	予約方法がもう少し簡単だと嬉しい。(女性, 40代, 大阪府)
	予約方法がもう少し簡単だと嬉しい。(男性, 30代, 大阪府)
	許可書は首から下げるとブラブラしてしまうので他のものにして欲しい。(女性, 40代, 京都府)
	許可証もビジターセンターで発行してほしい。(男性, 40代, 不明)
制度への要望 (手数料) (6件)	パンフレットもバッチも要らない。(地図だけでよい)ので、入山金はできるだけ自然保護(山の登山者道の維持など)のために役立ててください。(女性, 50代, 千葉県)
	雨天の場合は半額にするなどになればうれしい。(男性, 50代, 兵庫県)
	西大台に入る許可を得るための費用は、二千元に値上げしても良い。管理を徹底して、自然を守るために使ってほしい。(男性, 50代, 愛知県)
	1000円は西大台の保護に使っていただきたい。バッチ等は必要ないです。(女性, 60代, 神奈川県)
	入山料など規則も適当。(男性, 60代, 大阪府)
	有料は賛成。(男性, 70才以上, 大阪府)

② 事前レクチャーに関するもの (7件)

区分	記述内容 (性別、年代、居住地)
レクチャーの感想 (7件)	レクチャーがとても楽しく、勉強になってよかった。事前にルートを地図で確認するだけよりも、有意義だった。(女性, 20代, 兵庫県)
	レクチャーがわかりやすかったです。ありがとうございました。(女性, 40代, 大阪府)
	レクチャーがわかりやすくて良かったです。(男性, 40代, 愛知県)
	レクチャーが面白く、その内容を確認しながら歩きました。とても有意義な一日となりました。次はもう少し暖かいときに、生き物たちと出会いたいです。(男性, 20代, 兵庫県)
	レクチャーを受けて予備知識を得てから入山したのが大変良かったと思います。(女性, 70才以上, 東京都)
	よく調べずにきたので、コースの状態などわかりやすい説明でよかった。(女性, 40代, 福井県)
	親切的なレクチャー、ご対応、ありがとうございました。(男性, 20代, 和歌山県)

③ 登山道等の整備に関するもの (44件)

区分	記述内容 (性別、年代、居住地)
標識等の必要性 (30件)	樹木や草の名前、説明があればよい。(男性, 60代, 愛知県)
	時折道に迷ったと感じることがあった。もう少し目印があってもよい。変化に富んだ見晴らしのよい眺望スポットがあると思っていましたが、その面では期待はずれであった。(男性, 60代, 大阪府)
	ガイド(標識)が足りない。(男性, 30代, 香川県)
	コースが迷いやすく、テープかリボンの目印をもっとつけてほしい。(男性, 70才以上, 奈良県)
	ポイント地点に説明看板等がほしい。携帯トイレブースは、東も西も必要。弁当を食べるところなど、食事ができる場所を指定する。(男性, 50代, 大阪府)
	もうちょっと道しるべがあってもいいかな。少し迷いそう。水場はとても楽しい。現在地の地図看板がほしい。(時間の目安に)(男性, 30代, 京都府)

	ルートを示す印をもう少しつけて欲しい。(色のテープなど)ガイドがおられる時はいいが、そうでない時にはわかりづらいかも。(女性, 60代, 大阪府)
	ロープ&ピンクリボン大いに助かりました。ピンクのリボンもう少し増やして欲しいです。(女性, 60代, 大阪府)
	案内板を多くしてほしい。(男性, 70才以上, 大阪府)
	自然に溶け込む形で、道標がもう少しあっても良いと思った。全体として体制の整備が必要に感じた。(男性, 60代, 奈良県)
	自然を大切にしており期待どおりでした。しかし印をもう少し増やし、わかりやすくしてほしいと思いました。途中不安になる所がたくさんありました。(女性, 50代, 不明)
	所々、進路がわかりにくかったので、もう少し案内板があればよいと思う。(男性, 60代, 大阪府)
	所々で迷いそうだったので、もう少し目印を付けてほしいです。(女性, 40代, 大阪府)
	西大台は標識があまりないので、少人数(一人)で行く人は、地図が読める人を入れるように(特に今日、一人の人を見て思った。)(男性, 70才以上, 兵庫県)
	積極的に入山させるものではないことはわかるが、パンフレットの地図と現地の道標は、今少し充実させてほしい。(男性, 60代, 大阪府)
	赤いつり橋から中ノ谷木橋までがほとんどロープが無く、ちょっと迷いそうで不安になりました。七ツ池から開拓跡のような丁寧なロープガイドがある(またはビニールテープだけでもOK)と安心です。それから湧水が見当たりませんでした。がっかり。でも全体としてはコケの森がとても美しかったです。(女性, 40代, 京都府)
	天気も良く、登山道も歩きやすく、とても癒された。また来たい。一部、落ち葉で道がわかりにくかったので、もう少しロープが必要と感じた場所もあった。(男性, 30代, 愛知県)
	展望台のところで右に曲がらないといけないうところを、左に曲がって、とても迷いました。1時間ロスでしたが。(男性, 40代, 大阪府)
	徒歩ポイントの左岸南岸へテープが必要。ロープより対岸から判明できるテープ。(男性, 70才以上, 奈良県)
	登山道の道標をもう少し増やしてほしい(女性, 40代, 愛知県)
	道標をもう少しつけてほしい。(女性, 40代, 奈良県)
	反時計回りの「中ノ谷溪流と木橋」のあとで、道がわからなくなって、少し迷った。(女性, 50代, 大阪府)
	落葉で道がわかりにくい時期だけでも良いので、ロープを張るよりもテープの方がわかりやすいと感じた。(男性, 50代, 愛知県)
	いつも快適に入山させていただいてますが、西大台の道標を整備していただけると嬉しいです。(男性, 70才以上, 奈良県)
	いつも気持ちよく入山させていただいております。西大台の道標の数が少なくわかり難いので整備してほしい。(男性, 70才以上, 奈良県)
	初めて利用するものとして、ルートが国土地理院の地図と、ネットで得た情報で違っていたので不安であった。参加された人のネット情報が正しいようです。歩いてみて確認できました。(男性, 10代, 兵庫県)
	カイトクの標識がわかりづらい。(女性, 30代, 滋賀県)
	開拓地の看板が落ちていたので看板が読めない。(女性, 70才以上, 不明)
	各要所の説明役などもっと充実していればと思います。(男性, 50代, 大阪府)
	つり橋がやや老朽化してきている。(男性, 50代, 兵庫県)
コースに係る不満 (10件)	静かな山歩きができてよかったが、期待していた(利用調整地区であるからすごだろうと)ものが大きかったので、やや物足りない気がした。倒木にコケはすばらしかったが、他の風景は他の山でも見てきた風景だったような・・・雨と紅葉が終わっていたのも影響したかもしれない。(女性, 60代, 岡山県)
	足元が悪いので回りを鑑賞できない。(時間に追われていて、一周歩くことが優先されてしまった)(女性, 70才以上, 大阪府)
	「迷いの森」みたいなのを、もっとアピールすると面白いかも。(男性, 30代, 三重県)
	見所が少なく感じた。もっとアピールできるものがあるといいと思う。(男性, 30代, 三重県)
	コースが少ない。(男性, 50代, 大阪府)
	少し単調であった。(男性, 60代, 兵庫県)
	短い回遊コースがあればうれしい。(男性, 60代, 大阪府)
	展望のある所が少ないのが残念。(女性, 40代, 大阪府)
	展望台の見晴らしを良くしてほしい(木々の低木化?)。(男性, 60代, 和歌山県)
	水の流れる場所に癒されるので、もう少し、沢・川に近づける場所があればと思った。(男性, 30代, 大阪府)
トイレの必要性 (4件)	トイレの清掃代はいいと思うが、有料化する以上は、もっときれいにしてもいいと思う。(女性, 10代, 愛知県)
	トイレが必要。(女性, 30代, 大阪府)
	トイレを設置し、事前レクチャーの際に、一人一人に携帯トイレを配布してほしい。(女性, 30代, 静岡県)
	携帯トイレブースは常にあると良い。(男性, 40代, 静岡県)

④ 交通手段に関するもの(12件)

区分	記述内容(性別、年代、居住地)
公共交通機関 (5件)	バスの最終を16:30にしてほしい。(男性, 30代, 東京都)
	バスの始発をもう少し早くしてほしい。(女性, 30代, 東京都)

	バスを増やしてくれたらありがたい。(男性, 20代, 愛知県)
	登山時間を考えると、公共交通との連携があまりないような…奈良交通のバスの時間をもう少し前に延ばして欲しいです。ぜひ連携を！(女性, 40代, 大阪府)
	公共交通機関が不便なので、自動車回送サービスなどがあると良い。(男性, 40代, 京都府)
駐車場 (7件)	500円から1,000円の駐車料金を取っても良いと思います。(男性, 60代, 兵庫県)
	パーキング代を取ってよい。(男性, 40代, 愛知県)
	不便にはなりますが、パーク&ライドが必要では？いいところで楽しめました。また来ます。(男性, 40代, 京都府)
	無料駐車場を止めて、有料にすべき。(男性, 30代, 京都府)
	駐車場の整備(広く)(男性, 不明, 兵庫県)
	車で来るとき道路を広くして欲しい。(女性, 40代, 兵庫県)
	ガイドさんにすごくよくしてもらいました。とっても楽しい一日を過ごすことができましたが、路駐が多く道が怖かったです。(女性, 30代, 大阪府)

⑤その他 (76件)

区分	記述内容 (性別、年代、居住地)
良かった (71件)	よく整備されており、わたしたちも自然環境をさらに理解していかなければならないと思った。(男性, 60代, 岡山県)
	楽しかった。道の整備。(男性, 40代, 大阪府)
	東大台の様に石階段などがなくて良かったです。満喫しました。(男性, 50代, 三重県)
	きれいに整備されていて楽しく歩けました。(女性, 40代, 大阪府)
	コケがここまで美しいとは、驚きました。(男性, 60代, 京都府)
	ゴミもなく大変きれいでした。(男性, 60代, 岡山県)
	とてもキレイで満足しています。問題なし。(男性, 30代, 兵庫県)
	とてもよく管理され、安全にも十分配慮されていて歩きやすく迷うことなく安心して歩けました。(女性, 70才以上, 京都府)
	とても楽しかったです。ありがとうございました。(女性, 40代, 東京都)
	とても良かったです。ありがとうございました。(男性, 50代, 大阪府)
	ほとんどほかのグループの方がいらっしやらなかったの、大自然を独り占めの感覚でした。ありがとうございました。(男性, 50代, 大阪府)
	ほとんど人が無く、自然そのものを感じられたのが良かった。(女性, 60代, 大阪府)
	一日目は風が強くて行けなかったが、二日目は最高でした。(男性, 50代, 兵庫県)
	幻想的でとても美しく、来てよかったです。人数が少なく静かに散策できました。ありがとうございました。(女性, 40代, 京都府)
	現状で満足です。(男性, 60代, 和歌山県)
	紅葉が良かった。(男性, 60代, 兵庫県)
	紅葉自然が大変良かった。(男性, 70才以上, 京都府)
	今回満足しました。(男性, 30代, 兵庫県)
	自然がいっぱいで、癒されました。(女性, 30代, 大阪府)
	自然がしっかり残っていて、いつ来ても素晴らしいと思った。(男性, 60代, 奈良県)
	自然がすべて残されていてとても良かった。(男性, 60代, 大阪府)
	自然がとてもきれいだった。(男性, 60代, 岡山県)
	自然が残されていて、あまり整備されていないのが、逆に良かった。(男性, 50代, 不明)
	自然が守られて、良かったと思います。(女性, 30代, 大阪府)
	自然が守られているのはいいことだと思います。(男性, 60代, 大阪府)
	自然が保たれ非常に良かった。(男性, 50代, 大阪府)
	自然に対する見方&考え方が「何故」こうなったのか深く興味を思うようになった。(男性, 不明, 愛知県)
	自然の偉大さに驚いた。(男性, 60代, 兵庫県)
	手つかずの自然が素晴らしかった。(女性, 30代, 京都府)
人が少なく、静かで、気持ちよかったです。(女性, 40代, 奈良県)	
晴天に恵まれ、すばらしい山歩きに感動しっぱなしでした。紅葉、コケ、野鳥の声、すべてよかったです。(女性, 60代, 東京都)	
静かで、自分ひとり占めしたようで、贅沢な時間を過ごせました。ありがとうございました。(女性, 40代, 兵庫県)	
静かで期待以上に良かったです。(女性, 70才以上, 奈良県)	

	大自然に包まれ、本当に良かった。(男性, 60代, 大阪府)
	大自然を満喫できました。ありがとうございます。(男性, 30代, 大阪府)
	大変癒しになった。(男性, 50代, 奈良県)
	天候にも恵まれ、初雪の日に西大台を歩くことができて楽しかった。(女性, 60代, 兵庫県)
	当初は森の中を想像していたが、太陽の光が差し込んで、明るい感じがした。良かった。(男性, 60代, 奈良県)
	動物のにおい、自然のにおいがした。秋にもう一度来てみたい。(女性, 50代, 神奈川県)
	美しかったです。(男性, 20代, 京都府)
	歩きやすくよい歩行時間。(男性, 70才以上, 岡山県)
	本当にすばらしくて前回は感動しましたが今回もまたまた大満足でした。ありがとうございます。(女性, 60代, 兵庫県)
	本当に美しい手つかずの自然を体感?できて素晴らしかった。(女性, 50代, 大阪府)
	迷わず楽しく山歩きができました。わかりやすい目印など、ありがとうございます。(女性, 40代, 大阪府)
	良かったです。(不明, 60代, 大阪府)
	登山途中で、見張りの人がいて安心しました。(女性, 30代, 大阪府)
	とてもいい所で幻想的なところが好きなので、また来ます。(女性, 30代, 兵庫県)
	とても神秘的で良かった。今度は東大台にも行ってみたい。(女性, 30代, 岐阜県)
	雨っぽくなかったら、今度も行って、シカを見つけたり、コケを見に来てコケテーブルに行きたい。(男性, 10歳未満, 愛知県)
	とても静かな雰囲気ゆっくり楽しめました。また違う季節にも訪れたいです。(女性, 20代, 大阪府)
	とても素晴らしいところだと思います。積雪時にも入山できるようにしてほしい。(女性, 10代, 大阪府)
	また良い季節に来たいです。(男性, 30代, 奈良県)
	次は春に訪れてみたいと思います。(女性, 50代, 兵庫県)
	手つかずの自然に大変満足でした。また新緑の時期に来たいと思います。(女性, 60代, 岐阜県)
	人が少なく良かった。また別の季節に来たい。道も分かりやすかった。ルートがもっといろいろあってもいいと思う。どこかにトイレがあればなお良い。(女性, 30代, 大阪府)
	人数制限で、少ない人、ゆっくりで良かった。春にもう一度、花を見に来たい。(男性, 60代, 大阪府)
	晴れた日にまた来たいです。初めて山に登る人にはとても良いと思いました。(女性, 30代, 兵庫県)
	大変良かった。自然は最高!また来たいです。(男性, 60代, 大阪府)
	非常によかったので、また来たい。(男性, 30代, 滋賀県)
	利用人数が少なく、二人でゆっくり歩けた。紅葉が残っていればなおよかった。次は違う季節に来たい。(男性, 60代, 愛知県)
	ありがとうございます。(男性, 20代, 京都府)
	ありがとうございます。(男性, 50代, 岡山県)
	ありがとうございます。また来たい、撮影に。(男性, 60代, 京都府)
	ありがとうございます。楽しめました。(男性, 50代, 和歌山県)
	ありがとうございます。身体がリフレッシュされました。(女性, 30代, 不明)
	ビジターセンターの方、巡視員さんが、親切で、とても気持ちよく歩けました。(女性, 40代, 京都府)
	ビジターセンターの方々も、巡視員の方々も、みんな親切であたたかかったです。とても良い一日を過ごすことができました。ありがとうございます。(女性, 40代, 京都府)
	自然を守るために、ボランティアの皆様感謝しています。(男性, 60代, 大阪府)
	良かったと思います。いろいろとありがとうございました。(男性, 50代, 愛知県)
	車のカギを落としてしまい、大変お世話になり、ありがとうございます。(男性, 50代, 愛知県)
	許可証が行き違いで手元になく、入山を諦めていたが、心湯治館の方がすぐに連絡を取ってくれて行けることになった。入山できたことも嬉しかったが、すぐに連絡してくれた心遣いが非常に嬉しかった。おかげでレクチャーも夕方16時から受講でき、翌日7時半には入山でき、大満足の山歩きをすることができた。(女性, 40代, 愛知県)
残念だった (4)件	今回、展望台を諦めていかに戻ったら、日暮(16時と聞きました)まで45分残っていたので、「ああ、これならいけたなあ」と残念でなりません。(女性, 50代, 京都府)
	調整地区を歩いたからには「こけ類」の一種は他人に説明できるようになりたかった。(男性, 70才以上, 千葉県)
	全体的に期待以上に良かった、楽しめた。次はもう少しゆっくり歩きたい。今日もう少し早めに出発できれば、ゆっくり歩けたのに。(女性, 40代, 岡山県)
	登山ガイドがあることを知らなかったのもっとPRしてほしい。(男性, 60代, 大阪府)
その他(1件)	アンケートの項目が多すぎる。(女性, 60代, 兵庫県)

<参考資料>

1. 利用者意識に関するアンケート調査集計表一覧

※無回答は除いて集計

(1) 回答者の属性

1) 性別 (%)

区分	男	女	合計
H19	57.3	42.7	100.0
H20	55.5	44.5	100.0
H21	54.8	45.2	100.0
H22	51.1	48.9	100.0
H23	59.6	40.4	100.0
H24	52.4	47.6	100.0
H25	46.0	54.0	100.0
H26	57.1	42.9	100.0

2) 年齢 (%)

区分	10才未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	合計
H19	1.4	1.4	7.2	15.3	8.4	29.2	31.5	5.5	100.0
H20	0.7	2.0	9.4	9.9	11.9	23.7	35.5	6.8	100.0
H21	1.5	1.9	8.3	16.4	14.1	21.5	29.4	6.9	100.0
H22	0.5	1.3	8.8	12.3	11.9	20.5	37.1	7.7	100.0
H23	0.5	2.0	6.8	12.7	12.9	19.5	35.9	9.8	100.0
H24	0.2	0.8	4.2	10.4	13.4	17.7	39.6	13.8	100.0
H25	0.2	0.6	4.7	7.8	14.2	21.8	38.1	12.5	100.0
H26	1.3	1.8	5.6	17.4	16.1	19.5	27.4	11.0	100.0

3) 居住地 (上位8位)

区分	H19		H20		H21		H22		H23		H24		H25		H26		(%)
1	大阪	39.4	大阪	35.4	大阪	30.5	愛知	23.2	大阪	33.1	大阪	31.9	大阪	29.0	大阪	33.6	
2	奈良	15.2	奈良	13.3	兵庫	14.2	大阪	20.2	奈良	19.0	奈良	13.2	奈良	15.6	兵庫	16.0	
3	兵庫	11.2	兵庫	11.3	奈良	13.3	奈良	16.2	兵庫	11.5	兵庫	8.9	兵庫	13.8	京都	11.0	
4	三重	9.5	京都	6.6	京都	9.3	兵庫	10.6	愛知	6.0	愛知	8.9	愛知	8.2	奈良	9.5	
5	京都	6.0	三重	6.2	神奈川	4.2	京都	10.1	京都	5.8	三重	7.6	京都	5.8	岡山	6.0	
6	愛知	4.9	東京	6.1	愛知	4.0	三重	8.0	三重	4.8	京都	7.3	和歌山	4.3	愛知	5.8	
7	東京	2.6	愛知	6.0	東京	3.6	和歌山	2.7	和歌山	4.5	静岡	6.2	神奈川	3.9	和歌山	4.7	
8	神奈川	1.7	和歌山	3.8	和歌山	3.6	岐阜	1.8	福岡	2.5	和歌山	3.0	滋賀	2.9	三重	2.7	

4) 登山経験

(%)

区分	本格的な登山 経験あり	ガイドなど引率 者の下での登山	里山の散策・トレ ッキング程度	ほとんどない	合計
H25	49.3	18.0	31.6	1.1	100.0
H26	48.9	29.6	17.4	4.1	100.0

5) 来訪目的

(%)

区分	登山・散策	写真撮影	生物の 観察	自然との ふれあい	学習目的	その他	合計
H19	79.8	5.9	0.9	9.6	0.0	3.7	100.0
H20	73.5	5.0	3.6	13.8	0.0	4.2	100.0
H21	76.9	4.9	3.8	13.0	0.0	1.3	100.0
H22	74.4	3.8	2.4	15.6	0.0	3.7	100.0
H23	67.6	4.1	2.8	21.9	1.3	2.3	100.0
H24	70.3	3.3	3.6	21.1	1.0	0.7	100.0
H25	86.7	17.0	13.5	44.5	3.0	1.7	100.0
H26	72.4	7.3	2.4	17.1	—	0.8	100.0

(2) 来訪を決めた時期

区分	本日～2週間 前に決めた	2週間～ 1か月前	1か月前～ 3か月前	3か月以上前か ら決めていた	計
回答数	100	185	231	115	631
比率 (%)	15.8	29.3	36.6	18.2	100.0

(3) 団体ツアー・個人等の別

(%)

区分	団体ツアー	個人・グループ	その他	計
H25	20.9	78.1	0.9	100.0
H26	14.5	84.8	0.6	100.0

■個人・グループの構成人数

区分	1人	2～4人	5～9人	10～19人	20人以上	計
回答数	21	266	152	31	16	486
比率 (%)	4.3	54.7	31.3	6.4	3.3	100.0

(4) 行程

区分	日帰り	宿泊を伴 う行程	計
回答数	350	281	631
比率 (%)	55.5	44.5	100.0

(5) 来訪回数

1) 西大台地区への来訪回数

(%)

区分	初めて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回以上	合計
H19	75.6	11.9	6.0	1.8	1.8	3.0	100.0
H20	78.8	9.5	3.5	1.8	3.3	3.1	100.0
H21	82.2	7.8	3.7	1.3	1.4	3.7	100.0
H22	79.1	9.9	4.3	2.6	0.3	3.8	100.0
H23	74.6	11.0	6.0	3.1	1.9	3.3	100.0
H24	80.4	10.2	4.2	1.9	1.2	2.1	100.0
H25	78.5	8.8	7.1	1.9	1.3	2.4	100.0
H26	77.6	12.4	6.7	2.7	0.5	0.2	100.0

2) 大台ヶ原への来訪回数

(%)

区分	初めて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回以上	合計
H19	37.0	17.2	14.2	6.6	9.6	15.4	100.0
H20	38.3	20.1	12.9	8.9	6.2	13.7	100.0
H21	45.5	20.0	11.3	6.5	4.1	12.6	100.0
H22	36.0	21.2	13.8	10.2	4.1	14.8	100.0
H23	35.9	15.9	15.9	7.0	8.4	16.9	100.0
H24	38.1	17.1	12.6	10.4	5.9	15.9	100.0
H25	40.5	12.6	11.9	11.9	6.3	16.8	100.0
H26	43.3	18.7	13.8	13.4	4.0	6.8	100.0

(6) 事前レクチャーについて

1) 事前レクチャーの時間の長さ

(%)

区分	長すぎる	ちょうどよい	短すぎる	合計
H19	3.2	96.0	0.9	100.0
H20	0.6	99.2	0.2	100.0
H21	1.9	97.0	1.1	100.0
H22	3.3	92.7	4.0	100.0
H23	8.3	87.6	4.1	100.0
H24	5.7	91.7	2.5	100.0
H25	5.7	92.7	1.5	100.0
H26	1.3	97.6	1.1	100.0

2) 事前レクチャーの内容

(%)

区分	満足	普通	不満足	合計
H19	59.8	39.1	1.1	100.0
H20	65.4	34.4	0.2	100.0
H21	65.5	33.7	0.8	100.0
H22	60.4	38.1	1.5	100.0
H23	74.9	21.4	3.7	100.0
H24	75.3	22.9	1.8	100.0
H25	79.1	19.3	1.7	100.0
H26	68.0	31.0	1.0	100.0

3) 冊子の内容 (%)

区分	満足	普通	不満足	合計
H19	65.0	34.1	0.9	100.0
H20	66.1	33.1	0.8	100.0
H21	63.6	35.1	1.2	100.0
H22	67.3	27.7	5.0	100.0
H23	77.2	17.6	5.1	100.0
H24	72.7	22.9	4.4	100.0
H25	76.0	19.9	4.1	100.0
H26	71.5	26.5	2.1	100.0

(7) 西大台利用調整地区の認知手段

1) 西大台利用調整地区の認知度

■認知度

区分	内容を知っていた	内容は知らなかったが、聞いたことはあった	聞いたこともなかった	わからない	計
回答数	257	188	157	5	607
比率 (%)	42.3	31.0	25.9	0.8	100.0

■認知の度合い

区分	事前の申請がなければ立入りができないこと	無断で立ち入った場合に刑罰があること	立入り申請に手数料（大人一人当たり1,000円）が必要なこと	立入り前にレクチャーを受けなければならないこと	1日当たりの立入り人数が制限されていること	10人を超える団体では利用できないこと	ペットを連れて立入りができないこと
回答数	245	84	162	176	182	84	77
比率 (%)	96.1	32.9	63.5	69.0	71.4	32.9	30.2

2) 西大台利用調整地区の認知手段（複数回答） (%)

区分	新聞・テレビ	登山などの専門雑誌	環境省ホームページ	インターネット情報 ※1	人に聞いた	ポスター等	大台ヶ原ビジターセンター（レクチャー含む）	以前から知っていた ※2	その他
H19	32.8	12.9	13.8	—	47.7	3.4	10.6	—	5.7
H20	20.0	9.2	11.0	—	36.0	3.4	12.4	—	6.1
H21	15.6	14.1	17.5	—	41.8	3.9	11.9	—	9.5
H22	15.6	16.0	15.9	—	33.9	5.7	16.3	—	13.8
H23	15.2	14.8	19.0	—	37.1	10.7	21.2	—	11.9
H24	17.5	12.7	15.8	—	34.0	5.8	23.8	—	15.2
H25	16.7	14.9	18.3	—	30.1	3.9	24.8	—	17.4
H26	8.7	13.7	11.3	31.1	33.4	0.9	13.9	4.9	2.6

※1 環境省ホームページを除く。平成26年度に追加した項目

※2 平成26年度に追加した項目

(8) 利用ルート

1) 入山口

区分	山上駐車場	木和田・河合方面	小処温泉	その他	計
回答数	581	2	3	1	587
比率 (%)	99.0	0.3	0.5	0.2	100.0

2) 利用ルート

区分	西大台歩道を左回(反時計まわり)で1周	西大台歩道を右回り(時計まわり)で1周	北側歩道を途中まで行って引き返す	南側歩道を途中まで行って引き返す	小処温泉方面～駐車場(北側歩道)	小処温泉方面～駐車場(南側歩道)	その他	計
回答数	228	15	14	0	0	1	7	265
比率 (%)	86.0	5.7	5.3	0.0	0.0	0.4	2.6	100.0

(9) 携帯トイレブースの設置について

1) 携帯トイレブースの必要性

(%)

区分	必要	必要ない	どちらともいえない	合計
H22	49.2	27.0	23.8	100.0
H23	40.1	32.4	27.5	100.0
H24	46.9	21.6	31.5	100.0
H25	56.6	18.1	25.2	100.0
H26	56.6	19.6	23.8	100.0

(10) 混雑感と対策

1) 混雑感

区分	利用者の数が多いと思った	やや利用者数が多いと思った	利用者の数は適当だと思った	その他	計
回答数	2	13	481	76	572
比率 (%)	0.3	2.3	84.1	13.3	100.0

2) 混雑感への対策(複数回答)

区分	1日当たりの利用者数を減らす	ルートを一方通行にし、すれ違わないようにする	1度に西大台利用調整地区に入る人数を現状の10人からさらに減らす	西大台利用調整地区に入るグループの時間の間隔をもっと空ける	その他
回答数	4	3	1	1	0

(11) 期待していたものと感想 (複数回答)

(%)

区分	ブナ林	コケ	巨木	草花	紅葉	植物全般	野鳥	シカ
H19	34.9	62.3	13.1	0.6	5.7	8.6	0.6	5.7
H20	34.8	49.4	13.9	5.2	10.8	12.8	6.3	4.3
H21	25.2	59.0	15.8	0.7	21.6	12.2	3.6	11.5
H22	32.1	51.1	15.4	2.0	11.4	15.8	3.3	4.7
H23	33.1	57.4	17.4	3.8	6.9	9.0	7.9	2.9
H24	27.3	59.3	14.0	2.9	14.3	7.9	2.6	3.0
H25	26.8	48.4	18.9	2.0	3.1	8.1	5.3	4.4
H26	37.2	60.0	22.2	5.8	41.7	9.6	5.1	5.3

区分	動物全般	原生的な自然	神秘的な雰囲気	幻想的な霧	沢、せせらぎ	その他	特になし
H19	2.3	48.6	23.4	11.4	37.1	9.1	0.0
H20	3.6	47.9	16.9	6.7	36.4	6.5	1.8
H21	2.9	51.8	12.9	15.1	40.3	9.4	2.2
H22	6.7	46.0	18.8	9.4	32.8	6.9	2.0
H23	1.0	51.7	20.5	10.5	47.4	7.4	1.4
H24	0.8	46.4	16.2	8.0	39.3	6.7	0.8
H25	1.1	43.3	18.7	7.3	38.7	6.8	1.1
H26	8.7	43.9	39.5	12.9	26.1	1.7	1.1

■期待していたものの感想

(%)

区分	期待していた以上に良かった	期待どおりだった	あまり良くなかった	期待はずれでがっかりした	計
ブナ林(N=230)	30.4	61.7	7.4	0.4	100.0
コケ(N=375)	40.5	49.9	8.0	1.6	100.0
巨木(N=138)	31.2	60.1	5.8	2.9	100.0
草花(N=34)	17.6	50.0	29.4	2.9	100.0
紅葉(N=258)	17.4	36.0	36.4	10.1	100.0
植物全般(N=60)	25.0	53.3	16.7	5.0	100.0
野鳥(N=32)	12.5	21.9	53.1	12.5	100.0
シカ(N=34)	5.9	17.6	26.5	50.0	100.0
動物全般(N=53)	11.3	35.8	32.1	20.8	100.0
原生的な自然(N=271)	34.3	58.7	6.6	0.4	100.0
神秘的な雰囲気(N=244)	36.9	53.3	8.2	1.6	100.0
幻想的な霧(N=79)	36.7	43.0	8.9	11.4	100.0
沢、せせらぎ(N=161)	45.3	51.6	3.1	0.0	100.0
その他(N=10)	20.0	60.0	10.0	10.0	100.0

(12) 再訪の意向

(%)

区分	はい	いいえ	どちらとも いえない	計
H19	76.6	6.4	17.0	100.0
H20	74.6	5.7	19.7	100.0
H21	69.9	7.0	23.1	100.0
H22	76.4	5.9	17.7	100.0
H23	78.7	4.9	16.4	100.0
H24	79.2	4.3	16.5	100.0
H25	78.6	5.1	16.3	100.0
H26	84.5	3.7	11.9	100.0

(13) ガイドについて

1) ガイド利用の有無

区分	ある	ない	計
回答数	84	520	604
比率 (%)	13.9	86.1	100.0

2) ガイドの利用場所

区分	西大台利用 調整地区	東大台 地区	両方	計
回答数	24	30	21	75
比率 (%)	32.0	40.0	28.0	100.0

3) ガイドの種類 (複数回答)

区分	登山ガイド	自然について専 門的に解説して くれるガイド	団体ツアーなど のバスガイド	その他
回答数	40	9	20	8
比率 (%)	57.1	12.9	28.6	11.4

4) ガイドを選んだ経緯

区分	インターネ ットで探し た	知人の紹 介	ガイド付き団 体ツアーを選 んだ	選んだツアーにたま たガイドが付いて いた(または添乗員が ガイドをした)	その他	計
回答数	9	10	31	13	2	65
比率 (%)	13.8	15.4	49.2	20.0	3.1	100.0

5) 希望するガイド

区分	自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド	自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド	本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド	その他	ガイドは要らない	計
回答数	243	217	30	9	80	579
比率 (%)	42.0	37.5	5.2	1.6	13.8	100.0

6) ガイド料金

区分	2,000円以内	2,000円～3,000円	3,000円～4,000円	4,000円～5,000円	内容が充実していれば5,000円以上でもよい	計
回答数	301	161	39	28	27	556
比率 (%)	54.1	29.0	7.0	5.0	4.9	100.0

大台ヶ原におけるガイド制の基本的な方向性

大台ヶ原におけるガイド制はこれまでの議論を踏まえ、次年度からはガイド制の実施に向けた具体的な検討を行い、平成 29 年度からの実現を目指す。

1 検討体制（試案）

大台ヶ原の利用に関する協議会の中に「作業部会」を設置し、大台ヶ原自然再生推進委員会の持続可能な利用WGと作業部会の協働により検討作業を行う。「作業部会」のメンバーは、協議会の構成機関を主体とする。

2 検討事項（試案）

1) 目的

大台ヶ原において、利用マナーの徹底や利用者の安全確保を図るとともに、自然や歴史、文化に関する解説や自然体験活動などを通じたより質の高い体験を提供するために、インタプリテーションの能力を持った質の高いガイドを養成し、ガイド同行による利用を推奨することを目的とする。

2) 対象範囲

当面は、西大台を中心とした大台ヶ原を対象範囲とし、今後、必要に応じて、大杉谷、大峰山系についても対象とすることを検討する。

3) ガイド制の仕組み

<登録制度>

大台ヶ原では、ガイド制の下地がないことから、当面は、「登録制」とすることとし、一定の要件を満たしたガイドを「大台ヶ原登録ガイド（仮称）」として登録し、ガイド同行による利用を推奨する。

<登録機関>

ガイド講習の実施、ガイドの登録、利用者への紹介などを行う登録機関を設置する。登録機関は次年度検討する。（協議会などを想定）

<登録要件>

登録要件として、以下の2点を想定

- ・日本山岳ガイド協会のガイド資格等既存のガイド資格を有すること。
- ・登録機関が実施する「ガイド講習会」を受講し、修了していること。

4) ガイドの養成・登録等の仕組み

<講習会の実施>

登録機関を実施主体とした講習会を実施し、ガイド登録の希望者はこれを受講する。講習会では、大台ヶ原ガイドに必要な知識や技術、意識を身に付けるために必要な内容について、座学と実習を含めて行う。

<登録・公表>

希望者は登録を申請し、登録機関は所定の要件を満たしたものを「大台ヶ原登録ガイド」として登録する。

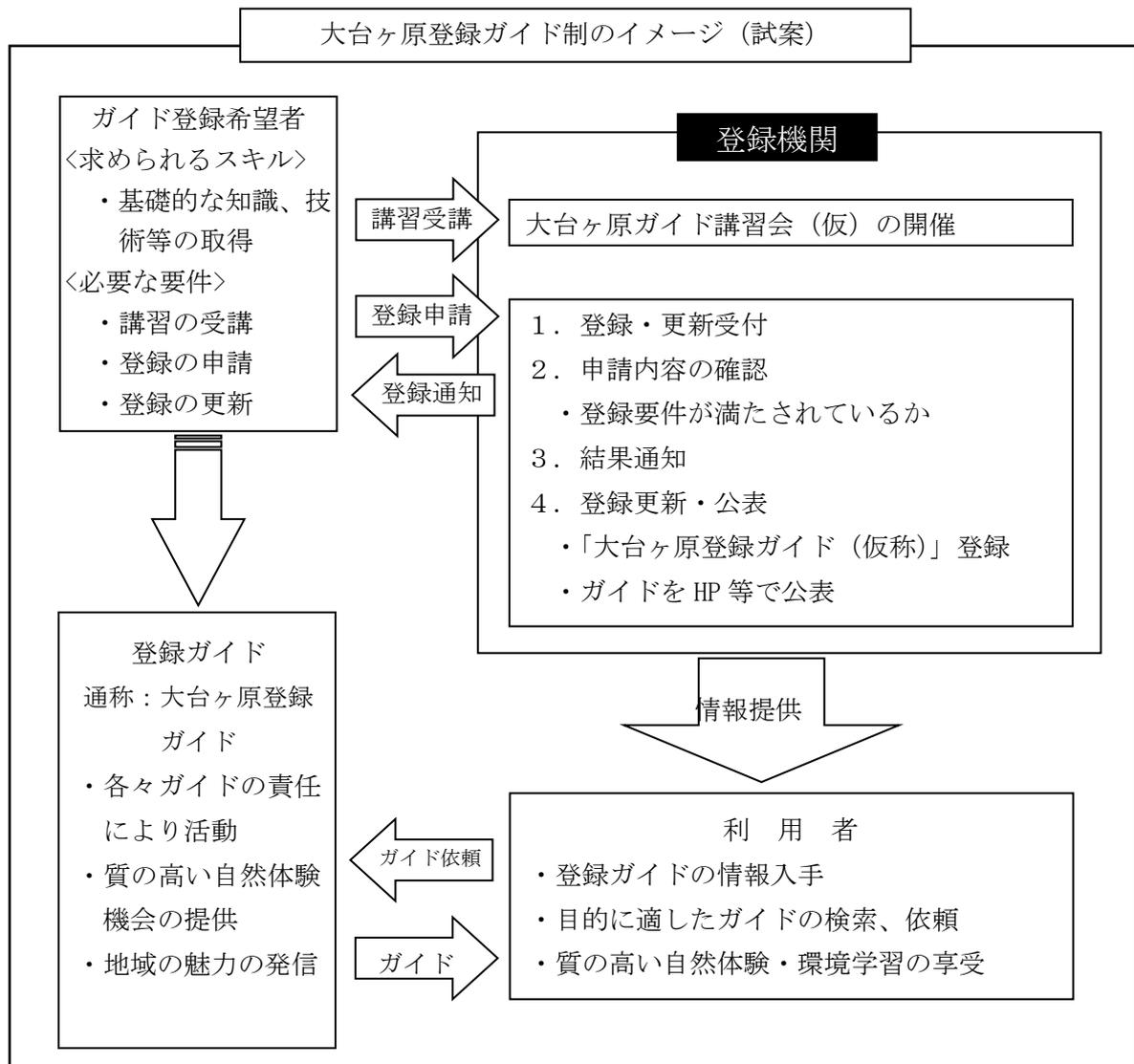
また、登録機関は、登録したガイドの情報をホームページで公表し、利用者に情報提供する。

<登録の更新>

登録を更新するために、一定期間ごとに更新講習を受講して、更新の申請を行う。

5) ガイドの利用

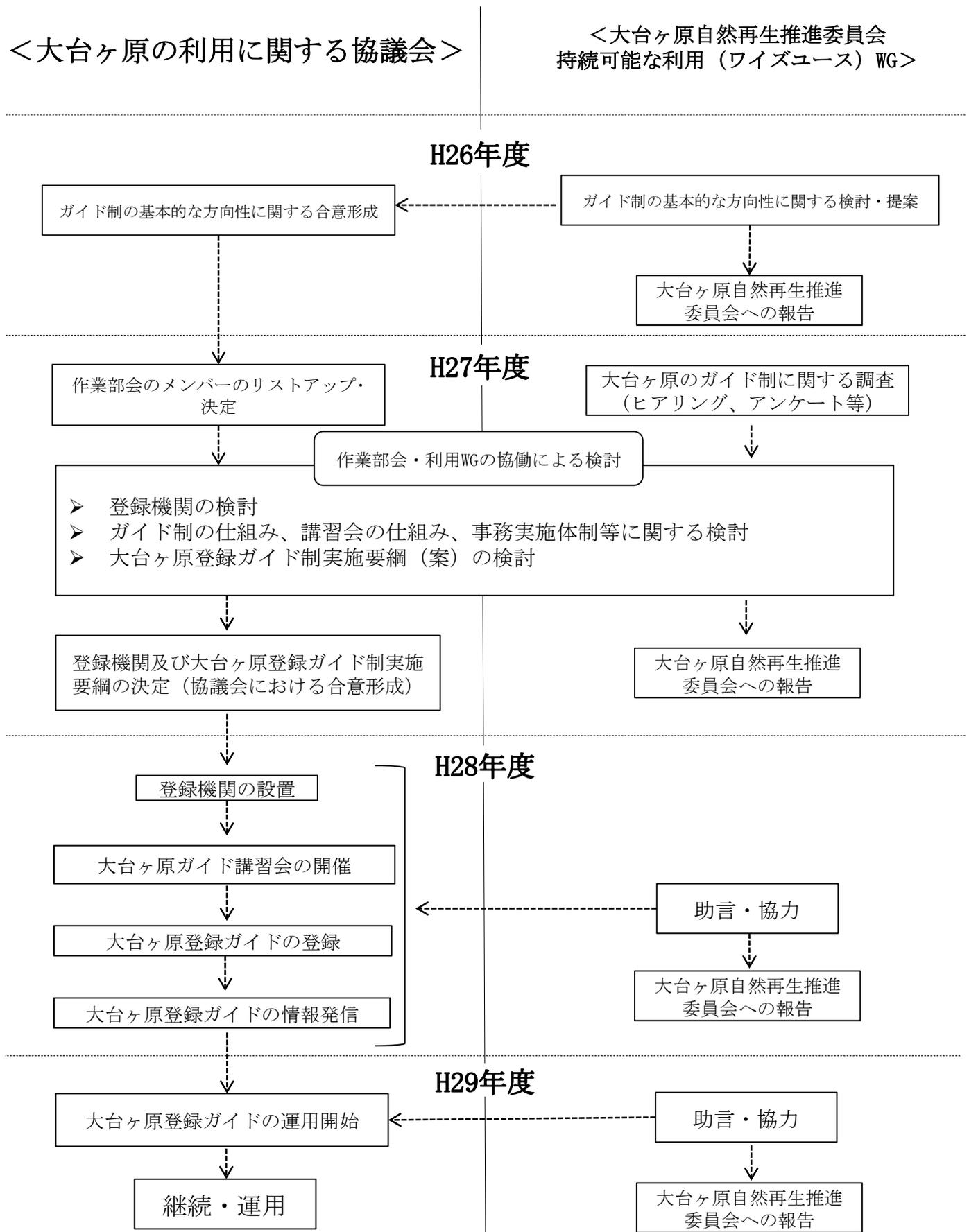
利用者はホームページ等で登録ガイドの情報を入手し、自分の目的に適したガイドに直接依頼を行う。



3. スケジュール（試案）

<大台ヶ原の利用に関する協議会>

<大台ヶ原自然再生推進委員会 持続可能な利用（ワイズユース）WG>



大台ヶ原のガイド制について（参考資料）

I. 課題の掘り起こし

1. これまでの会議等におけるガイド制に関する議論の整理

大台ヶ原におけるガイド制に関しては、平成 18 年度にガイド制度等検討ワーキンググループが設置され、国内のガイド制度やガイド講習プログラムの事例収集、ガイド実態調査、ガイドテキストの作成、ガイド勉強会などの取組を進めてきた。

大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会および利用対策部会、ガイド制度等検討ワーキンググループ、西大台地区利用適正化計画検討協議会等で出されたガイド制に関する意見や、具体的な取組について、時系列的に整理し、これまでの合意事項と検討課題をまとめた。

<これまでの検討で合意されている事項>

- ・ワーキンググループで検討するガイド制の対象は当面「西大台利用調整地区」とすること
- ・西大台利用調整地区におけるガイド制の仕組みとして、当面、登録制度から取り組むこと
- ・西大台でガイドを行う者を対象とした講習会等での使用を想定した「西大台ガイドのためのテキストを作成すること（平成 22 年度に作成済）

<今後の検討課題>

- ・東大台・西大台の利用特性を踏まえた上でのガイドに求められる要件の整理
- ・大台ヶ原におけるガイド養成講座等、人材育成の仕組みの検討
- ・大台ヶ原におけるガイド推奨の仕組みの検討
- ・ガイド制度の運営主体となる協議会の設置等、制度を具体化するための体制の検討

ガイド制に係るこれまでの取組み

取組内容	調査等	結果と考察
全国のガイド事例収集	ガイドに係る事例収集及び大台ヶ原におけるガイド制度のありかた検討（平成 18 年度）	全国のガイド制度の事例を収集し、大台ヶ原における制度の在り方を検討した。
	ガイド講習プログラムの事例収集及び大台ヶ原におけるガイド制度の進め方（平成 19 年度）	全国のガイド講習プログラムの事例を収集した。大台ヶ原におけるガイド制度の進め方を検討した。
現況ガイド団体の活動状況・意向把握	大台ヶ原ガイド実態調査（平成 20～21 年度）	大台ヶ原で活動を行うガイド 5 団体に対して、活動状況やガイド制度への意向等について把握した。
現況ガイドの質の向上	ガイド技術の向上検討（平成 21～22 年度）	西大台でガイドを行う者を対象とした講習会等において使用することを想定して、平成 21 年度にテキストの骨子案を作成し、平成 22 年度に「西大台ガイドのためのテキストを作成した。
	西大台ガイド育成のための勉強会（平成 23 年度）	大台ヶ原で活動しているガイド団体やパークボランティア等を対象として、平成 22 年度に作成したガイドテキストを用いて、インタープリテーションの技法等について学ぶための勉強会を 2 回開催した。勉強会で出された意見等を集約し、ガイドテキストへの繁栄を行った。

出典：平成 25 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会・第 1 回利用対策部会（平成 25 年 11 月 20 日）配布資料 1 - 2 より抜粋

ガイド制に関する意見一覧（平成17年度～25年度）

年度	ガイド制に係る主な意見【会議名／開催日】
H17	<p>○認定基準の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定ガイド付きの利用者であれば公園計画歩道以外のルートも使用できる、といったような基準についても検討すべき（例えば、経ヶ峰や七ツ池～ドライブウェイなどのルート） <p>【平成17年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第2回利用対策部会及び森林生態系部会合同部会／H17.12.16】</p>
	<p>○ガイドプログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近のエコツアーは全国どこも同じで、植物の観察会になってしまっている。大台ヶ原では地元の文化を伝えることを前面に出していきたい。 各地で条例による公認ガイド制度が出来つつある。将来的には、大台ヶ原にもこのような仕組みの導入が望ましい。 経ヶ峰に抜けるコースの利用は、ガイド付であれば認めることも考えてもらいたい。 <p>【第1回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会／H18.2.26】</p>
	<p>○総合的な利用メニューの充実検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイド研修会は、まだまだ不十分な点、改善すべき点が多い。ガイドに対しては利用者の安全確保を含めた高度な技能・知識が要求されることを考慮し、その養成の在り方を検討すべき。また、ガイドの認定に関しては、条例を制定し、後任ガイド制度をつくることを視野に入れた検討が必要である。 <p>【平成17年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第3回利用対策部会／H18.3.16】</p>
	<p>○利用方法に関する規定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定ガイドの資質について、資格の取得ではなく基本的な事項の受講にすべき。大台ヶ原のことを熟知している地元の人がリタイア後にガイドをしようとしたときの障壁になる。 <p>○管理運営体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドの同行義務付けは疑問である。 <p>⇒[環境省]認定ガイド制度が未成立であるので当面は同行が望ましいとしたい。</p> <p>【第2回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会／H18.3.26】</p>
H18	<p>○ガイド制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドの同行については、必須とするべきであるとの意見がある一方、必ずしも必須ではないとの意見もあり、ガイド同行の必須化については意見が分かれた。 一方で、現在の地域の体制では、現実的にガイドの必須化には対応できないとの意見もあり、そのため、資格認定のある職業的なガイドの育成の必要性についての意見が多く出された。 その他には、利用の質を向上するためにもガイド制度は重要であるといった意見があった。 <p>【西大台への利用調整地区の指定に関する懇談会／H18.4.26】</p>
	<p>○ガイド等の同行について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「将来的にはガイドの同行を義務付ける」ことを文章として明記するべきであるという意見と、ガイド付でない入山も認めるべきとの両論があった。 ガイド同行の義務付けについては、利用対策部会において継続して検討する。 <p>【第3回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会／H18.6.18】</p>
	<p>○ガイド制導入に関する検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> WG設置には賛成。森林生態部会の専門家とも連携しながら、質の高いガイドを提供できる体制を整備する必要がある。 全国の事例収集を進め、大台ヶ原へ適用する際に参考となる点を整理すること。 <p>【平成18年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第1回利用対策部会／H18.7.26】</p>
	<p>○ガイド制度等検討WGの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 大台ヶ原におけるガイド推奨の仕組みを確立することを目標とする。当面、西大台利用調整地区におけるガイド推奨の仕組みのひとつとして、ガイド登録制度を確立することを目標とする。 <p>○自治体等によるガイド制度の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国で「自称」ガイドによる遭難事故が多発し、条例等によるガイド制度の確立が加速。ガイドは、山岳や安全に関する一般的な知識だけでなく、地域特性に応じた知識や技能、責任が求められることから、大台ヶ原でも条例によるガイド制度の確立が望ましい。 <p>○大台ヶ原におけるガイド制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイド制度をつくるならば、ガイドの活動エリアを考慮し、大台ヶ原に限らず大峯も含めた広範囲で検討する方が望ましいため、奈良県の条例として考える必要がある。例えば県条例をつくり、特に保全が必要な西大台ではガイド同行の義務化も含めた検討を行うという段階的ステップが必要ではないか。

	<p>⇒ [事務局] 本会議の趣旨は、大台ヶ原自然再生推進計画に基づき、質の高い自然体験・環境教育を提供するためガイド制度の確立を目指すことである。将来的に、条例等による周辺地域を含めたガイド制度が確立することは望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当面は西大台に限り検討するとしても、全体的な将来像が必要。ガイド制度を周辺に拡張する場合には、求められる技術やガイド像が異なるので、制度の範囲についての整理が必要である。 ・ ガイドに求められる能力としての「知見・知識・技術」は必要条件であり、十分条件として、責任感やサービスに対する姿勢など、質の高い利用につながるような要素が求められる。単なる筆記試験による資格制度だけではなく、責任の取れるガイドのあり方を作り上げていくべき。制度確立だけでなく、その後のガイドの質の向上、育成がとても重要である。 ・ 各自治体の事例と比較しても、大台ヶ原は面積規模が小さいため、ガイドの需要について懸念される。 ・ 今後の大台ヶ原におけるガイドのあり方について、地域の意向を把握すべき。 ・ 西大台地区利用適正化計画検討協議会には、ガイドの審査能力や法的な責任がないので、登録機関として考えるのは不適切であり、ガイド制度のための協議会等を設置して運営すべき。 <p style="text-align: right;">【平成 18 年度第 1 回ガイド制度等WG / H18.12.18】</p>
	<p>○本検討におけるガイド制度の対象について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大峯等の周辺広域を含めると、多くの自治体との調整が必要になるので、今回の WG における検討対象は「西大台利用調整地区」に限定する方がよい。 ・ 自治体の事例をみると、条例が設置されていない場合もあるので、条例の策定はひとつの手段であり、今回の資料では「条例等」と表記すべき。 <p>○西大台利用調整地区におけるガイド制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当面は登録制度から始めるとしても、将来的には「認定制度」を目指すことが望ましく、その方向性は示すべき。 ・ 登録制度を設けるだけでガイドの質を担保することは難しいので、ガイドの評価を行う仕組みが必要である。例えば、利用者からの意見聴取、第三者が客観的な審査を行うなどが考えられる。 ・ 登録要件のうち、「基礎的な知識・技術等の保有」については、ガイド講習プログラムを受講する際の条件とすることも考えられる。また、どのような経験をもって、基礎的な知識・技術等の保有とみなすのか、今後整理が必要である。 ・ 登録事務の実施には費用と体制が必要だが、どのような運用を考えているか。 <p>⇒ [事務局] 西大台地区利用適正化計画検討協議会の事務局は環境省である。ガイドの登録に係る事務を協議会が行うとした場合、事務局である環境省が主体となるイメージである。</p> <p>○大台ヶ原ガイド講習プログラム（仮称）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド講習プログラムは、一定の日数が必要であり、また、修了にあたっては試験の実施（実技等）も必要ではないか。ガイドの質の向上の観点から、登録後も 1 年に 1 回程度の講習が必要ではないか。 <p>⇒ [事務局] 現時点でのイメージとして、計 3 回（春、夏、秋）、各回 2 泊 3 日程度の開催を考えている。また座学に加え、実技の実施も考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 つの登録要件に関する講習を、すべてガイド講習プログラムに組み込むことはできないか。 <p>⇒ [事務局] ガイド講習プログラムは、大台ヶ原固有の知見や利用調整地区制度の意義等について重点的に実施していきたい。基礎的な知識・技術等については、対象範囲が広いうえ、講習プログラムの日数も限られてくるので難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各地で、ガイドの認識の甘さによる山岳事故が発生しているので、今回の制度が安易な「ガイドの量産」につながらないように、慎重に検討すべきである <p>【まとめ】 本 WG で検討するガイド制度の対象は、当面「西大台利用調整地区」とすることについて合意がなされた。西大台利用調整地区におけるガイド制度の仕組みとして、当面、登録制度から取り組むこと等について合意がなされた。</p> <p style="text-align: right;">【平成 18 年度第 2 回ガイド制度等WG H19.2.16】</p>
H19	<p>○「総合的な利用メニューの充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド制度の検討は、利用調整地区の開始というタイミング的にも、また、地域の活性化という点でも、重要な課題である。次年度は、具体的な実施に向けた準備の段階まで踏み込むべきである。 ・ ガイド制度の WG が、今年の秋以降にスケジュールされているが、もう少し早く実施すべき。 ・ 現状の自然観察会の参加者数等をみると、低い水準に留まっているように思われる。ガイド制度に活用していくことも踏まえて、観察会のプログラムを充実させ、常に更新してい

	<p>く必要がある。 【平成 19 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第 3 回利用対策部会／H20. 2. 18】</p> <p>○ガイドの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコツーリズムの内容が拡大しており、西大台を対象にするとしても、単なる自然体験だけではなく、地域の歴史文化を含めた、より広がりのある体験が求められている。西大台利用調整地区の資源は何か、そこでどんな体験をしてもらうのかといった点について検討し、合意をつくっていく必要がある。 <p>○ガイドとして求められる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西大台に関するガイドであっても、地域の全般的な自然や歴史を踏まえた上で、その中で、なぜ、この地区が重要かといった視点が重要である。 ・ ガイドに認定された人に、どんな権限があって、何ができないのか、資格の具体的な中身について議論しておく必要がある。 ・ ガイドとして、最低限必要な条件について検討を進めるべき。例えば、無線の携帯義務化等、具体的な点を議論しておくことが必要。また要件の一部については、日本赤十字社の資格認定をもって代える等、外部の資格の活用も考えられる ・ ガイドの料金についても、無償でガイドツアーを実施して、この内容であれば、何円まで払えるか、といった形で調査することが考えられる。 <p>○役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドを実際に運用していくためには、環境省以外に、地域を主体とした協議会のような別の組織が必要である。 ・ 地域の自治体では、職員削減のなかでなかなか多様な取り組みに参加するだけの余裕がない <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の資源等に関して、ワークショップを実施し、参加者で共有しながら、整理していくことも考えられる。 ・ 地域を巻き込んで、地域の歴史や文化、あるいは吉野熊野地域全体を含めた地元学的なガイド勉強会や研修等を実施してはどうか。 ・ 試験的にガイドプログラムを実施してみて評価していくことも重要である。例えば、小処から登ってきて西大台に入るツアー等を、試験的に実施できないか。 ・ 専門家が蓄積している情報を基礎として、ガイドが活用できるようなテキスト的な資料をまとめる必要がある。既存の自然解説マニュアルは、あまり使われていない。現状に応じた改訂が必要である。なおテキストを作るだけでなく、積極的に使っていくことが必要。例えば、既存のマニュアルを使って試験的にガイドを実施して、足りない点等をチェックすることも考えられる。 <p>○今後の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の調査項目・今後の進め方については、概ね合意が得られた。 ・ 次回の現地WGでは、視察的なものではなく、実際に現地を歩いて、地区の資源を地図にまとめるといった、作業を含んだWGにしてはどうか。参加者間で何らかの合意が得られる機会にすべき。 <p style="text-align: right;">【平成 19 年度ガイド制度等WG／H20. 2. 28】</p>
H20	<p>○ガイドに関するアンケート調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド団体に意向を聞くより、環境省が先に制度の骨格を作るべき。環境省の毅然とした姿勢が必要といえる。実態調査は必要だが、ガイド団体には、制度を導入した場合の意向を問うべき。 ・ 上北山村のガイド2団体だけではなく、川上村や大杉谷自然学校などの周辺の団体、また、さらに地域を広げて大台ヶ原でガイドを行う可能性がある団体に対してヒアリングをかけるべきではないか。 ・ 利用者に対するアンケートで、ガイド料金を問うべきではない。質の高いガイドに対して適正な対価が支払われ、生業として成り立つようなガイド制度を導入すべきである。 <p>○大台ヶ原におけるガイドのあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上北山村は、高齢者の副業としてのガイドを考えているようであるが、それではガイドは務まらない。現行のガイド団体はボランティアに近い。 ・ ガイド制度の確立にあたっては、封建的な考え方に基づくものでは失敗する。地元にする気（自主性）がないといけない。 ・ この会議に地元関係者（川上村、上北山村）が参加していないことは問題である。地元における協議会に上平氏（五色が原森の案内人・隊長）のような方をお招きし、地元にもっと先進地の事例を聞いてもらうべき。 ・ 事例報告などの勉強会は今回で終わり、これからは大台ヶ原でどのように行っていくのかということ議論していく段階と考える。 <p style="text-align: right;">【平成 20 年度ガイド制度等WG／H20. 11. 9】</p> <p>○ガイド制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質の高い自然体験を提供していく上で、ガイドの養成は重要課題である。現在の西大台におけるガイドの利用状況や、ガイドの技術や知識レベル等は、どのような状況か？

	<p>→ (環境省) ガイドの利用状況については、おおよその感触では1割未満と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北山いこらでは、利用調整以前には、西大台で年間30件程度のガイドをしていたが、今年は3名の個人のガイドのみである。ガイド制度の充実については、ぜひ進めていってほしい。またガイドの知識や技術については、NPO 森と人のネットワークが実施しているガイド養成講座を受講しており、安全管理や基礎知識の向上に努めている。 自然環境の保全と地域の活性化を両立していく上で、質の高いガイド制度をつくっていくことは非常に重要だと考える。峠山や五色ヶ原のガイド事例などを踏まえながら、ガイドの養成について取り組んでいってほしい。 <p>【第8回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会/H20.12.12】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ガイドの養成については、ガイド制ワーキングで検討している。質の高い利用を推進するためにはガイド認定制度が必要であり、認定制度の創設に向けて奈良県と調整を図る必要がある。 <p>【第9回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会/H21.3.23】</p>
H21	<p>○大台ヶ原におけるガイドの現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 来訪者のガイド利用理由は、西大台では道が不安だから、東大台では木々の説明などコースガイドの希望が多い。また、添乗員のかわりに時間通りにきっちりと迷わずにコースを回り、自然解説もあれば一番良いという要請がある。 西大台巡視業務中、利用者から「道がわからないので付いてきてほしい」という依頼が少なからずあり、巡視を兼ねて同行することがある。 西大台では、コース外に踏み入る人は見られない。 大台ヶ原で捻挫や低体温症等で倒れた場合には、ビジターセンターに受け入れてもらっているが、ビジターセンターは原則5時までなので、安全管理のための情報センター、あるいは救急体制が必要になるので、体制を考えなくてはならない。 ガイドとしては、親になるような団体があって、各ガイドにお客をバランスよく振り分けてくれるようなシステムがあれば良いと思う。 全国でガイドの検定や講習をやっており、大台ヶ原でも地域独自のガイドの養成、認定のシステムはあった方がよい。 <p>○ガイド要件の再整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドの立場からは、大台ヶ原ではインタープリターのような自然解説のガイドが必要だと感じている。 西大台はルートが難しいわけではないので、純粹な意味での山岳ガイドは不要であるが、インタープリターは必要である。安全確保とインタープリター的な能力の、両方を持ったガイドが求められる。 ガイド内容は、初心者向けだけではなく、もう少しレベルの高い人向けの内容もあった方がよい。ガイドが付いて入るからこそ、体験できるプログラムを作っていくことが重要。 西大台で何を提供するのか、目指す姿を議論できれば、既存ルートを外れたときにどうするかというルールも作れるだろう。 ガイド自身も、ここでこういうことをしてみたいといったことや、理想とするガイドのあり方などについて、アイデアを出し合えば良いと思う。 一般の方に、自然再生の取り組みを知ってもらい、何らかの形で参加できるプログラムが作れたら良い。そのために既存ルートを外れる場合も検討してもらいたい。西大台の既存ルートを外れて、雄大な自然をみせるのであれば、山岳ガイド的な要素も要求される。西大台の既存ルート以外の利用をどう考えるかということは、大きな課題である。 <p>→ (事務局) 西大台地区利用適正化計画ではガイド付きに限定した歩道外の利用については継続的な検討課題としているが、現時点では、原則として既存の歩道を利用することとしている。</p> <p>○ガイド育成のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> 西大台利用調整地区で、ガイド付きの利用に絞っていくのであれば、ガイド養成は急がれるし、ガイドの存在価値も極めて重要になってくる。すぐに組織ができないとしても、ガイド育成のための仕組みは検討しなければならない。 ガイドに関する新たな研修会を、年に何回か環境省が実施し、それを何回受けたかを、ガイド登録の条件にするとよい。 安全確保のためには、日赤の救急法に関する講習を受講しただけでは十分とは言えない。全ての講習プログラムを環境省が用意するのは困難なので、より深い内容の講習を日赤に依頼するなどして、外部にどんどん委嘱していけばよい。 <p>○テキスト作成の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドの認識やレベルを揃える必要がある。テキストを作るための資料やデータは、今までの蓄積がある。それに安全確保や登山技術上の問題を加える。作成時には、ガイドからいろんな知恵をお借りする必要がある。テキストは、統一されたもので、どのガイドも理解して説明できるものであるべき。 大台ヶ原ブックやパークボランティアの解説冊子もベースとして、テキストのたたき台を作り、次のワーキンググループで議論すべき。 <p>○ガイド運用の仕組み検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドが増加して、既得権が発生する前だからこそ、明確なルールを作ることができる。

	<p>例えば大台ヶ原でも、観光協会にガイドを登録してガイドを斡旋する仕組みをつくることが考えられる。観光協会の事務局は上北山村だが、村の未来にも関わるので、是非リーダーシップをとって進めてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省ではガイド認定はできない。協議会なり協会が必要であり、ミュージアムや宿泊施設との連携というかたちで、早い段階で作ることを目標にすることも考えられる。 ・奈良県、上北山村、川上村も含めて、何らかのかたちで連絡協議会に準ずるような連絡会を作れないか、次のステップにつなげるためにも検討すべき。 <p>○今後の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、論点の整理をしつつ、具体的プログラムに入っていくべき。進行しつつ考える段階に来ている。次回は、現地に行くよりも、協議会のあり方やテキストのあり方を詰めるほうが良い。 <p>→(事務局) 今回の意見を踏まえ、次回ワーキングでは、現地を踏査する予定を変更し、テキストの内容等について検討を行うこととする。</p> <p style="text-align: right;">【平成21年度第1回ガイド制度等WG/H21.9.11】</p>
	<p>○西大台ガイドブック(仮)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西大台でガイドを行う者向けのガイドブックであり、ガイド講習会のテキストとして使えるものを作成することで合意が得られた。 ・第3回WGの代わりとして編集委員会を開催し、骨子案を利用対策部会に提案すること、編集委員には日比委員、横田委員を含めることとし、その他の人選は事務局で検討することで合意が得られた。 ・リスクマネジメントとインストラクト技術(1章)、自然環境全般(2章)、自然再生等関連法令やマナー、連絡体制等(3章)の3部構成とし、骨子を編集委員会で検討することで合意が得られた。 <p style="text-align: right;">【平成21年度第2回ガイド制度等WG/H21.10.27】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・西大台でガイドを行うものを対象に、利用者の安全確保と自然観察等に関するインタープリテーション能力を有するガイドの育成を目的とし、名称を「西大台自然観察ガイドのためのテキスト(仮)」とすることで合意が得られた。 <p>○テキストの構成について</p> <p>以下の項目について合意が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨子案の三章構成を基本として、第1章(3~4ページ程度)、第2章(25ページ程度)、第3章(10ページ程度)、全体の分量をA4で40ページ程度とする。 ・冒頭に「はじめに」を追加し、大台ヶ原全般の概況や西大台地区の位置などを記述し、併せてテキストの作成目的や対象を記述する。 ・第1章第2項リスクマネジメントでは、落雷や急な増水、霧等、西大台で注意すべき項目に焦点をあてて記述する。 ・第2章第3項1(7)危険な植物は、第1章第2項(2)動植物に関するリスクにまとめる。 ・第2章では、地形と植生の関係等、複数の項目にまたがるような内容はコラムとして挿入する。 ・第2章第5項として何がいつでも見られるかという情報を、位置図と併せて記述する。 ・第3章第2項の法令関連では、吉野熊野国立公園や特別保護地区に指定された理由としての、地域の特徴について記述する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考文献のリストをつけるなら、大台ヶ原ビジターセンターや吉野自然保護官事務所等にそれらの文献等を集め、ガイドが調べたいと思ったときにいつでも見られるようなバックアップ体制がある方が、ガイドのスキルアップに繋がっていく。 ・参考文献として紹介する場合は、一般に入手がしやすいように市販されているものとするほうがよいのでは。 ・ガイドには、いつでも何を説明したかを記録してもらい、数年分のデータが蓄積できれば、本テキストを改定する際の有用な情報となるのではないか。自分の記録が次に活かされると、ガイドのモチベーションも上がると思われる。 ・本テキストの形がある程度できた段階で、実際にガイドに現地等で使用してもらい、意見をもらうことも考えられる。 <p style="text-align: right;">【平成21年度西大台テキストブック編集会議(第3回ガイド制度等WG)/H22.1.12】</p>
H22	<p>○ガイドの育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド制度については、ワーキングで議論を行ってきた。基本的には、安全管理や質の高いインタープリテーションなどについて、一定の要件を満たす人を、ガイドとして推奨していくこととしている。 ・ガイドテキスト(案)を12月中に完成させる予定である。 ・パークボランティアでは、不文律として、ガイドは無償で行うこととしていた。パークボランティアによるガイドについては、どのように考えているか。また、巡視員によるガイドを認めているのか。 <p>→(事務局) ワーキングでは、有償の職業ガイドを意図した検討を行っている。パークボラン</p>

	<p>ティアの中には、ガイドを行う能力を有する者もいるが、現時点において、「パークボランティア」という肩書きで西大台でのガイドは行ってはいない。また巡視員が巡視業務を行いながら有償のガイドを行うことは認められないが、利用者から一緒に歩きたいという要望があった場合、状況が許せば、一緒に歩いて案内することはありえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドのためのテキストのタイトルが、「自然観察ガイドのための」となっており、また、編集会議の委員も自然関係に偏っている。歴史や文化に関することを抜きにして西大台を語ることはできないので、その点を十分認識してほしい。 <p>【第12回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会／H22.12.8】</p>
	<p>○平成22年度「新しい利用の在り方推進」に係る調査及び取組の結果等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 西大台ガイドのためのテキストには、従来の大型防鹿柵からパッチディフェンスに転換していることなど、まだいくつか抜けている点がある。 ガイドテキストは、専門家や委員に意見を求め、改善・追加すべきことを確認して早急に進めること。 <p>○平成23年度「新しい利用の在り方推進」実施計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ツアーを組む立場からみると、上限人数10人でガイドをつけると割高になってしまう。例えば登録されたガイド付きなら上限10人でなくてもよいといった運用ができれば、利用の質が高いままで利用しやすくなると思う。 今年度作成したガイドテキストを使って学習会を開くなどの取り組みをすべき。 環境省がガイド養成に着手すべき。 <p>⇒（事務局）ガイド養成については重要性はわかっているが、自然保護官一人という体制で、事業費も削減されている中で進めるのは大変厳しい。エコツーリズム推進関連で、事業主体が市町村であればそれを補助するための予算は確保できているが、実際に手を挙げる市町村はなかなか出てこない状況である。指定認定機関の商工会にもご協力いただきながら少しずつできることから取り組んでいきたい。</p> <p>【平成22年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 利用対策部会／H23.2.4】</p>
	<p>○ガイド制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> 西大台利用調整地区については、最終的にはガイドの同行を義務づけることが理想である。西大台におけるガイド制度の確立に向けて、環境省が責任を持って取組んでほしい。 資料1、資料4に、「自然ふれあいプログラムの提供等」というタイトルで、ガイド育成のためのテキスト作成のことが述べられているが、このテキストは、プロガイド養成を目的としたものであり、一般向きの自然ふれあいプログラムとは違うので、誤解のないようにしてほしい。 <p>【第13回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会／H23.2.21】</p>
H23	<p>○ガイドについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドに関する議論は、現在、頓挫している状況にあるが、以前の議論の論点は登録制度にするのか、認定制度にするのか、ガイドの資格と要件等についてであった。今回の資料でガイドについての記述があるか、ここでいうガイドとはどういう条件で誰が決めたものか確認したい。 「西大台ガイド」の表記の仕方については「西大台エコツアーガイド」とした方が良い。また、質を確保する為の措置、研修等に当たっての人選、対応の仕方、さらに、ガイドテキストの活用方法等、今後どうしていくのか。 <p>⇒（環境省）ガイドの条件などについては、明確に定義したものはない。ガイドの勉強会については、地元のガイド団体、パークボランティア等に声を掛けた。来年の予算確保に関して見通しが立っていないが、今後とも、ガイドの育成等に関しては何らかの形で進めていきたいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 西大台エコツアーガイドは、質の高い利用のためには非常に重要な要件であり、地域の雇用創出の可能性もあるため、利用対策部会でも重大な関心を持って取り組んでいきたい。 勉強会に関して、出席者の評価はどうだったのか。もしよかったのであれば、環境省と村が協力して継続していけば有効になると思う。ガイドに関しては、資格を設けて門前払いするよりも、皆がスキルアップしながら地元の活性化につながるよう前向きにとらえられると良いと思う。 受講しただけではだめで、それを活かして自分で実践してみないとモノにはならない。また参加者同士の交流が重要と考えられ、お互いのスキルアップが理想と考えられる。予算の兼ね合いもあるが、今後も継続してもらいたい。 <p>【平成23年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 利用対策部会／H24.2.9】</p>
H24	<p>○大台ヶ原の利用に関する協議会の目的について</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議会の協議事項に、「ガイド体制の提供」が挙げられているが、適切なガイドサービスを、誰が、どのような体制で提供していくのかについて、もう少し詳しく説明してほしい。 <p>→（事務局）ガイド制度については、現時点では、環境省として具体的に提案できることはないが、この協議会の中で意見を聞きながら、今後、検討していきたい。</p> <p>【大台ヶ原の利用に関する協議会（準備会）／H24.12.20】</p> <p>○平成24年度 環境省が実施した利用に関する各種調査及び取組の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイド制度に関する取組の記載がないが、今年度はどのような状況であったのか。また

	<p>重要な取組であるため、項目立てする必要がある。</p> <p>⇒（環境省）現状として、ガイドを利用したのは12.7%という結果が出ている。ガイド制度に関しては来年度以降、検討していけるように仕組みづくりを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状のガイドは無秩序状態である。まずは現状を把握しなければ構想を練ることもできない。 <p>【平成24年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 利用対策部会／H25.2.13】</p>
H25	<p>○利用対策に係るこれまでの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期計画期間中には、質の高い自然体験学習の提供は本格的には実施できなかった。次期の計画では強化していく必要がある。利用調整地区としてのアピールはほかの方法もあったのではないかと。ガイドに関しては取組が不十分であった。西大台だけではなく、もう少し広いエリアでの展開が必要と考えられる。 ガイド制度に関するワーキンググループの開催について、資料に書かれていないため、きちんと記載すべき。逆に勉強会が記載されているが、適切な方が講師になっていたとは思えない。また質の悪いガイドが流入する前に、適切なガイド制度を構築すべきであり、ガイド制度の議論をもっと活発に実施すべきである。 ガイド制度については環境省の方針が見えてこない。 質の高い利用については、まだ始まった段階である。特に、東大台・西大台の見せ方はもっと工夫の余地がある。iPadを活用して季節ごとの情報を見せたりすることも考えられる。ガイドについて、環境省がどこまで踏み込めるのかという制約があることはわかるが、検討を深めていく必要がある。優秀なガイドに来てもらい、見方、見せ方を学びながらの議論も必要ではないか。 ガイド制度については、上北山村として前向きに検討していきたいが、マンパワーとして限界がある。 <p>【平成25年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第1回利用対策部会／H25.11.20】</p> <p>○平成25年度 環境省が実施した利用に関する各種調査及び取組の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度改定予定のガイド冊子については、内容を議論するため、参考資料として提出してもらいたい。 <p>⇒（環境省）作成次第、ご確認いただけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度実施しているガイド制度に関する調査の結果については、どのような形で報告がなされるのか。 <p>⇒（環境省）今年度が検討のための調査をした段階であり、調査の結果については取りまとめ次第、別途報告する。ガイド制度の検討については、来年度以降ご議論いただくことになると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイド制度の事例調査については、過年度に実施したのではないのか。ガイド制度については、以前の調査結果の総括を含めて検討すべきではないか。 <p>⇒（環境省）今年度のガイド制度の事例調査については、以前の調査から時間が経過し、状況が変わっていることから再度実施したもの。</p> <p>【平成25年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第2回利用対策部会／H26.2.12】</p>

出典：平成17年度～25年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会・利用対策部会資料及び吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会資料

参考：吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画におけるガイドに関連する記述

<p>6. 自然ふれあいプログラムの提供等に関する事項</p> <p>6-1 自然ふれあいプログラムの作成等</p> <p>西大台を案内するガイド等に向けた情報や研修の機会等を提供する。</p> <p>さらにより深い自然体験のために、大台ヶ原の自然を熟知したガイドによる自然ふれあいプログラムとして推奨すべき興味地点、コース等をまとめ、ガイド付き限定で利用することも将来に向けた課題として検討する。</p> <p>6-2 ガイド付き立入りの推奨、ガイド人材の育成</p> <p>利用マナーを徹底し、利用の安全を確保するとともに、利用者により質の高い体験を提供するためには、大台ヶ原の自然を熟知したガイドの同行が効果的であることから、大台ヶ原の自然等を熟知した者の随行を推奨する。</p> <p>ただし、現状では、大台ヶ原におけるガイド制度が未整備であることから、ガイド推奨のための仕組みの整備と人材育成を促進すべく関係機関間において協議していく。</p> <p>出典：吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画</p>
--

2. 利用者意識～平成 25 年度地域協働による大台ヶ原等の魅力向上方策検討調査業務より

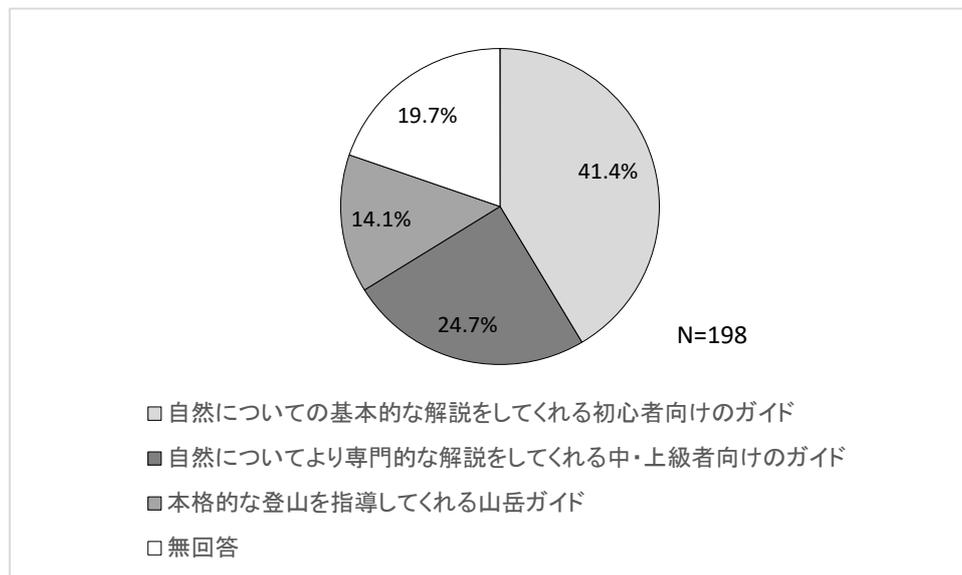
平成 25 年度に、大台ヶ原来訪者を対象としたアンケートを実施した。実施期間は平成 25 年 11 月 23 日～12 月 2 日¹で、計 198 部の回答を得た。

設問	
大台ヶ原におけるガイドツアーについて、どのようなガイドツアーがあれば参加したいと思いますか。希望するガイド料金とあわせて、以下より一つ選んでください。	
① 自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド	} → ガイド料金 () 円までなら支払っても良い。
② 自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド	
③ 本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド	

(1) ガイドツアーへの参加意向

大台ヶ原におけるガイドツアーへの参加意向について質問したところ、「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」(41.4%) が最も多く、次いで「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」(24.7%)、「本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド」(14.1%) の順に参加意向が高かった。なお無回答は 19.7%であった。

大台ヶ原におけるガイドツアーの参加意向



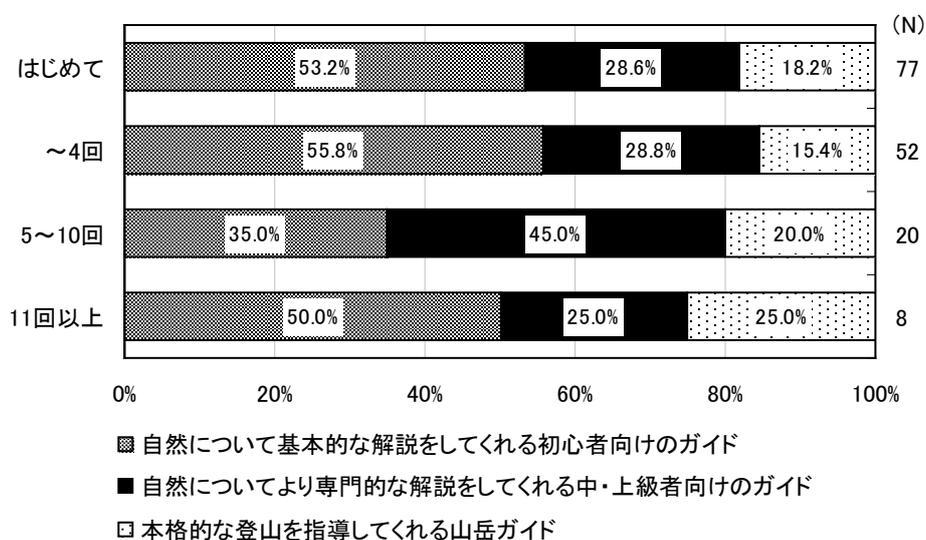
来訪回数ごとのガイド利用意向をみると、大台ヶ原への来訪が「はじめて」及び「4回まで」の回答者では、「初心者向けガイド」の利用意向の占める割合が比較的高かった(53.2%及び55.8%)。

一方、「5～10回」の回答者では、「中・上級者向けガイド」の利用意向の占める割合が高く(45.0%)なり、「11回以上」の回答者では、「本格的な山岳ガイド」の利用意向の占める

¹ 調査は大台ヶ原駐車場にて、平成 26 年 11 月 23 日(土)に 対面調査で実施し、計 114 票の回答を得た。またより多くの回答を得るために、大台ヶ原ビジターセンターにおいて留め置き調査を平成 26 年 11 月 24 日(日)から主要地方道大台ヶ原公園園川上線(大台ヶ原ドライブウェイ)が閉鎖される 12 月 2 日(月)の 9 日間実施し、計 84 票の回答を得た。

割合が比較的高かった (25.0%)。

来訪回数別ガイドツアーの参加意向



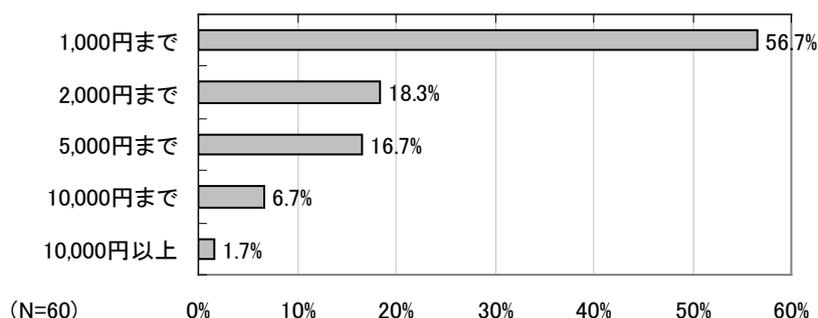
※不明、不詳を除く

(2) 希望するガイド料金

① 「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」の希望料金

「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」に参加したいとの回答者 (有効回答者数 60 人) が希望するガイド料金の分布をみると、「1,000 円まで」が最も多く (56.7%)、次いで「2,000 円まで」(18.3%) と、2,000 円までの比較的安価でのガイド料金の希望者が 75.0% を占めていた。

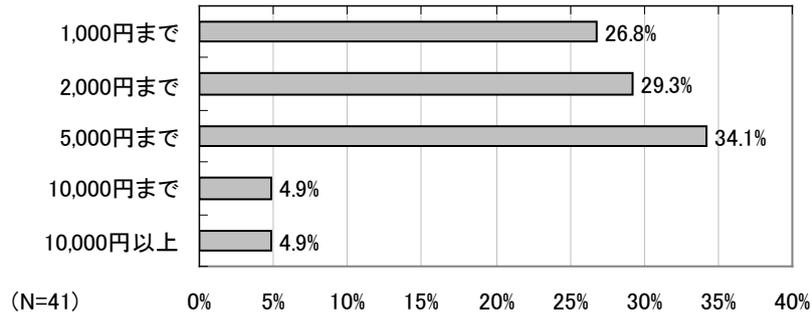
「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」の希望料金の分布



② 「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」の希望料金

「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」に参加したいとの回答者 (有効回答者数 41 人) が希望するガイド料金の分布をみると、「5,000 円まで」が最も多く (34.1%)、次いで「2,000 円まで」(29.3%)、「1,000 円まで」(26.8%) となり、①に比べ、比較的高額でのガイド料金まで許容される傾向があった。

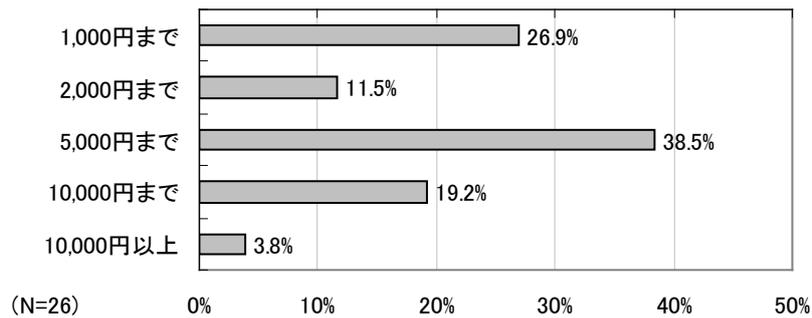
「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」の希望料金の分布



④ 「本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド」の希望料金

「本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド」に参加したいとの回答者(有効回答者数 26)が希望するガイド料金の分布をみると、「5,000円まで」が最も多く(38.5%)、次いで「1,000円まで」(26.9%)となった。一方、「10,000円まで」は19.2%と、①、②に比べて高い割合となっており、高額でのガイド料金まで許容される傾向があった。

「本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド」の希望料金の分布



3. 大台ヶ原におけるガイドの実態

ガイド団体ヒアリング調査より

1) ガイド活動の実施状況

- ・各ガイド団体のうち、特徴的な活動を行っている下記の4団体にヒアリングをおこなった。
- ・「大台・大峰ガイドサービス」は、大台ヶ原、大峰山系、その他の近畿地方の山域を中心として、初心者～中級者向けのガイドを実施している。登山ガイドとしての道案内・安全確保のほか、自然や歴史に関する解説も行う。
- ・「嶺霧露会」は、天川村洞川を拠点として、大峰山系の山上ヶ岳、稲村ヶ岳の案内をしてきた団体であり、大峰山系の山岳信仰・修験道の歴史と深い関わりを持つ。ガイド内容は、山上ヶ岳、稲村ヶ岳の初心者向けの日帰り登山が主で、期間は5～9月に限られている。その他に、大峰奥駆道の縦走など上級者向けのガイドも行っている。
- ・「NPO 法人大杉谷自然学校」では、大台町を拠点に、主に大杉谷において、初心者～上級者向けのガイドを実施している。また、大杉谷や台高山系などで同自然学校主催のガイドツアーなども行っている。登山ガイドとしての道案内・安全確保のほか、自然や歴史に関する解説も行う。
- ・「トレック北山」では、上北山村を拠点として、主に大台ヶ原において、初心者向けのガイドを実施している。ガイド内容は、日帰りで東大台を1周するコースなどが多い。その他、大峰山系などでもガイド活動を行っている。

2) 資格等の保有状況

- ・登山・山岳関係のガイド資格としては、自然・登山・山岳ガイド（日本山岳ガイド協会）（大峰・大台ガイドサービス1、トレック北山1名）、山岳指導員（日本山岳協会）（大峰・大台ガイドサービス6名）などの保有が確認された。
- ・自然体験関係では、CONE 自然体験活動指導者（大杉谷自然学校4名）、森林インストラクター（トレック北山1名）などの保有が確認された。
- ・救急関係では、赤十字救急法基礎講習を受講しているガイドが多い。

3) ガイド料金

- ・ガイド料金に関しては、以下のような料金設定が確認された。
 - 東大台1周コース（日帰り）、1グループ（20～25人）当たり約16,000～18,000円
 - 西大台1周コース（日帰り）、1グループ（10人）当たり約25,000円
 - 山上ヶ岳往復コース（日帰り）、1グループ（30人）当たり約15,000円
 - 大峰奥駆道縦走コース、1グループ当たり約20,000～25,000円

4) 利用者の属性・ニーズ等

- ・利用者の年齢層は60代以上が主であるが、近年、30～40代が増加しているという指摘もあった。男女比はほぼ均等か、やや女性が多い傾向がある。
- ・利用者の居住地は、ガイド団体により、異なり、大台・大峰ガイドサービスは大阪・愛知、嶺霧露会は大阪を中心とした近畿地方および三重、大杉谷自然学校は三重、トレック北山は兵庫などの利用が多い。
- ・嶺霧露会については、大峰山寺の信徒団体の利用が大半を占めるが、町内会や一般企業研

修などの利用もみられる。

- ・利用者から高い評価を得られる場所として、大台ヶ原では大蛇嶮、日出ヶ岳等、大峰山系では八経ヶ岳、大峰奥駆道、海への眺望、山上ヶ岳の眺望やご来光・雲海等が挙げられた。
- ・利用者から高い評価を得られるサービスとしては、自然や歴史・民俗などに関する解説が挙げられた。また、一般的な登山道外のルートの案内を挙げる団体もあった。

5) ガイドを行う上での課題

- ・ガイド団体には（地元である上北山村の団体も存在するが）、専門ガイドの数は少なく、人材の育成が課題となっている。これに対し、環境省では、西大台でガイドを行う者を対象としたテキストの作成（平成 22 年度）や、大台ヶ原で活動しているガイド団体等を対象とした勉強会の開催（平成 23 年度）を行っている。

6) その他

- ・旅行会社等によるツアーが、5 月から 10 月にかけて実施されており、ガイドなしのツアーも催行されている。また紅葉の時期には、梅田や難波等の近郊の主要駅を発着地とする日帰りツアー等も人気がある。

4. ガイド制度の実施事例

(1) ガイド制度を導入した背景

- 世界遺産登録等を契機に利用者が急増したことや、ガイドの増加による共通ルールの徹底の必要性等を目的としてガイド資格制度を導入した事例として、東京都、小笠原村、屋久島、知床、北海道の事例が挙げられる。
- 地域振興やエコツーリズム推進の観点からガイド制度を導入した事例として、五色ヶ原、尾瀬が挙げられる。

(2) ガイド制度の運営主体

- ガイド制度の運営主体は、関連行政機関や市民団体、個人ガイド等から構成される「協議会設置型」、関連行政機関が主導で進める「行政主導型」、及び行政機関が民間に委託する「民間委託型」の3つのタイプに区分できる。
- 各事例の運営主体タイプは、以下に区分される

運営主体別の制度事例

区分	制度名	運営主体	協議会の事務局
協議会設置型	小笠原陸域ガイド登録制度	小笠原村エコツーリズム協議会	小笠原村産業観光課
	知床五湖登録引率者制度	知床五湖の利用のあり方協議会	環境省ウトロ自然保護官事務所・北海道網走支庁環境生活課・斜里町環境保全課
	尾瀬認定ガイド制度	尾瀬ガイド協会	財団法人尾瀬保護財団
	屋久島ガイド登録・認定制度	屋久島地区エコツーリズム推進協議会	屋久島町環境政策課
行政主導型	東京都自然ガイド認定制度	東京都環境局	
	五色ヶ原森の案内人制度	高山市環境政策推進課	

(3) ガイドの登録基準

- ガイド希望者が、ガイドとして登録されるまでの大まかな流れは、大きく3つの段階に分けられる。
- まず受験申込段階に必要な「①受験資格」を備えること、次に知識や技能、ガイドとしての意識、ホスピタリティ等を習得するための「②講習プログラム」を修了すること、最後に各項目の習得状況を確認するための「③資格試験」に合格すること、である。

- ①受験資格として、「満18歳以上」「満20歳以上」等の年齢制限の他、当該地域の居住歴（屋久島の場合、島内に2年以上、東京都の場合、小笠原村に1年以上）等、一定の制限を設けている事例もある。
- ②講習プログラムについては、座学に加えて現場での講習を設けている事例や、独自にテキストを作って、受講者に販売している事例もある。一方、講習等を実施しない事例もある。
- ③資格試験については、講習内容を理解しているかどうかを問う内容となっている。筆記

試験だけでなく実技試験を課す場合もある。なお、講習の修了をもって合格したとみなす場合等、試験等を実施しない場合もある。

(4) 登録の更新と罰則規定

- 一度ガイドとして登録あるいは認定された後も、ガイドの質を担保するために、更新制を導入している。
- 更新制を導入しているのは五色ヶ原を除く全ての事例で見られた。
- 更新期間は概ね2～3年であり、更新時の講習受講を義務化している。
- 登録取り消しを含む罰則規定を設けている事例もある（東京都、屋久島）。

(5) 制度運用上の課題

- 登録者が全ガイドの半数程度に留まっていることや、多様なニーズに対応する各ガイドの一元的管理が困難であるなど、包括的な管理体制の構築が課題
- ガイドの高齢化が進んでいることや、資格認定のメリットが少ないために希望者が減少傾向にあること等から、後継者の確保、育成が課題
- 利用集中期のガイド手配や窓口の混雑対策など、需要にマッチしたガイド利用の仕組みづくりが課題

<具体的な課題>

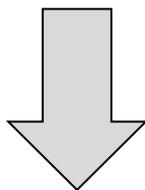
- 認定ガイドは、全島のガイド（観光協会所属ガイド）の半数程度にとどまる（屋久島）。
- フィールドは山から海まで幅広く、様々なガイドが活動しているため、一元的な制度では包括できない部分もあって難しい（屋久島）。
- ガイドの高齢化が進んでおり、後継者の育成が課題となっている（尾瀬、五色ヶ原）。
- 資格認定のメリットが少なく、受験者が減少傾向にあり、登録更新をしない、あるいは登録していることを公表しないガイドもいる（北海道）。
- 案内人の経験や力量の差に応じた待遇のあり方について、今後の検討課題である（五色ヶ原）。
- 利用者自身でガイドを選んで予約を行う必要があり、利用集中期にはガイドを見つけることが難しい場合がある。利用者の需要に対してガイドをマッチングしていく仕組みが必要とされている（知床）。
- 利用者に十分な利用機会を提供するため上限人数の拡大が予定されており、窓口の混雑への対策やガイドの確保などが課題となっている（知床）。

大台ヶ原におけるトイレ設置の検討

1. 大台ヶ原におけるトイレ問題に関する取組方針

<大台ヶ原におけるトイレ問題に関する考え方>

- ・東大台地区においては、利用者によるし尿排泄の問題があり、協議会でも東大台でのトイレ設置について要望が出されている。
- ・トイレの整備にあたっては、環境や景観への影響に配慮して、携帯トイレブースの設置が望ましいが、携帯トイレブースの整備、配布・回収等の運営体制づくりや費用負担などの課題も大きい。
- ・大台ヶ原駐車場においては、既に2ヶ所のトイレが整備されており、当面は、駐車場トイレの利用の呼びかけなどを通じて、トイレ問題に対処すべきである。
- ・一方、西大台では、これまで地域団体により、携帯トイレブースの設置が行われており、この取り組みを発展させていく必要がある。



<トイレ問題に対する取組の方向性>

- 東大台、西大台の共通の取組として、入山前の駐車場トイレの利用に関するより一層の普及啓発について検討する。
- 西大台については、これまでの設置実績を踏まえて、「大台ヶ原の利用に関する協議会」の事業として、携帯トイレブースの設置・運用を実施することにより、安定的・継続的な取組となるよう検討する。

2. 取組内容

(1) トイレ利用に関する普及啓発の実施

- ・東大台、西大台ともに、地区内にトイレは無いため、立入り前に駐車場トイレを利用することを利用者に呼びかける。
- ・併せて、地区内でのし尿排泄による植生への影響や、利用環境の悪化などについても啓発し、トイレマナーの向上を呼び掛ける。
- ・方法としては、入山口への注意看板の設置、チラシの作成・配布などによるキャンペーン等を検討する。

(2) 西大台利用調整地区における携帯トイレブースの試行実験の検討

- ・西大台利用調整地区では、これまで、NPO 法人森と人のネットワーク・奈良が、開拓跡に携帯トイレブースを設置していた。
- ・この実施結果を踏まえて、大台ヶ原の利用に関する協議会を実施主体として、西大台における携帯トイレブースの設置・運営を行い、携帯トイレの利用実績や運用に関するデータを収集・整理し、安定的・継続的な運用に向けて検証を行うこととする。

大台ヶ原における標識等の多言語化について

1. 多言語化に関する基本的な考え方

- ・大台ヶ原における標識等の多言語化は、大台ヶ原全体の利用のあり方を見直す中で総合的に考える必要があり、将来的には、大台ヶ原ビジターセンターを拠点とした自然解説やセルフガイドのシステムの一部として検討していく必要がある。
- ・当面は、標識等の重要度に応じて、注意標識などの緊急性の高いものから改修を進めていくこととする。

2. 標識等の多言語化に関する方針（案）

- ・大台ヶ原における標識等の設置状況は、下表の通りである。
- ・それぞれの標識の種類および重要度に応じて以下のような方針で多言語化を検討する。
- ・また、今後は、QR コードを活用した地図情報の提供など、IT 技術と標識等を組み合わせた情報提供についても検討していくこととする。

大台ヶ原における標識等の設置状況および今後の多言語化の方針（案）

標識の種類		内容	設置数		多言語化の方針（案）
			東	西	
記名 標識	入口・公園名標識（I）	・公園名	1	1	・3ヶ国語（英・中・韓）併記の標識とする。
	資源名標識（SM）	・地名、施設名、景観資源の名称等	3	7	・英語併記の標識とする。
案内 標識	案内図標識（A）	・主な地名、施設、景観資源の位置と名称 ・現在地、スケール、方位 ・（※総合案内標識）上記に加えて、地域の状況、自然の案内、注意事項等	11	3	・特に重要な箇所（入口等）については、3ヶ国語併記とする。 ・その他については英語併記とする。
	誘導標識（Y）	・方面、方向及び距離 ・必要に応じて所要時間	17	42	・特に重要な箇所（分岐点、迷いやすい箇所等）については、3ヶ国語併記とする。 ・重要な箇所については英語併記とする。
解説標識（K）		・解説図、写真、説明文	37	2	・特に重要な箇所（自然再生の説明等）については、英語併記とする。
注意標識（C）		・注意、警戒、禁止、マナー	29	11	・特に重要な箇所（自然再生の説明等）については、3ヶ国語併記とする。 ・その他の箇所については英語併記とする。

平成 27 年度西大台利用調整地区の運用計画（案）

1 利用調整を行う期間

平成 27 年 4 月 23 日（木）から 11 月 30 日（月）まで

※県道大台ヶ原公園川上線（大台ヶ原ドライブウェイ）の開通期間

なお、閉鎖日は冬期通行止めのため変更の可能性はある。

2 1 日あたりの立入可能な人数の上限

○ 利用集中期の土日祝日 : 100 人

○ 利用集中期の平日、利用集中期以外の土日祝日 : 50 人

○ 上記以外の平日 : 30 人

※ 1 団体（2 人以上を団体とする）の利用申込みは、最大 10 人まで

3 利用集中期

過去の台ヶ原の利用実態に基づき、以下の期間を利用集中期として設定する。

○ 春期：平成 27 年 4 月 25 日（土）から 6 月 14 日（日）まで

○ 夏期：平成 27 年 8 月 8 日（土）から 8 月 16 日（日）まで

○ 秋期：平成 27 年 9 月 26 日（土）から 11 月 3 日（火・祝）まで

平成27年度 利用集中期の設定(案)

4月							5月							6月							7月							
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
												1	2	3	1	2	3	4	5	6	7							
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31			

8月							9月							10月							11月										
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
					1	2						1	2	3	4						1	2	3	4							
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8				
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15				
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22				
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29				
31																					30										

朱書きは土日祝日

利用集中期

4 指定認定機関

上北山村商工会が、指定認定機関として、引き続き立入認定事務を行う。平成 27 年度の立入については、平成 27 年 1 月 22 日（木）から受付を開始する。

5 認定手続きの変更点

平成 27 年度から、新たに山上における当日認定事務を開始する。

6 事前レクチャー

実施期間：平成 27 年 4 月 23 日（木）から 11 月 30 日（月）まで

実施場所：大台ヶ原ビジターセンターレクチャールーム

上北山村商工会

実施者：近畿地方環境事務所（請負事業者含む）・上北山村商工会

時間割：以下の時間割を予定

<事前レクチャー時間割>

大台ヶ原ビジターセンター		
	利用集中期の平日・ 通常期のすべての日	利用集中期の土日祝日
①	無し	7：30～8：00
②	8：30～9：00	8：30～9：00
③	9：30～10：00	9：30～10：00
④	10：30～11：00	10：30～11：00
⑤	11：00～11：30	11：00～11：30
⑥	11：30～12：00	11：30～12：00
⑦	16：00～16：30	16：00～16：30

上北山村商工会	
利用集中期、通常期の平日	
①	無し
②	8：30～9：00
③	9：30～10：00
④	10：30～11：00
⑤	11：30～12：00
⑥	16：00～16：30

(8/13～8/16を除く)

7 巡視

実施期間：平成 27 年 4 月 23 日（木）から 11 月 30 日（月）まで毎日

実施者：環境省（自然保護官及びアクティブレンジャーによる巡視の他、環境省の巡視業務を請け負った者が職員の指示のもと複数人数で実施）

8 モニタリング

利用調整の効果について評価を行う際の基礎資料を得るため、以下の事項について継続調査（モニタリング調査）を実施。調査結果は大台ヶ原自然再生推進委員会において評価を行う。

＜モニタリング調査項目＞

- ・ 自然環境の状態に関する事項：植物相、動物相調査
- ・ 利用の在り方に関する事項：利用実態等に関する調査を実施

利用調整期間終了後、各種モニタリング調査及び運用結果について整理・分析し、本協議会において報告・公表する。

9 普及啓発

西大台利用調整地区の制度について、引き続き報道機関への情報提供・取材協力、ホームページの運用や広報資料の配布、展示会への参加等による幅広い普及啓発を実施する。

10 自然ふれあいプログラムの提供等

エコツアーの実施等、周辺地域の関係機関等と連携したプログラムを検討する。

大台ヶ原の現状



後継樹やスズタケ等下層植生が衰退したブナ林



ニホンジカ(以下「シカ」という)により剥皮を受けたウラジロモミ



林床に生育するミヤコザサ



立ち枯れた木々が広がる正木ヶ原

自然再生推進計画

■ 長期目標

現存する森林生態系の保全および天然更新により
後継樹が健全に育成される森林生態系の再生。

- 1期計画が平成17年に策定され、2期計画は21年に策定された。
平成26年度から自然再生推進計画2014に基づいて実施。

■ 4つの視点からの取組



自然再生推進計画



様々な防鹿柵の設置

そして…シカの個体数調整 等



剥皮防止ネットの設置



各種モニタリング

シカの捕獲



■ 制約条件

✓ 多くの利用者がある中での捕獲

(年間8万6千人強の利用者が訪れる！)

→ 観光シーズン中は装薬銃による捕獲ができない

→ 捕獲シーンや捕獲されたシカが見えないよう配慮

✓ 限られた範囲内で繰り返し捕獲する必要

✓ 東大台地区は車でのアクセスが不可

✓ 様々な種類の動物が生息

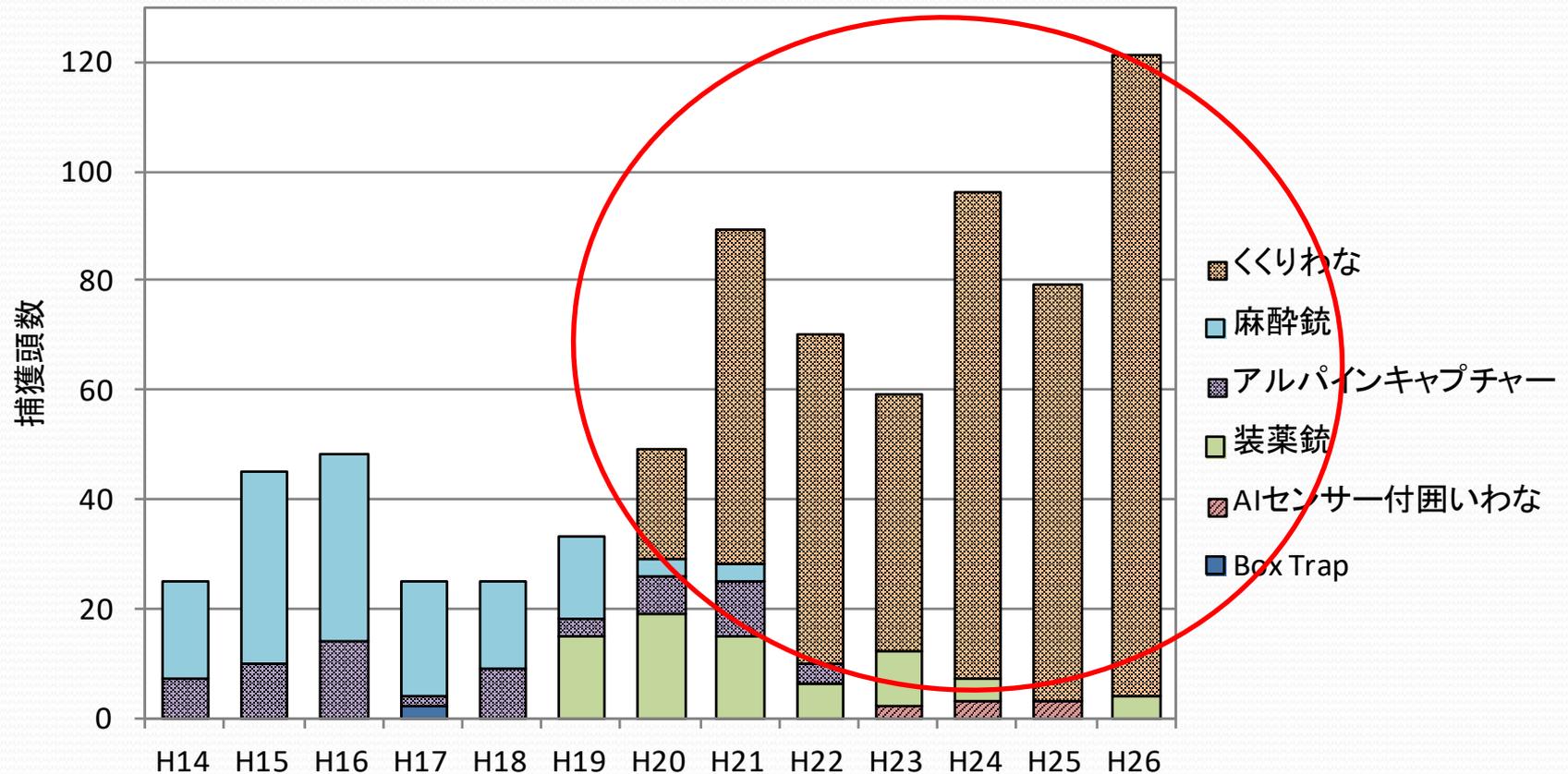
→ わなを用いると錯誤捕獲のおそれがあるため、
毎日の見回り、放獣体制の整備が必要

シカの捕獲

■ 制約条件

- 捕獲シーンや捕獲されたシカが見えないよう配慮
- ✓ 限られた範囲内で繰り返し捕獲する必要
- ✓ 東大台地区は車でのアクセスが不可

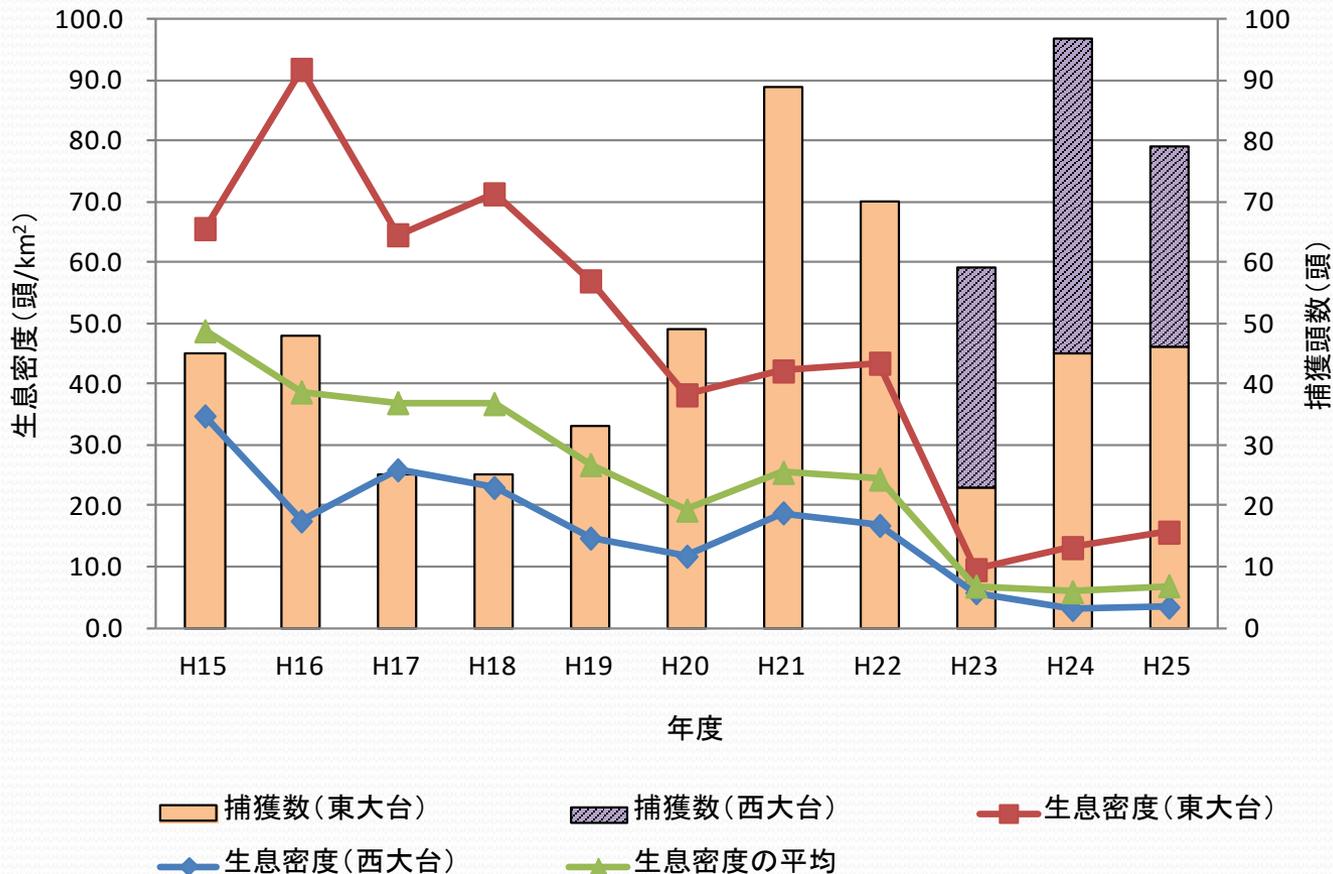
捕獲数の推移



くくりわなの導入により捕獲数が増加

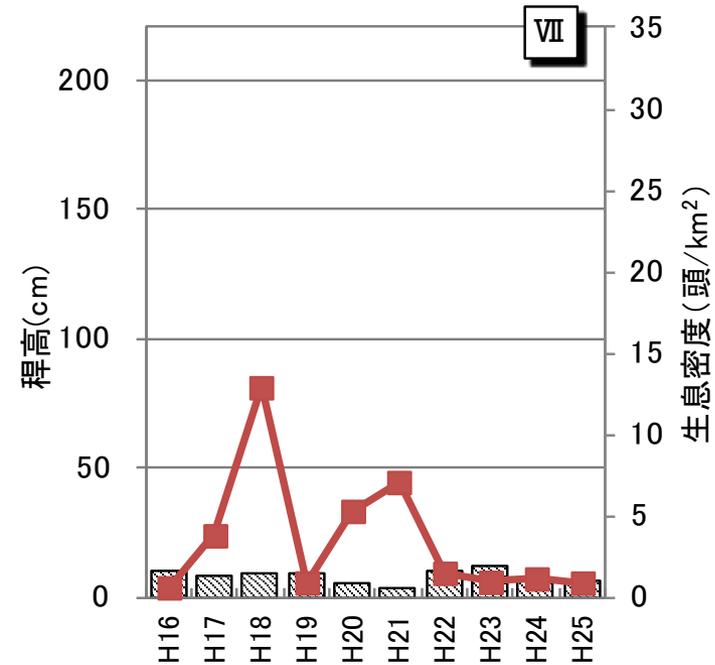
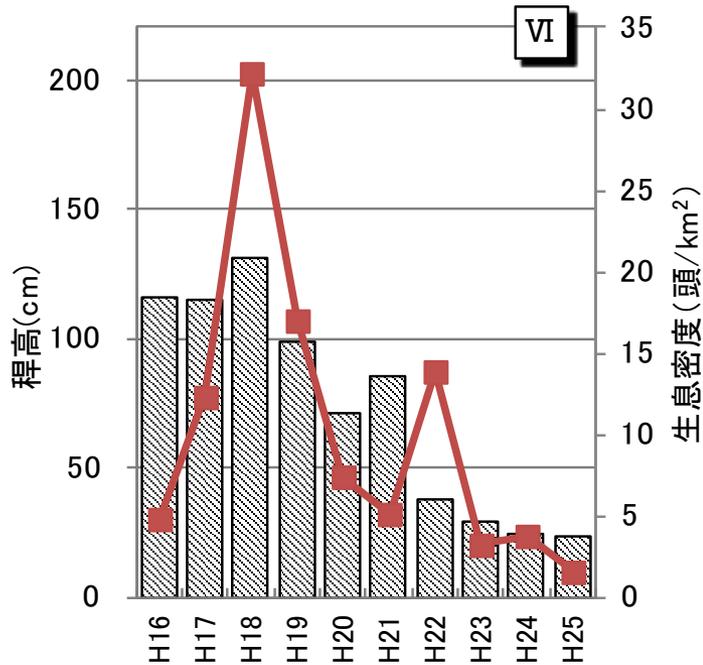
捕獲の効果

■ 糞粒法による生息密度と捕獲との関係



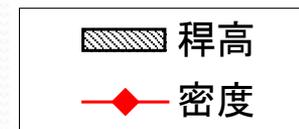
捕獲が
大幅な
密度低減に
寄与している

捕獲の効果



シカの生息密度とスズタケの稈高変化(ブナ-スズタケ植生)

- ・スズタケが高くない
- ・剥皮度上昇
- ・下層植生単純化
- ・林冠構成樹種の後継樹が生育していない ...等



シカが減っても未だに植生は回復していない！

今後の課題

- 高密度地域での捕獲
- 周辺からのシカの移入への対応
- H26は捕獲しても個体数が減らなかった??
さらなる生息密度低減(低密度管理)をどう
やって進めるか



今後、健全な森林生態系を目指すために

1. 森林生態系の保全・再生

- ・防鹿柵の設置や剥皮防止ネットの設置を継続

2. シカ個体群の保護管理

- ・スレジカをなるべく発生させないことが重要。ただ、スレジカの発生は避けられないので、複数の捕獲方法の組み合わせや新たな技術開発を行う。
- ・シカの移入に対応し、広域的な保護管理をするため、関係者と一層の連携強化。
- ・シカの適正生息密度を把握するための調査の継続及び新たな調査方法の検討。
- ・効果的にメスジカを捕獲する方法の検討

3. 生物多様性の保全・再生

- ・動植物を調査し、再生に向けた取組を検討・実施。

4. 持続可能な利用の推進

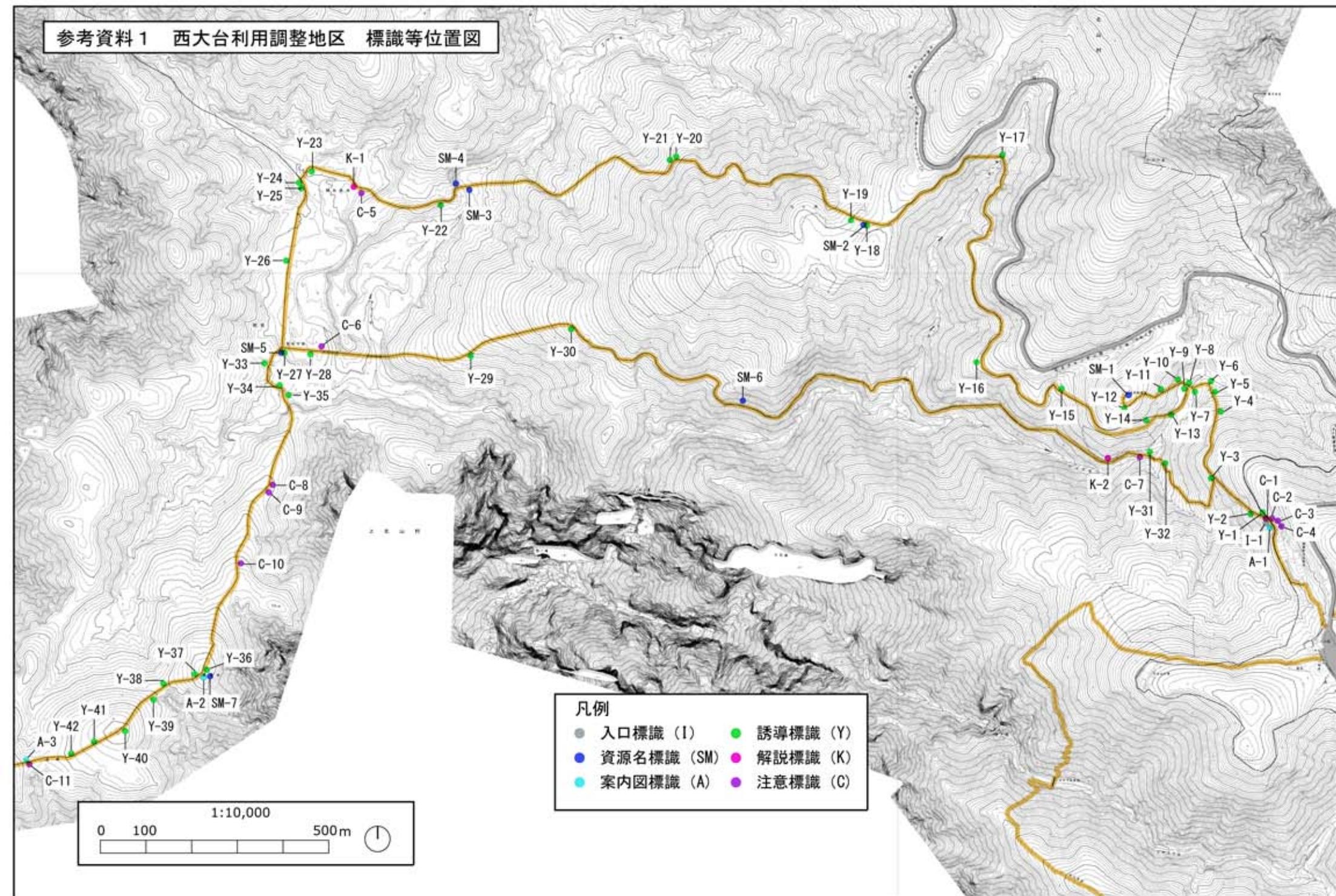
- ・盗掘等に対応するため、巡視や、利用者に対するレクチャーを実施
 - ・大台ヶ原の自然や自然再生事業について普及啓発
- 等々



昭和38年(1963年)菅沼孝之氏撮影

苔むす森を目指して

参考資料 1 西大台利用調整地区 標識等位置図



参考資料2 東大台地区 標識等位置図



凡例

- 入口標識 (I)
- 誘導標識 (Y)
- 資源名標識 (SM)
- 解説標識 (K)
- 案内図標識 (A)
- 注意標識 (C)

